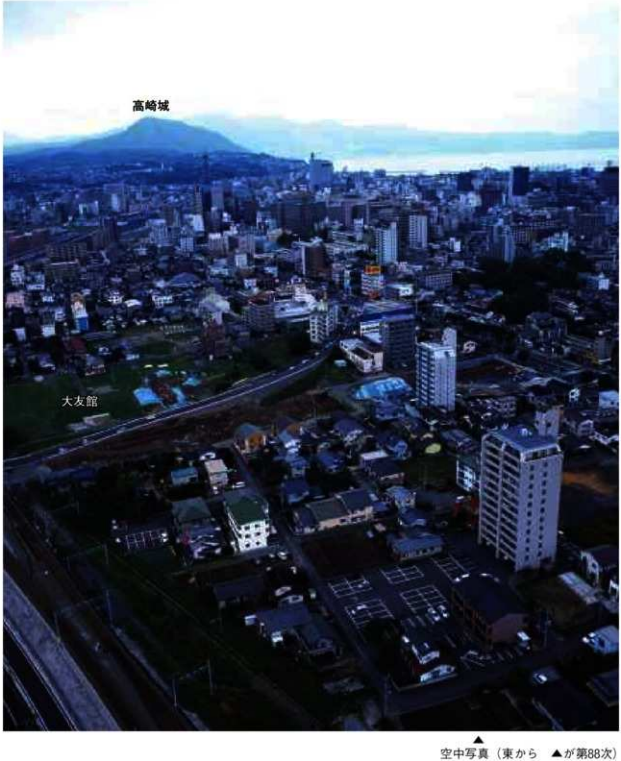
豊　後　府　内 17

中世大友府内町跡第88・95次調査

一般国道10号古国府拡幅事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(8)

（第２分冊）



空中写真（東から　▲が第88次）

第88次空中写真（南から）

第88次空中写真（東から）

第88次空中写真（上方が北）

第88次SD120（右）とSD142（左）

第88次SX206とSX208

灰匙（第88次SD120出土）

ガラス器（第88次SD120出土）

華南三彩象形置物（第88次SE070出土）

例　　言

1．本書は、大分市錦町３丁目に所在する中世大友府内町跡第11・72・76・80・88・95次調査の発掘調査報告書で、２分冊の内の第２冊目である（第11次から第80次調査は第１分冊に収載）。
2．発掘調査は一般国道10号古国府（こくぶ）拡幅事業の実施に伴い、国土交通省九州地方整備局大分河川国道事務所の委託を受けて、大分県教育委員会が実施した。
3．本書には中世大友府内町跡第88次と第95次調査の成果を掲載している。
4．中世大友府内町跡第88次調査は平成22年度に大成エンジニアリング株式会社、第95次調査は平成24年度に株式会社島田組に調査支援の委託を行い実施した。
5．遺物洗浄から遺物実測・トレースまでの整理作業については、平成23年度は株式会社イビソク、平成24年度は有限会社九州文化財総合研究所に委託し、実施した。
6．出土資料の分析については、放射性炭素年代測定は株式会社加速器分析研究所、蛍光X線分析は株式会社パレオ・ラボに委託して実施した。また、動物骨などの自然遺物の分析については、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財センターの御協力で実施した。
7．出土遺物、図面・写真資料は、大分県教育庁埋蔵文化財センター（大分市大字中判田字ビワノ門1977）において保管している。
8．本書で使用する方位はいずれも座標北である。測地基準には、中世大友府内町跡における過去の資料との連続性を考慮して日本測地系を使用している。
9．本書で使用する遺構略号は、以下の通りとする。
SD：溝、SK：土坑、SE：井戸、SF：街路、SP：柱穴および小穴、SB：掘立柱建物、SX：その他の遺構（不明遺構・集石遺構・整地層など）
10．本書で使用した出土遺物の分類については、以下の文献による。
青花　小野正敏「15～16世紀の染付碗・皿の分類と年代」（『貿易陶磁研究』№2　1982年）
青磁　上田秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類について」（『貿易陶磁研究』№2　1982年）
白磁　森田　勉「14～16世紀の白磁の分類について」（『貿易陶磁研究』№2　1982年）
備前系陶器
乗岡　実「中世備前焼甕（壺）の編年案」・「備前焼擂鉢の編年案」（『第３回中近世備前焼研究会資料付第１回・第２回研究資料』所収　2000年）
中国南部産焼締陶器鉢
吉田　寛「中世大友府内町跡出土の産地不明焼締陶器について」（『貿易陶磁研究』№28　2003年）
京都系土師器および土師質土器
塩地潤一「九州出土の京都系土師器皿」（『中近世土器の基礎研究』ⅩⅣ　1999年）
坂本嘉弘「中世大友府内町跡出土の土師質土器編年」（『豊後府内２』大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書第２集　2005年）
11．第11次調査区から第95次調査区において連続する同一遺構は、調査次ごとに異なる遺構番号のため、次頁にその対応関係を示しておく。
12．本書の執筆は、第６章を小柳和宏、第７章を染矢和徳、第９章を小柳と吉田寛がおこなった。また、第８章第１節は奈良文化財研究所、同第２節は株式会社加速器分析研究所、同第３節は株式会社パレオ・ラボの分析報告書である。
13．本書の編集は小柳和宏と染矢和徳が行った。

各調査区遺構番号対応表

	第88次	第95次	第11次	第80次	第72次
溝	SD004	SD270			
溝	SD071		SD048		
土坑	SK100	SK060			
溝	SD120		SD025	SD100（上層） SD101（下層）	SD025A
道路側溝	SD142		SD145	SD090	
溝	SD160		SD051	SD200	SD025B
溝	SD173		SD043		
溝	SD185	SD049			
溝	SD223		SD142	SD201	
溝	SD225		SD053	SD095	
溝	SD253		SD142	SD201	
井戸	SE441		SE152		
第２南北街路	第２南北街路		SF140	第２南北街路	

目　　次

巻頭図版

例言

目次

第１章　はじめに
第２章　位置と環境
第３章　中世大友府内町跡第11・76次調査
第４章　中世大友府内町跡第72次調査
第５章　中世大友府内町跡第80次調査
（第１章～第５章　第１分冊所収）

第６章　中世大友府内町跡第88次調査…… 1
第１節　調査の概要と基本層序…… 1
1　調査の経過…… 1
2　調査概要…… 3
3　基本層序…… 6
第２節　遺構と遺物……10
1　島津氏侵攻以後（1586年～）の遺構・遺物……10
(1)溝 ……10
(2)土坑 ……20
(3)井戸 ……31
(4)その他 ……41
2「大規模施設」段階（1570年頃～1586年頃）の遺構・遺物……62
(1)道路 ……62
(2)溝 ……73
(3)土坑 …… 215
(4)その他 …… 224
3「寺院（称名寺）」段階（1341年～1560年代）の遺構・遺物…… 239
(1)溝 …… 239
(2)土坑 …… 276
(3)井戸 …… 339
4　時期不明の遺構…… 341
5　柱穴出土の遺物…… 343
第３節　小　結…… 345
1　遺構について…… 345
(1)第Ⅰ段階の遺構 …… 346
(2)第Ⅱ段階の遺構 …… 347
(3)第Ⅲ段階の遺構 …… 349
2　遺物について…… 350

第７章　中世大友府内町跡第95次調査…… 352
第１節　調査の概要…… 352
第２節　遺構と遺物…… 352
1　遺構の概要と基本層序…… 352
2　区域１第２面の遺構・遺物…… 364
(1)溝 …… 364
3　区域１第３面の遺構・遺物…… 367
(1)溝 …… 367
4　区域１のその他の出土遺物…… 367
(1)柱穴 …… 367
(2)土坑 …… 367
(3)包含層 …… 367
5　区域２第１面・第２面（16世紀）の遺構・遺物…… 369
(1)土坑 …… 369
(2)溝 …… 371
6　区域２第３面（15世紀）の遺構・遺物…… 379
(1)土坑 …… 379
(2)柱穴列 …… 381
(3)掘立柱建物 …… 382
7　区域２第４面・第５面（15世紀以前）の遺構・遺物…… 385
(1)土坑 …… 385
(2)溝 …… 385
(3)井戸 …… 386
8　区域２のその他の出土遺物…… 387
(1)柱穴 …… 387
(2)一括遺物 …… 387
第３節　小結…… 389

第８章　自然科学分析…… 390
第１節　中世大友府内町跡から出土した動物遺存体…… 390
1　中世大友府内町跡から出土した貝類について…… 392
1）資料の概要…… 392
2）他遺跡との比較から見た特徴…… 393
2　中世大友府内町跡から出土した鳥類について…… 395
1）資料の概要と各分類群の記載…… 395
a）キジ科（ニワトリとキジ・ヤマドリを含む）…… 395
b）カモ亜科（マガモ属を含む）…… 397
c）その他の鳥類…… 397
2）地点別の特徴…… 398
3　中世大友府内町跡から出土した魚類・両生類・爬虫類・哺乳類について…… 398
1）種類別の特徴…… 398
a）魚類…… 398
b）両生類・爬虫類…… 402

c）哺乳類…… 402
2）地点別の特徴…… 411
4　中世大友府内町跡から出土した動物遺存体の安定同位体化学分析…… 412
1）試料の概要と方法…… 412
a）骨コラーゲン抽出…… 412
b）炭素・窒素安定同位体測定…… 413
c）酸素安定同位体測定…… 413
2）結果および考察…… 414
5　中世大友府内町跡における動物利用…… 415
1）ニワトリの形質とその利用…… 415
2）イノシシ・ブタの形質とその利用…… 416
3）ウシとウマの形質とその利用…… 419
4）大友府内町住民の食生活…… 420
5）まとめ…… 422
第2節　中世大友府内町跡における放射性炭素年代（AMS測定）…… 437
1　測定対象試料…… 437
2　測定の意義…… 437
3　化学処理工程…… 437
(1)葉、木片、炭化物、木炭の化学処理 …… 437
(2)貝殻の化学処理 …… 437
4　測定方法…… 437
5　算出方法…… 437
6　測定結果…… 438
第3節　中世大友府内町跡第88次調査出土遺物の蛍光X線分析…… 443
1　金属製品およびガラス製品…… 443
(1)はじめに …… 443
(2)試料と方法 …… 443
(3)分析結果 …… 443
(4)考察 …… 444
(5)おわりに …… 445
2　坩堝…… 445
(1)はじめに …… 445
(2)試料と方法 …… 445
(3)分析結果 …… 446
(4)考察 …… 446
(5)おわりに …… 446

第9章　総括…… 450

遺物一覧表…… 459
写真図版…… 509
索引…… 696
報告書抄録…… 700

挿　図　目　次

第６章

第１図　中世大友府内町跡第88次調査区位置図（1/2,000）…… 1
第２図　遺構配置図（1/250）…… 2
第３図　調査区北壁土層図（1/80）…… 6
第４図　調査区西壁土層図（1/80）…… 8
第５図　SD002、SD003A、SD004、SD005(1/200)…10
第６図　SD002（1/40）……11
第７図　SD002出土遺物（1/3）……11
第８図　SD003出土遺物（1/3）……11
第９図　SD004（1/40）……12
第10図　SD004出土遺物（1/3）……12
第11図　SD031 SD032（1/40）……14
第12図　SD031出土遺物（1/3）……15
第13図　SD032出土遺物（1/3,1/4）……15
第14図　SD034（1/40）……16
第15図　SD034出土遺物（1/3）……17
第16図　SD043（1/40）……17
第17図　SD043出土遺物（1/3）……17
第18図　SD044（1/60）……18
第19図　SD073（1/80）……19
第20図　SD073出土遺物（1/3）……19
第21図　SK008（1/40）……20
第22図　SK008出土遺物（1/3,1/4）……21
第23図　SK009（1/40）……21
第24図　SK009出土遺物（1/3）……21
第25図　SK011（1/40）……22
第26図　SK011出土遺物（1/3）……22
第27図　SK069（1/40）……22
第28図　SK069出土遺物（1/3）……22
第29図　SK074　SK075（1/40）……23
第30図　SK075出土遺物（1/1,1/3,1/4）……23
第31図　SK093（1/40）……24
第32図　SK093出土遺物（1/3）……24
第33図　SK094（1/40）……24
第34図　SK094（1/3,1/4）……25
第35図　SK096（1/40）……25
第36図　SK096出土遺物（1/3）……25
第37図　SK097（1/40）……25
第38図　SK098（1/40）……26
第39図　SK098（1/3）……26
第40図　SK099（1/3）……26
第41図　SK100（1/40）……26
第42図　SK100出土遺物（1/3,1/4）……27
第43図　SK111（1/40）……27
第44図　SK111出土遺物（1/3）……28
第45図　SK116（1/40）……28
第46図　SK116出土遺物（1）（1/3）……28
第47図　SK116出土遺物（2）（1/4,1/8）……29
第48図　SK131（1/40）……29
第49図　SK131出土遺物（1/3,1/4）……30
第50図　SK147（1/40）……31
第51図　SK147出土遺物（1/3）……31
第52図　SK150（1/40）……31
第53図　SK150出土遺物（1/3）……31
第54図　SE070（1/80）……32
第55図　SE070出土遺物（1）（1/3）……34
第56図　SE070出土遺物（2）（1/3）……35
第57図　SE070出土遺物（3）（1/3）……36
第58図　SE070出土遺物（4）（1/3）……37
第59図　SE070出土遺物（5）（1/4）……38
第60図　SE070出土遺物（6）（1/4）……39
第61図　SE070出土遺物（7）（1/1,1/2,1/3,1/4,1/8）……40
第62図　SX178（1/60）……41
第63図　SX178出土遺物（1）（1/3,1/4）……42
第64図　SX178出土遺物（2）（1/4）……43
第65図　SX178出土遺物（3）（1/4）……44
第66図　SX178出土遺物（4）（1/4）……45
第67図　SX178出土遺物（5）（1/4）……46
第68図　SX178出土遺物（6）（1/4）……47
第69図　SX178出土遺物（7）（1/4）……48
第70図　SX178出土遺物（8）（1/4）……49
第71図　SX178出土遺物（9）（1/4）……50
第72図　SX178出土遺物（10）（1/4）……51
第73図　SX178出土遺物（11）（1/4）……52
第74図　包含層出土遺物（1）（1/3）……54
第75図　包含層出土遺物（2）（1/3）……55
第76図　包含層出土遺物（3）（1/3）……56
第77図　包含層出土遺物（4）（1/3）……57

第78図　包含層出土遺物（5）（1/2,1/3,1/4）……58
第79図　包含層出土遺物（6）（1/1）……59
第80図　包含層出土遺物（7）（1/1）……60
第81図　包含層出土遺物（8）（1/2,1/3）……61
第82図　道路遺構の変遷……63
第83図　第2南北街路出土遺物（1）（1/3）……65
第84図　第2南北街路出土遺物（2）（1/3）……66
第85図　第2南北街路出土遺物（3）（1/3）……67
第86図　第2南北街路出土遺物（4）（1/3）……68
第87図　第2南北街路出土遺物（5）（1/3）……69
第88図　第2南北街路出土遺物（6）（1/3,1/4）…70
第89図　第2南北街路出土遺物（7）（1/1,1/3）…71
第90図　第2南北街路出土遺物（8）（1/2）……72
第91図　SD033A　SD033B　SD174　SD194
（1/100）……73
第92図　SD033出土遺物（1/3）……74
第93図　SD033A出土遺物（1）（1/3）……75
第94図　SD033A出土遺物（2）（1/3）……76
第95図　SD033A出土遺物（3）（1/3,1/4）……77
第96図　SD033A出土遺物（4）（1/4）……78
第97図　SD033A出土遺物（5）（1/4）……79
第98図　SD033A出土遺物（6）（1/4）……80
第99図　SD033A出土遺物（7）（1/4）……81
第100図　SD033A出土遺物（8）（1/3,1/4）……82
第101図　SD033A出土遺物（9）（1/1,1/8）……83
第102図　SD035（1/40）……84
第103図　SD035出土遺物（1/1,1/3,1/4）……85
第104図　SD071（1/100）……86
第105図　SD071出土遺物（1）（1/3）……87
第106図　SD071出土遺物（2）（1/3）……88
第107図　SD071出土遺物（3）（1/3）……89
第108図　SD071出土遺物（4）（1/4）……90
第109図　SD071出土遺物（5）（1/1,1/3,1/4）……91
第110図　SD120（1/150）……92
第111図　SD120（a）土層図（1/80）……93
第112図　SD120（b）土層図（1/80）……94
第113図　SD120（c）土層図（1/80）……95
第114図　SD120遺物出土状態詳細図（1）（1/60）…96
第115図　SD120遺物出土状態詳細図（2）（1/60）…97
第116図　SD120遺物出土状態詳細図（3）（1/60）…98
第117図　SD120出土遺物土層断面投影図（1/50）…99
第118図　SD120出土遺物（1）（1/3）…… 106
第119図　SD120出土遺物（2）（1/3）…… 107
第120図　SD120出土遺物（3）（1/3）…… 108
第121図　SD120出土遺物（4）（1/3）…… 109
第122図　SD120出土遺物（5）（1/3）…… 110
第123図　SD120出土遺物（6）（1/3）…… 111
第124図　SD120出土遺物（7）（1/3）…… 112
第125図　SD120出土遺物（8）（1/3）…… 113
第126図　SD120出土遺物（9）（1/3）…… 114
第127図　SD120出土遺物（10）（1/3）…… 115
第128図　SD120出土遺物（11）（1/3）…… 116
第129図　SD120出土遺物（12）（1/3）…… 117
第130図　SD120出土遺物（13）（1/3）…… 118
第131図　SD120出土遺物（14）（1/3）…… 119
第132図　SD120出土遺物（15）（1/3）…… 120
第133図　SD120出土遺物（16）（1/3）…… 121
第134図　SD120出土遺物（17）（1/3）…… 122
第135図　SD120出土遺物（18）（1/3）…… 123
第136図　SD120出土遺物（19）（1/3）…… 124
第137図　SD120出土遺物（20）（1/3）…… 125
第138図　SD120出土遺物（21）（1/3）…… 126
第139図　SD120出土遺物（22）（1/3）…… 127
第140図　SD120出土遺物（23）（1/3）…… 128
第141図　SD120出土遺物（24）（1/3）…… 129
第142図　SD120出土遺物（25）（1/3）…… 130
第143図　SD120出土遺物（26）（1/3）…… 131
第144図　SD120出土遺物（27）（1/3）…… 132
第145図　SD120出土遺物（28）（1/3）…… 133
第146図　SD120出土遺物（29）（1/3）…… 134
第147図　SD120出土遺物（30）（1/3）…… 135
第148図　SD120出土遺物（31）（1/3）…… 136
第149図　SD120出土遺物（32）（1/3）…… 137
第150図　SD120出土遺物（33）（1/3）…… 138
第151図　SD120出土遺物（34）（1/3）…… 139
第152図　SD120出土遺物（35）（1/3）…… 140
第153図　SD120出土遺物（36）（1/3）…… 141
第154図　SD120出土遺物（37）（1/3）…… 142
第155図　SD120出土遺物（38）（1/3）…… 143
第156図　SD120出土遺物（39）（1/3）…… 144
第157図　SD120出土遺物（40）（1/3）…… 145
第158図　SD120出土遺物（41）（1/3）…… 146
第159図　SD120出土遺物（42）（1/3）…… 147
第160図　SD120出土遺物（43）（1/3）…… 148

第161図　SD120出土遺物（44）（1/3）…… 149
第162図　SD120出土遺物（45）（1/3）…… 150
第163図　SD120出土遺物（46）（1/3）…… 151
第164図　SD120出土遺物（47）（1/3）…… 152
第165図　SD120出土遺物（48）（1/3）…… 153
第166図　SD120出土遺物（49）（1/3）…… 154
第167図　SD120出土遺物（50）（1/3）…… 155
第168図　SD120出土遺物（51）（1/4）…… 156
第169図　SD120出土遺物（52）（1/4）…… 157
第170図　SD120出土遺物（53）（1/4）…… 158
第171図　SD120出土遺物（54）（1/4）…… 159
第172図　SD120出土遺物（55）（1/4）…… 160
第173図　SD120出土遺物（56）（1/4）…… 161
第174図　SD120出土遺物（57）（1/4）…… 162
第175図　SD120出土遺物（58）（1/4）…… 163
第176図　SD120出土遺物（59）（1/4）…… 164
第177図　SD120出土遺物（60）（1/4）…… 165
第178図　SD120出土遺物（61）（1/4）…… 166
第179図　SD120出土遺物（62）（1/4）…… 167
第180図　SD120出土遺物（63）（1/4）…… 168
第181図　SD120出土遺物（64）（1/3）…… 169
第182図　SD120出土遺物（65）（1/3）…… 170
第183図　SD120出土遺物（66）（1/3）…… 171
第184図　SD120出土遺物（67）（1/4）…… 172
第185図　SD120出土遺物（68）（1/4）…… 173
第186図　SD120出土遺物（69）（1/4）…… 174
第187図　SD120出土遺物（70）（1/4）…… 175
第188図　SD120出土遺物（71）（1/1，2/3，1/2）… 176
第189図　SD120出土遺物（72）（1/2）…… 177
第190図　SD120出土遺物（73）（1/3）…… 178
第191図　SD120出土遺物（74）（1/3）…… 179
第192図　SD120出土遺物（75）（1/3）…… 180
第193図　SD120出土遺物（76）（1/3）…… 181
第194図　SD120出土遺物（77）（1/3）…… 182
第195図　SD120出土遺物（78）（1/3）…… 183
第196図　SD120出土遺物（79）（1/3）…… 184
第197図　SD120出土遺物（80）（1/3）…… 185
第198図　SD120出土遺物（81）（1/3）…… 186
第199図　SD120出土遺物（82）（1/3）…… 187
第200図　SD120出土遺物（83）（1/3）…… 188
第201図　SD120出土遺物（84）（1/3）…… 189
第202図　SD120出土遺物（85）（1/3，1/8）…… 190
第203図　SD120出土遺物（86）（1/1）…… 191
第204図　SD142（1/80）…… 193
第205図　SD142出土遺物（1）（1/3）…… 194
第206図　SD142出土遺物（2）（1/3）…… 195
第207図　SD142出土遺物（3）（1/3）…… 196
第208図　SD142出土遺物（4）（1/3）…… 197
第209図　SD142出土遺物（5）（1/3）…… 198
第210図　SD142出土遺物（6）（1/3，1/4）…… 199
第211図　SD142出土遺物（7）（1/2，1/4）…… 200
第212図　SD159（1/40）…… 201
第213図　SD159出土遺物（1/3）…… 201
第214図　SD167（1/40）…… 202
第215図　SD167出土遺物（1/3）…… 202
第216図　SD161（1/40）…… 203
第217図　SD161出土遺物（1/1，1/2，1/3）…… 203
第218図　SD185（1/80）…… 204
第219図　SD174出土遺物（1）（1/3）…… 205
第220図　SD174出土遺物（2）（1/3，1/4）…… 206
第221図　SD185出土遺物（1/3）…… 207
第222図　SD193（1/40）…… 208
第223図　SD193出土遺物（1/3）…… 208
第224図　SD223 SD253（1/80）…… 209
第225図　SD223出土遺物（1）（1/3，1/4）…… 210
第226図　SD223出土遺物（2）（1/3，1/4）…… 211
第227図　SD352（1/40）…… 212
第228図　SD352出土遺物（1/3）…… 212
第229図　SD382　SD383（1/40）…… 213
第230図　SD382出土遺物（1/3，1/4）…… 213
第231図　SD383出土遺物（1/3）…… 213
第232図　SD437（1/40）…… 214
第233図　SD437出土遺物（1/2，1/3）…… 214
第234図　SK015（1/40）…… 215
第235図　SK015出土遺物（1/3）…… 215
第236図　SK149 SK207（1/40）…… 216
第237図　SK149出土遺物（1/3，1/4）…… 217
第238図　SK207出土遺物（1）（1/3，1/4，1/6）… 218
第239図　SK207出土遺物（2）（1/4）…… 219
第240図　SK207出土遺物（3）（1/4）…… 220
第241図　SK220（1/40）…… 221
第242図　SK220出土遺物（1/3）…… 221
第243図　SK320（1/40）…… 221
第244図　SK320出土遺物（1/3）…… 221

第245図　SK321（1/40）…… 222
第246図　SK321出土遺物（1/3）…… 222
第247図　SK322（1/40）…… 222
第248図　SK322出土遺物（1/3）…… 222
第249図　SK347（1/40）…… 222
第250図　SK347出土遺物（1/3）…… 222
第251図　SK400（1/40）…… 223
第252図　SK400出土遺物（1/3）…… 223
第253図　SK420（1/40）…… 223
第254図　SK420出土遺物（1/3）…… 223
第255図　SX206、SX208とSK207、SD033Aの位置関係 …… 224
第256図　SX206、SX208検出状況（1/40）…… 225
第257図　SX206（1/40）…… 226
第258図　SX208（1/40）…… 227
第259図　SX206出土遺物（1）（1/3,1/8）…… 228
第260図　SX206出土遺物（2）（1/8）…… 229
第261図　SX208出土遺物（1/3,1/8）…… 229
第262図　SX310（1/40）…… 231
第263図　SX310出土遺物（1）（1/3）…… 232
第264図　SX310出土遺物（2）（1/3）…… 233
第265図　SX310出土遺物（3）（1/3）…… 234
第266図　SX310出土遺物（4）（1/4）…… 235
第267図　SX310出土遺物（5）（1/4）…… 236
第268図　SX310出土遺物（6）（1/4）…… 237
第269図　SX310出土遺物（7）（1/3,1/4）…… 238
第270図　SD033B（1/80）…… 239
第271図　SD033B出土遺物（1/1,1/3,1/4）…… 240
第272図　SD060A SD060B（1/80）…… 241
第273図　SD060出土遺物（1/3）…… 241
第274図　SD060A出土遺物（1）（1/3）…… 242
第275図　SD060A出土遺物（2）（1/3,1/4）…… 243
第276図　SD060A出土遺物（3）（1/1,1/4）…… 244
第277図　SD060A出土遺物（4）（1/2,1/8）…… 245
第278図　SD060B出土遺物（1/3,1/4）…… 246
第279図　SD156 SD173（1/100）…… 247
第280図　SD156出土遺物（1）（1/3）…… 249
第281図　SD156出土遺物（2）（1/3）…… 250
第282図　SD156出土遺物（3）（1/3）…… 251
第283図　SD156出土遺物（4）（1/3）…… 252
第284図　SD156出土遺物（5）（1/3）…… 253
第285図　SD156出土遺物（6）（1/3,1/4）…… 254
第286図　SD156出土遺物（7）（1/1,1/2,1/3,1/4,1/8）…… 255
第287図　SD160（1/200）…… 256
第288図　SD160出土遺物（1）（1/3）…… 257
第289図　SD160出土遺物（2）（1/3）…… 258
第290図　SD160出土遺物（3）（1/3）…… 259
第291図　SD160出土遺物（4）（1/3）…… 260
第292図　SD160出土遺物（5）（1/1,1/3,1/4）…… 261
第293図　SD160出土遺物（6）（1/8）…… 262
第294図　SD162（1/100）…… 262
第295図　SD162出土遺物（1）（1/3）…… 263
第296図　SD162出土遺物（2）（1/3,1/4）…… 264
第297図　SD162出土遺物（3）（1/1,1/2,1/4）…… 265
第298図　SD173出土遺物（1）（1/3）…… 267
第299図　SD173出土遺物（2）（1/2,1/3,1/4）…… 268
第300図　SD181（1/40）…… 269
第301図　SD181出土遺物（1）（1/3）…… 270
第302図　SD181出土遺物（2）（1/3,1/4）…… 271
第303図　SD211（1/40）…… 271
第304図　SD211出土遺物（1/3）…… 272
第305図　SD224（1/40）…… 272
第306図　SD224出土遺物（1/3）…… 272
第307図　SD225（1/80）…… 273
第308図　SD225出土遺物（1）（1/3）…… 274
第309図　SD225出土遺物（2）（1/3）…… 275
第310図　SD439（1/40）…… 275
第311図　SD439出土遺物（1/3）…… 275
第312図　SK061（1/100）…… 277
第313図　SK061出土遺物（1）（1/3）…… 278
第314図　SK061出土遺物（2）（1/3）…… 279
第315図　SK061出土遺物（3）（1/3）…… 280
第316図　SK061出土遺物（4）（1/3）…… 281
第317図　SK061出土遺物（5）（1/3）…… 282
第318図　SK061出土遺物（6）（1/3）…… 283
第319図　SK061出土遺物（7）（1/3）…… 284
第320図　SK061出土遺物（8）（1/3）…… 285
第321図　SK061出土遺物（9）（1/4）…… 286
第322図　SK061出土遺物（10）（1/4）…… 287
第323図　SK061出土遺物（11）（1/4）…… 288
第324図　SK061出土遺物（12）（1/4）…… 289
第325図　SK061出土遺物（13）（1/4）…… 290
第326図　SK061出土遺物（14）（1/4）…… 291

第327図　SK061出土遺物（15）（1/4）…… 292
第328図　SK061出土遺物（16）（1/4）…… 293
第329図　SK061出土遺物（17）（1/4）…… 294
第330図　SK061出土遺物（18）（1/4）…… 295
第331図　SK061出土遺物（19）（1/4）…… 296
第332図　SK061出土遺物（20）（1/4）…… 297
第333図　SK061出土遺物（21）（1/4）…… 298
第334図　SK061出土遺物（22）（1/4）…… 299
第335図　SK061出土遺物（23）（1/4）…… 300
第336図　SK061出土遺物（24）（1/4）…… 301
第337図　SK061出土遺物（25）（1/4）…… 302
第338図　SK061出土遺物（26）（1/4）…… 303
第339図　SK061出土遺物（27）（1/4）…… 304
第340図　SK061出土遺物（28）（1/4）…… 305
第341図　SK061出土遺物（29）（1/4）…… 306
第342図　SK061出土遺物（30）（1/4）…… 307
第343図　SK061出土遺物（31）（1/4）…… 308
第344図　SK061出土遺物（32）（1/4）…… 309
第345図　SK061出土遺物（33）（1/4）…… 310
第346図　SK061出土遺物（34）（1/4）…… 311
第347図　SK061出土遺物（35）
（1/1,1/2,1/3,1/4,1/8）…… 312
第348図　SK101（1/40）…… 313
第349図　SK101出土遺物（1）（1/3）…… 314
第350図　SK101出土遺物（2）（1/3）…… 315
第351図　SK101出土遺物（3）（1/4）…… 316
第352図　SK101出土遺物（4）（1/4）…… 317
第353図　SK101出土遺物（5）（1/1,1/3）…… 318
第354図　SK148（1/40）…… 318
第355図　SK148出土遺物（1/2,1/3）…… 318
第356図　SK176（1/40）…… 319
第357図　SK176出土遺物（1）（1/3,1/4）…… 320
第358図　SK176出土遺物（2）（1/1,1/4）…… 321
第359図　SK186（1/40）…… 322
第360図　SK186出土遺物（1/1,1/3）…… 323
第361図　SK192出土遺物（1/3）…… 324
第362図　SK194（1/40）…… 324
第363図　SK194出土遺物（1/3）…… 324
第364図　SK197（1/40）…… 325
第365図　SK197出土遺物（1/3）…… 325
第366図　SK222（1/40）…… 326
第367図　SK222出土遺物（1/3）…… 326
第368図　SK230出土遺物（1/1,1/3）…… 326
第369図　SK235出土遺物（1/3）…… 326
第370図　SK230,SK235,SK236（1/40）…… 327
第371図　SK236出土遺物（1/3,1/4）…… 328
第372図　SK239（1/40）…… 328
第373図　SK239出土遺物（1/3）…… 328
第374図　SK250（1/40）…… 329
第375図　SK250出土遺物（1/3）…… 329
第376図　SK260（1/40）…… 330
第377図　SK260出土遺物（1/3,1/4）…… 330
第378図　SK300（1/40）…… 330
第379図　SK300出土遺物（1/3）…… 331
第380図　SK304（1/40）…… 332
第381図　SK304出土遺物（1/3）…… 332
第382図　SK305（1/40）…… 332
第383図　SK305出土遺物（1/4）…… 332
第384図　SK336（1/40）…… 333
第385図　SK336出土遺物（1/3）…… 333
第386図　SK345 SK346（1/40）…… 333
第387図　SK345出土遺物（1/3）…… 334
第388図　SK346出土遺物（1/3,1/4）…… 334
第389図　SK355（1/40）…… 334
第390図　SK355出土遺物（1/3）…… 334
第391図　SK356（1/40）…… 335
第392図　SK356出土遺物（1/3）…… 335
第393図　SK360（1/40）…… 335
第394図　SK360出土遺物（1/3）…… 335
第395図　SK435（1/40）…… 336
第396図　SK435出土遺物（1/3）…… 336
第397図　SK441（1/40）…… 336
第398図　SK441出土遺物（1/3）…… 336
第399図　SK442（1/40）…… 337
第400図　SK442出土遺物（1/3）…… 338
第401図　SE240（1/40）…… 339
第402図　SE240出土遺物（1/3）…… 340
第403図　SE440（1/40）…… 341
第404図　SX451（1/80）…… 342
第405図　SB452（1/60）…… 342
第406図　SX453（1/80）…… 342
第407図　柱穴出土遺物（1）（1/3）…… 343
第408図　柱穴出土遺物（2）（1/2,1/4,1/8）…… 344
第409図　第Ⅰ期の遺構 …… 346

第410図　第Ⅱ期の遺構 …… 348
第411図　第Ⅲ期の遺構 …… 349
第412図　「窓絵」香炉 …… 351

第７章

第413図　第95次調査区の位置（1/500）…… 352
第414図　中世大友府内町跡第95次発掘調査区
　　区域１遺構配置図（1/200）…… 360
第415図　中世大友府内町跡第95次発掘調査区
　　区域２遺構配置図（1/200）…… 361
第416図　区域1a-a'土層図（1/50）…… 362
第417図　区域2b-b'土層図（1/50）…… 363
第418図　SD310実測図（1/60）…… 364
第419図　SD241実測図（1/60）…… 365
第420図　SD250実測図（1/60）…… 365
第421図　SD295実測図（1/60）…… 365
第422図　SD241・SD250出土遺物（1/3）…… 366
第423図　SD266実測図（1/60）…… 366
第424図　SD270実測図（1/60）…… 366
第425図　SD325実測図（1/60）…… 367
第426図　SD325出土遺物（1/1,1/3）…… 368
第427図　SP296・SK235出土遺物及び一括出土遺物
　　（1/2,1/3,1/4）…… 368
第428図　SK017実測図（1/30）…… 369
第429図　SK017出土遺物（1/3）…… 369
第430図　SK060実測図（1/30）…… 370
第431図　SK060出土遺物（1/3）…… 371
第432図　SD049実測図（1/60）…… 372
第433図　SK049出土遺物①（1/3）…… 372
第434図　SD049出土遺物②（1/3）…… 373
第435図　SD049出土遺物③（1/3）…… 374
第436図　SD049出土遺物④（1/1,1/3）…… 375
第437図　SD035実測図（1/60）…… 376
第438図　SD035出土遺物①（1/3）…… 376
第439図　SD035出土遺物②（1/3）…… 377
第440図　SD028実測図（1/60）…… 377
第441図　SD028出土遺物（1/3）…… 378
第442図　SD027実測図（1/60）…… 379
第443図　SD027出土遺物（1/3）…… 379
第444図　SK074実測図（1/30）…… 379
第445図　SK074出土遺物①（1/3）…… 380
第446図　SK074出土遺物②（1/3）…… 381
第447図　柱穴列実測図（1/60）…… 381
第448図　SB401実測図（1/60）…… 382
第449図　SB402・SB403実測図（1/60）…… 383
第450図　SB003（SP089）出土遺物（1/3）…… 383
第451図　SB404実測図（1/60）…… 384
第452図　SB005（SP057）出土遺物（1/1）…… 384
第453図　SK177実測図（1/30）…… 385
第454図　SK177出土遺物（1/3,1/4）…… 385
第455図　SD133実測図（1/60）…… 386
第456図　SD133出土遺物（1/3）…… 386
第457図　SE181実測図（1/40）…… 386
第458図　SE182実測図（1/40）…… 387
第459図　SE182出土遺物（1/3）…… 387
第460図　柱穴出土遺物（1/3）…… 388
第461図　柱穴及び一括出土遺物（1/1,1/3）…… 389

第８章

第462図　キサゴの殻長分布 …… 392
第463図　ハマグリの殻高分布 …… 392
第464図　ニワトリの部位別出現頻度 …… 398
第465図　種類・部位不明の骨（スケールは5cm）… 411
第466図　哺乳類の組成（万寿寺の堀）…… 412
第467図　哺乳類の組成（称名寺跡地の堀）…… 412
第468図　動物遺存体の炭素・窒素安定同位体比… 414
第469図　動物遺存体の窒素安定同位体比 …… 414
第470図　動物遺存体の炭素安定同位体比 …… 414
第471図　イノシシ属の炭素・酸素安定同位体比… 414
第472図　ニワトリ足根中足骨の計測値分布 …… 416
第473図　ブタとイノシシの下顎骨
　　（左：試料No.3, 右：現生骨格標本）
　　コニカミノルタ製のVIVID910による
　　３次元計測画像 …… 417
第474図　ブタ（試料No.3）の上面と頬側面 …… 417
第475図　ウシ・ウマの体高分布 …… 419
第476図　ウシの四肢骨 …… 421
第477図　第88次調査ウシ出土状況 …… 421
第478図　イヌの頭部から頸部 …… 421
第479図　第88次調査イヌ出土状況 …… 421

第480図　SD120セクション（c）における
資料採取箇所 …… 442

第９章

第481図　遺構の変遷 …… 451
第482図　「大規模施設」の推定範囲 …… 453

表　目　次

各調査区遺構番号対応表

第６章

第１表　第88次調査遺構一覧表（１）…… 4
第２表　第88次調査遺構一覧表（２）…… 5
第３表　瓦当分類表…… 5

第７章

第４表　第95次調査遺構一覧表１…… 353
第５表　第95次調査遺構一覧表２…… 354
第６表　第95次調査遺構一覧表３…… 355
第７表　第95次調査遺構一覧表４…… 356
第８表　第95次調査遺構一覧表５…… 357
第９表　第95次調査遺構一覧表６…… 358
第10表　第95次調査遺構一覧表７…… 359

第８章

第11表　種名表…… 390
第12表　出土貝類集計表…… 393
第13表　鳥類集計表（１）…… 396
第14表　鳥類集計表（２）…… 397
第15表　鳥類計測値（１）…… 399
第16表　鳥類計測値（２）…… 400
第17表　魚類集計表…… 401
第18表　両生類・爬虫類集計表…… 402
第19表　哺乳類集計表（１）…… 403
第20表　哺乳類集計表（２）…… 404
第21表　イヌ頭蓋骨の計測値（㎜）…… 405
第22表　イヌ下顎骨の計測値（㎜）…… 405
第23表　イヌ四肢骨の計測値…… 405
第24表　イノシシ属下顎臼歯の計測値（㎜）
・咬耗指数…… 406
第25表　イノシシ属上顎臼歯の計測値（㎜）…… 407
第26表　イノシシ属の四肢骨の計測値（㎜）…… 407
第27表　ウシ四肢骨の計測値（㎜）…… 408
第28表　ウシ臼歯の計測値（㎜）:咬耗指数 …… 409
第29表　ウマ臼歯の計測値（㎜）…… 409
第30表　ウシ臼歯列長の計測値（㎜）…… 409
第31表　ウマ臼歯列長の計測値（㎜）…… 409
第32表　ウマ四肢骨の計測値（㎜）…… 410
第33表　ネコ四肢骨の計測値（㎜）…… 410
第34表　ニホンジカ四肢骨の計測値（㎜）…… 410
第35表　ニホンジカ臼歯の計測値（㎜）
・咬耗指数…… 410
第36表　動物遺存体の安定同位体分析結果…… 413
第37表　^{13}C濃度測定値（補正値）一覧表 …… 439
第38表　暦年較正年代一覧表(1)…… 439
第39表　暦年較正年代一覧表(2)…… 440
第40表　暦年補正グラフ…… 441
第41表　分析対象…… 443
第42表　金属製品の半定量分析結果(mass%) … 443
第43表　ガラス製品の半定量分析結果(mass%) … 444
第44表　分析対象…… 446
第45表　堆場付着物の半定量分析結果（mass%）447

遺　物　一　覧　表

遺物一覧表１（第88次調査）…… 459
遺物一覧表２（第88次調査）…… 460
遺物一覧表３（第88次調査）…… 461
遺物一覧表４（第88次調査）…… 462

遺物一覧表５（第88次調査）…… 463
遺物一覧表６（第88次調査）…… 464
遺物一覧表７（第88次調査）…… 465
遺物一覧表８（第88次調査）…… 466
遺物一覧表９（第88次調査）…… 467
遺物一覧表10（第88次調査）…… 468
遺物一覧表11（第88次調査）…… 469
遺物一覧表12（第88次調査）…… 470
遺物一覧表13（第88次調査）…… 471
遺物一覧表14（第88次調査）…… 472
遺物一覧表15（第88次調査）…… 473
遺物一覧表16（第88次調査）…… 474
遺物一覧表17（第88次調査）…… 475
遺物一覧表18（第88次調査）…… 476
遺物一覧表19（第88次調査）…… 477
遺物一覧表20（第88次調査）…… 478
遺物一覧表21（第88次調査）…… 479
遺物一覧表22（第88次調査）…… 480
遺物一覧表23（第88次調査）…… 481
遺物一覧表24（第88次調査）…… 482
遺物一覧表25（第88次調査）…… 483
遺物一覧表26（第88次調査）…… 484
遺物一覧表27（第88次調査）…… 485
遺物一覧表28（第88次調査）…… 486
遺物一覧表29（第88次調査）…… 487
遺物一覧表30（第88次調査）…… 488
遺物一覧表31（第88次調査）…… 489
遺物一覧表32（第88次調査）…… 490
遺物一覧表33（第88次調査）…… 491
遺物一覧表34（第88次調査）…… 492
遺物一覧表35（第88次調査）…… 493
遺物一覧表36（第88次調査）…… 494
遺物一覧表37（第88次調査）…… 495
遺物一覧表38（第88次調査）…… 496
遺物一覧表39（第88次調査）…… 497
遺物一覧表40（第88次調査）…… 498
遺物一覧表41（第88次調査）…… 499
遺物一覧表42（第88次調査）…… 500
遺物一覧表43（第88次調査）…… 501
遺物一覧表44（第88次調査）…… 502
遺物一覧表45（第88次調査）…… 503
遺物一覧表46（第95次調査）…… 504
遺物一覧表47（第95次調査）…… 505
遺物一覧表48（第95次調査）…… 506

写真図版目次

巻頭図版１
空中写真（東から）
巻頭図版２
第88次空中写真（南から）
巻頭図版３
第88次空中写真（東から）
巻頭図版４
第88次空中写真（上方が北）
巻頭図版５
第88次SD120（右）とSD142（左）
第88次SX206とSX208
巻頭図版６
灰匙（第88次SD120出土）
ガラス器（第88次SD120出土）
華南三彩象形置物（第88次SE070出土）

第８章
写真１　巻貝（１）…… 426
写真２　アカニシ・アワビ類…… 426
写真３　巻貝（２）…… 427
写真４　二枚貝…… 428
写真５　魚類…… 429
写真６　鳥類…… 430
写真７　ウマの下顎骨（乳歯側体・上面）…… 431
写真８　ウマの下顎骨（乳歯側体・側面）…… 431
写真９　ウマの下顎骨（成獣）…… 431
写真10　ウシの頭蓋骨…… 432
写真11　ウマの四肢骨…… 433
写真12　ウシの四肢骨…… 433
写真13　イノシシ属の頭蓋骨…… 434
写真14　イノシシ属の下顎骨…… 435
写真15　イノシシ属の四肢骨…… 436

写真１　坩堝の蛍光Ｘ線分析測定位置　(1) …… 448
写真２　坩堝の蛍光Ｘ線分析測定位置　(2) …… 449

写真図版１ …… 509
空中写真（右端中央が第88次調査区：東から）
調査区全景（完堀状況：南東から）
写真図版２ …… 510
調査区全景（完堀状況：南東から）
調査区全景（完堀状況：南から）
写真図版３ …… 511
調査区全景（完堀状況：南西から）
調査区全景（完堀状況：南西から）
写真図版４ …… 512
SD002（完堀状況）
SD003A·B（完堀状況）
写真図版５ …… 513
SD003A·B（完堀状況）
SD004（遺物出土状況）
写真図版６ …… 514
SD004（完堀状況）
SD005（完堀状況）
写真図版７ …… 515
SK008（遺物出土状況）
SK009（完堀状況）
写真図版８ …… 516
SK011（遺物出土状況）
SK011（完堀状況）
写真図版９ …… 517
SK015（土層断面）
SK015（遺物出土状況）
写真図版10 …… 518
SD031、SD032（遺物出土状況、右側がSD032）
SD031（遺物出土状況）
写真図版11 …… 519
SD032（遺物出土状況）
SD032（土層断面）
写真図版12 …… 520
SD033A（完堀状況）
SD033A・B、SD174（土層断面）
写真図版13 …… 521
SD033A（遺物出土状況）
SD033A（遺物出土状況）
写真図版14 …… 522
SD033A（土層断面）
SD033B（SE070によって切られている）
写真図版15 …… 523
SD033B（土層断面）
SD033B（土層断面）
写真図版16 …… 524
SD034（完堀状況）
SD035（完堀状況）
写真図版17 …… 525
SD035（遺物出土状況）
SD044（完堀状況）
写真図版18 …… 526
SD060A、B（完堀状況）
SD060A、B（完堀状況、左がSD060A：南から）
写真図版19 …… 527
SD060A、B（完堀状況）
SD060A、B（遺物出土状況、右側がSD060A）
写真図版20 …… 528
SD060A、B（完堀状況、左がSD060A：南から）
SD060B（遺物出土状況）
写真図版21 …… 529
SD060A、B（土層断面）
SD060A（土層断面）
写真図版22 …… 530
SD060C（完堀状況）
SD060C（完堀状況）
写真図版23 …… 531
SK061（遺物出土状況）
SK061（土層断面）
写真図版24 …… 532
SK061（土層断面）
SK061（土層断面）
写真図版25 …… 533
SK069（遺物出土状況）
SE070（掘り下げ状況）
写真図版26 …… 534
SE070（土層断面）
SE070（掘り下げ状況）
写真図版27 …… 535
SE070（桶の出土状況）
SE070（華南三彩（119）出土状況）

写真図版28…… 536
SD071（遺物出土状況：南から）
SD071（完堀状況：南から）
写真図版29…… 537
SK074（遺物出土状況）
SK075（遺物出土状況）
写真図版30…… 538
SK093（遺物出土状況）
SK094（遺物出土状況）
写真図版31…… 539
SK096（完堀状況）
SK097（遺物出土状況）
写真図版32 …… 540
SK098（半裁の状況）
SK098（完堀状況）
写真図版33…… 541
SK098（完堀状況）
SK100（遺物出土状況）
写真図版34…… 542
SK101（遺物出土状況）
SK101（上面の焼土の広がり）
写真図版35…… 543
SK101（検出状況）
SK101（土層断面、SD156との関係）
写真図版36…… 544
SK111（完堀状況）
SK111（遺物出土状況）
写真図版37…… 545
SK116（遺物出土状況）
SD120（完堀状況、左がSD120、右はSD160：南から）
写真図版38…… 546
SD120（完堀状況、右がSD120、左はSD160：北から）
SD120（完堀状況、手前がSD120：北西から）
写真図版39…… 547
SD120（完堀状況：北西から）
SD120（完堀状況、左がSD120、右はSD160：南から）
写真図版40…… 548
SD120（土層断面）
SD120（土層断面）
写真図版41…… 549
SD120（土層断面）
SD120（土層断面）
写真図版42…… 550
SD120（ガラス器1614が貝層上で出土）
SD120（ガラス器1614出土状況）
写真図版43…… 551
SD120（ガラス器1614出土状況）
SD120（鎖1616出土状況）
写真図版44…… 552
SD120（鎖1616出土状況）
SD120（匙1617出土状況）
写真図版45…… 553
SD120（目貫1620、1621出土状況）
SD120（金箔1623出土状況）
写真図版46…… 554
SD120（不明金属製品1626出土状況）
SD120（小刀1637出土状況）
写真図版47…… 555
SD120（不明金属器1639出土状況）
SD120（青花碗799出土状況）
写真図版48…… 556
SD120（針金状銅製品1634出土状況）
SD120（青花出土状況）
写真図版49…… 557
SD120（青磁掛花入れ742出土状況）
SD120（青花皿860出土状況）
写真図版50…… 558
SD120（五彩金襴手963出土状況）
SD120（五彩金襴手965出土状況、
左側に剥がれた金と赤彩が見える）
写真図版51…… 559
SD120（ハマ1537出土状況）
SD120（朝鮮王朝産陶器碗982出土状況）
写真図版52…… 560
SD120（瓦質火鉢1125出土状況）
SD120（瓦質火鉢1125出土状況、中に灰が詰まっている）
写真図版53…… 561
SD120（備前擂鉢出土状況）
SD120（京都系土師器出土状況）
写真図版54…… 562
SD120（備前短頸壺1059出土状況）
SD120（遺物出土状況、西側から瓦が流れ込んでいる）
写真図版55…… 563
SD120（瓦群出土状況）

SD120（銅滓を含む土の堆積状況）
写真図版56…… 564
SD120（銅滓出土状況）
SD120（坩堝出土状況）
写真図版57…… 565
SD120（坩堝出土状況）
SD120（炉蓋1597出土状況）
写真図版58…… 566
SD120（「王」銘漆碗1646出土状況）
SD120（漆碗1640出土状況）
写真図版59…… 567
SD120（漆碗1643出土状況）
SD120（漆碗1647出土状況）
写真図版60…… 568
SD120（漆碗出土状況）
SD120（出土したばかりの漆椀）
写真図版61…… 569
SD120（碁笥蓋1692出土状況）
SD120（独楽1757出土状況）
写真図版62…… 570
SD120（独楽1756出土状況）
SD120（独楽1755出土状況）
写真図版63…… 571
SD120（下駄1662出土状況）
SD120（陽物1759出土状況）
写真図版64…… 572
SD120（帯1669出土状況）
SD120（帯1680出土状況）
写真図版65…… 573
SD120（松明1668出土状況）
SD120（櫛出土状況）
写真図版66…… 574
SD120（櫛出土状況）
SD120（ザル出土状況）
写真図版67…… 575
SD120（ザルと下駄1665出土状況）
SD120（ザルの近景）
写真図版68…… 576
SD120（ザル、動物骨、サザエ等出土状況）
SD120（タガ、坩堝等出土状況）
写真図版69…… 577
SD120（タガ出土状況）
SD120（タガ出土状況）
写真図版70…… 578
SD120（タガが重なって出土した状況）
SD120（柄杓1674出土状況）
写真図版71…… 579
SD120（柄杓1675出土状況）
SD120（草鞋出土状況）
写真図版72…… 580
SD120（草鞋出土状況）
SD120（草鞋出土状況）
写真図版73…… 581
SD120（草鞋出土状況）
SD120（紅塊出土状況）
写真図版74…… 582
SD120（食物残滓の貝出土状況）
SD120（牛骨と下駄出土状況）
写真図版75…… 583
SD120（犬骨出土状況）
SD120（犬骨出土状況）
写真図版76…… 584
SD120（遺物出土状況）
SK131（遺物出土状況）
写真図版77…… 585
SD142（全形、右側はSD120：南から）
SD142（完掘状況、右側はSD120：南から）
写真図版78…… 586
SD142（遺物出土状況）
SD142（石積みの状況）
写真図版79…… 587
SD142（石積みの状況）
SD142（遺物出土状況）
写真図版80…… 588
SD142（遺物出土状況）
SD142（石積みの状況）
写真図版81…… 589
SD142（土層断面）
SD142（調査区北壁に見えるSD142の断面）
写真図版82…… 590
SK147（完掘状況）
SK148（遺物出土状況）
写真図版83…… 591
SK149（遺物出土状況）

SK149（完掘状況）
写真図版84 …… 592
SK150（半裁状況）
SK150（完掘状況）
写真図版85 …… 593
SD156（遺物出土状況）
SD156（完掘状況）
写真図版86 …… 594
SD156（完掘状況）
SD156（完掘状況）
写真図版87 …… 595
SD156（土層断面）
SD156（土層断面）
写真図版88 …… 596
SD156（土層断面）
SD159（道路面で検出された状況、
手前がSD120：東から）
写真図版89 …… 597
SD159（断面の状況）
SD159（道路面で検出された状況）
写真図版90 …… 598
SD159（検出状況：南東から）
SD160（完掘状況：南から）
写真図版91 …… 599
SD160（完掘状況：北東から）
SD160（遺物出土状況）
写真図版92 …… 600
SD160（遺物出土状況）
SD160（土層断面）
写真図版93 …… 601
SD160（土層断面）
SD161（完掘状況）
写真図版94 …… 602
SD162（土層断面）
SD162（全形）
写真図版95 …… 603
SD167（検出状況）
SD167（断面の状況）
写真図版96 …… 604
SD167（調査区西壁の断面に空いたSD167）
SD173（完掘状況）
写真図版97 …… 605
SD174（完掘状況：東から）
SD174（完掘状況：西から）
写真図版98 …… 606
SX178（検出状況）
SX178（検出状況）
写真図版99 …… 607
SX178（掘下げ状況）
SD181（遺物出土状況、手前はSD120：東から）
写真図版100 …… 608
SD181（遺物出土状況、右はSD120：南から）
SD181（遺物出土状況：東から）
写真図版101 …… 609
SD181（土層断面）
SD185、SK186（左がSD185）
写真図版102 …… 610
SK186（土層断面）
SK186（完掘状況）
写真図版103 …… 611
SK192（完掘状況）
SD193（完掘状況：南から）
写真図版104 …… 612
SK194（完掘状況）
SK197（完掘状況）
写真図版105 …… 613
SX206、SX208（空中写真：右が北）
SX206、SX208（SD120側からの状況）
写真図版106 …… 614
SX206、SX208（SD120側からの状況）
SX206、SX208（SK207との関係）
写真図版107 …… 615
SX206、SX208（検出状況：右がSX206）
SX206、SX208（検出状況：左がSX206）
写真図版108 …… 616
SX206（検出状況：東から）
SX206（天井石を除去した状況）
写真図版109 …… 617
SX206（天井石を除去した状況）
SX206（天井石を除去した状況：東から）
写真図版110 …… 618
SX208（当初の検出状況）
SX208（当初の検出状況）
写真図版111 …… 619

SX208（東から）
SX208（北東から）
写真図版112 …… 620
SX208（全形）
SX208（天井石を除去した状況）
写真図版113 …… 621
SX208（床の石材）
SX208（完掘後のSD033AやSD120との関係）
写真図版114 …… 622
SK207（検出状況：右側にSX206とSX208がある）
SD211（完掘状況）
写真図版115 …… 623
SK220（土層断面）
SK222（完掘状況）
写真図版116 …… 624
SD223（完掘状況：南から）
SD223（土層断面）
写真図版117 …… 625
SD224（遺物出土状況）
SD225（完掘状況）
写真図版118 …… 626
SD225（土層断面）
SD225（土層断面）
写真図版119 …… 627
SD225（土層断面）
SK230（完掘状況）
写真図版120 …… 628
SK235（土層断面）
SK236（完掘状況）
写真図版121 …… 629
SE240（土層断面）
SE240（半裁状況）
写真図版122 …… 630
SE240（半裁状況）
SE240（半裁状況）
写真図版123 …… 631
SE240（完掘状況）
SE240（桶の状況）
写真図版124 …… 632
SK250（土層断面）
SK250（完掘状況）
写真図版125 …… 633
SD253（完掘状況：南から）
SD253（土層断面、道路やSD223との関係）
写真図版126 …… 634
SD253（完掘状況：北から）
SD253（土層断面）
写真図版127 …… 635
SK260（検出状況）
SK260（土層断面）
写真図版128 …… 636
SK260（完掘状況）
SK300（検出状況）
写真図版129 …… 637
SK300（遺物出土状況：北から）
SK300（遺物出土状況）
写真図版130 …… 638
SK304（土層断面）
SK304（完掘状況）
写真図版131 …… 639
SK305（完掘状況）
SX310（検出状況）
写真図版132 …… 640
SX310（遺物出土状況：東から）
SX310（遺物出土状況：西から）
写真図版133 …… 641
SX310（土層断面：溝はSD142）
SX310（土層断面：溝はSD142）
写真図版134 …… 642
SK320（検出状況）
SK320（完掘状況）
写真図版135 …… 643
SK320（遺物出土状況）
SK321（土層断面）
写真図版136 …… 644
SK322（半裁状況）
SK322（完掘状況）
写真図版137 …… 645
SK336（完掘状況）
SK345（土層断面）
写真図版138 …… 646
SK345（遺物出土状況）
SK346（遺物出土状況）
写真図版139 …… 647

SK347（完堀状況）
SD352（完堀状況：北から）
写真図版140 …… 648
SD352（完堀状況：手前はSD120）
SK355（完堀状況：手前はSD120）
写真図版141 …… 649
SK356（半裁状況）
SK360（完堀状況）
写真図版142 …… 650
SD382（遺物出土状況）
SD382（土層断面）
写真図版143 …… 651
SD382（完堀状況）
SK400（遺物出土状況）
写真図版144 …… 652
SK420（半裁状況）
SK420（完堀状況）
写真図版145 …… 653
SK435（完堀状況：東から）
SD437（土層断面）
写真図版146 …… 654
SD437（全形）
SD437（完堀状況：南から）
写真図版147 …… 655
SD439（土層断面）
SE440（半裁状況）
写真図版148 …… 656
SE440（半裁状況）
SE440（半裁状況）
写真図版149 …… 657
SK441（半裁状況：東から）
SK442（完堀状況：東から）
写真図版150 …… 658
S452（掘立柱建物：南から）
S453（ほぼ中央で柱穴が南北に並ぶ：東から）
写真図版151 …… 659
S453（ほぼ中央で柱穴が南北に並ぶ：南から）
道路（最初の検出面：南から）
写真図版152 …… 660
道路（最初の検出面：南から）
道路とSD120（天正14年の島津侵攻直前の状況）
写真図版153 …… 661
道路土層断面（北壁：道路とSD223の切合い）
道路土層断面（断面の左側の小さな溝はSD142、右はSD120）
写真図版154 …… 662
道路土層断面
道路遺物出土状況（450：瑠璃釉菊花皿）
写真図版155 …… 663
道路完堀状況（南から）
道路完堀状況（北から）
写真図版156 …… 664
土層（北壁：SD120の部分）
土層（西壁：北側部分）
写真図版157 …… 665
土層（西壁：中央部分）
包含層遺物出土状況
写真図版158 …… 666
包含層遺物出土状況（296：菊花天目碗）
包含層遺物出土状況（335：犬形土製品）
写真図版159 …… 667
調査風景
写真図版160 …… 668
調査風景
写真図版161 …… 669
調査風景（体験発掘）
現地説明会の様子
写真図版162 …… 670
平成22年６月１日
調査区の南東側に建つビルからの写真
平成22年６月１日
遺構検出
平成22年６月７日
第１面の掘下げ中
写真図版163 …… 671
平成22年７月16日
姿を現してきたSK061
（右側の大きな土坑）
平成22年７月30日
調査区が南側に拡張される
平成22年８月12日
暑さ対策で寒冷紗を使用しながらの作業
写真図版164 …… 672
平成22年８月27日

乾燥が激しく、水を撒きながらの作業
平成22年９月13日
SD120が徐々に姿を現す
平成22年９月18日
かなり調査が進展
写真図版165 …… 673
平成22年10月２日
SD120の土層ベルト等を残してほぼ掘り上がる
平成22年10月12日
完掘に向けて最後の細かな作業中
平成22年10月22日
完掘
写真図版166 …… 674
陶磁器・瓦質土器
写真図版167 …… 675
瓦類
写真図版168 …… 676
焼き物その他・ガラス
写真図版169 …… 677
金属製品（1）
写真図版170 …… 678
金属製品（2）
写真図版171 …… 679
金属製品（3）
写真図版172 …… 680
漆器椀
写真図版173 …… 681
櫛・その他木製品
写真図版174 …… 682
下駄（1）
写真図版175 …… 683
下駄（2）
写真図版176 …… 684
その他木製品・皮製品
写真図版177 …… 685
X線写真
写真図版178 …… 686
区域１遠景（南西から）
区域１遠景（垂直）
写真図版179 …… 687
区域１第１面完掘状況（東から）
区域１第２面完掘状況（東から）
写真図版180 …… 688
区域１第３面完掘状況（東から）
区域１SD325掘削状況（南から）
写真図版181 …… 689
区域２遠景（南から）
区域２遠景（垂直）
写真図版182 …… 690
区域２SD028完掘状況（西から）
区域２SD049完掘状況（西から）
写真図版183 …… 691
区域２第３面完掘状況（北から）
区域２掘立柱建物SB401～SB404完掘状況（北西から）
写真図版184 …… 692
区域２掘立柱建物（SB402・SB403）完掘状況（西から）
区域２SK074掘削状況（西から）
写真図版185 …… 693
区域２SK074完掘状況（西から）
区域２第４面全景（北から）
写真図版186 …… 694
区域２SK177・SD133完掘状況（西から）
区域２SE182完掘状況（西から）
写真図版187 …… 695
95次調査区出土遺物

第６章　中世大友府内町跡第88次調査

第１節　調査の概要と基本層序

１　調査の経過

第88次調査区は、調査前には４階建てのビルとアスファルト敷きの駐車場、および道路であった。ビルが平成21年度中に撤去されたことから、平成22年度に調査を行うこととなった。

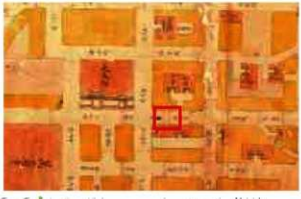
平成22年４月に発掘業者（大成エンジニアリング）が決まり、５月10日には現場周囲の柵の設置、11日からはビル基礎やアスファルトの撤去作業を行い、13日からは合わせて道路部分を除く箇所で表土除去作業を開始した。そして25日から作業員を入れて、遺構検出作業にかかった。その結果、27日には道路状の遺構や、第１面の遺構が検出された。６月１日からは本格的な発掘作業が開始される。

７月７日には大分大学附属中学校４名体験発掘、７月中旬には雨で中止が続く。８月16日から大規模な堀であるSD120の本格的な掘下げ開始。25日、大分商業高校と碩田南中学校インターンシップ、27日には道路の付け替え工事を行い、30日から道路部分の掘削作業開始。９月17日、滝尾中学校発掘体験。

９月22日、SD120よりガラス器と真鍮製チェーン出土。10月１日空中写真撮影。３日、現地説明会開催、約200名参加。４日、津留小学校体験発掘。10月15日、調査指導委員会。22日、２回目の空中写真撮影。26日より第２南北街路部分を除き、埋戻し開始。

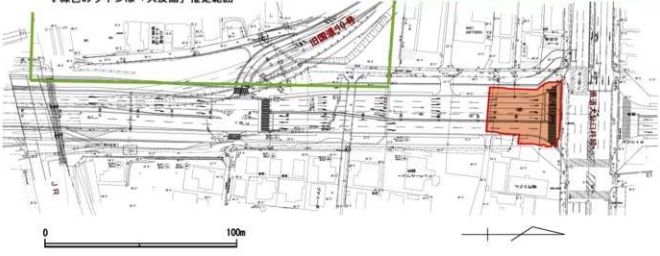
11月２日、発掘作業全て終了。

なお、調査の経過がわかる写真については、写真図版162～165に掲載している。



府内古図（部分）

府内古図Ａ類（部分）と調査地点（赤枠）→
↓緑色のラインは「大友館」推定範囲



第１図　中世大友府内町跡第88次調査区位置図（1/2,000）

第２図　遺構配置図（1/250）

２　調査概要

称名寺

調査区は、「府内古図」[1]によると、「称名寺」の西の端とその西側に南北に走る道（いわゆる第２南北街路）の部分となる。調査した面積は1,157㎡である。

発掘調査前は、４階建ての建物と駐車場用地、道路であった。そのため、建物の建っていた調査区北側には土間および基礎のコンクリートが、南側にはアスファルトが一面に敷かれていた。重機によって表面のコンクリやアスファルトを剥がすと、建物跡には鉄筋の入った２ｍ四方のコンクリート基礎が８箇所現れた。その内２箇所については地中深く打ち込まれた杭以外を除去したが、他の６箇所は時間と労力を考えそのままとした。

コンクリ等を除去すると、約１ｍの盛り土（昭和30年代）があり、その下が近世の水田層で、さらにその下に中世大友府内町跡の遺構が展開していた。調査区北側約３分の１ほどは水田層の下にすぐに黄褐色土が現れ、中世の遺構は基本的に全て検出できる状況であったのに対し、それより南側は厚く黒褐色土が堆積しており遺構識別が困難を極めた。遺物は出土するものの遺構ラインが明確でないものが多く、包含層として調査せざるを得なかった。ある程度上部を除去すると、明確な遺構ラインが現れたが、切り合い関係がつかめなかったものがあった。

遺構識別

発掘した遺構は、調査区ほぼ全面に展開するが、調査区西側約３分の１には、第２南北街路跡とそれに伴う側溝、さらには中約５ｍの溝（SD120）が南北方向に走り、残りの東側３分の２には大型の土坑や溝が南北、東西方向に切り合っていた。これらを遺構の切り合い関係や、出土遺物から見ると、中世段階（近世城下町建設以前）では大きくは３時期に分けられることがわかった。新しい方からⅢ段階、Ⅱ段階、Ⅰ段階として説明する。

Ⅲ段階

Ⅲ段階は遺物に唐津焼や瀬戸焼の折縁ソギ皿、軟質施釉陶器を含み1590年代以降であることがわかる。歴史的には島津氏侵攻（1586年）以後ということになる。第80次調査区では礎石建物などが確認され、町屋が展開していたことが確かめられているが、第88次調査区内においては建物の確認は出来なかった。第２南北街路跡を切る東西方向の溝や、井戸などが確認されている。

Ⅱ段階

Ⅱ段階は、島津氏侵攻直前まで展開していた遺構群ということになる。この島津氏侵攻に伴うと考えられる焼土が、第２南北街路跡の上面や、第２南北街路跡の東側に平行する溝（SD120）の中に堆積していた。このⅡ段階の中心となる遺構はSD120とした溝（堀）で、第72次調査区ではこの溝が直角に東に折れているのが確認されており（第１分冊）、このSD120から東側の部分が、この堀で囲まれた何らかの施設の内部ということになる。しかし、このSD120は島津氏侵攻時には中程まで埋まって（埋められて）おり、当初の機能は失いつつあった。しかし、当初の溝底から出土する遺物と、中程まで埋まった（埋められた）層から出土する遺物に時期差は指摘できず、堀が機能していた年代は漳州窯青花が出現して以後、島津氏侵攻直前の十数年間ということになる。遺構としては、堀の外側（西側）に第２南北街路跡はあるが、堀の内側では排水に係わる溝と暗渠排水施設などのほかは、建物跡などは確認できなかった。この段階をSD120に囲まれた「大規模施設」の段階と呼ぶ。

大規模施設

Ⅰ段階

Ⅰ段階は、SD120が掘削される前の遺構で、SD120に平行するSD160などがある。時期的には14世紀代から16世紀第３四半期までを含む。このSD160も第72次調査区では東側に折れ曲がることが確認されており、この時期は絵図に描かれた「称名寺」の段階にあたる可能性が高い。

称名寺

古墳時代

また、中世以前の遺物も若干出土しているが、遺構は確認されなかった。特に古墳時代前期の遺

(1)いわゆるＡ類には記載がないが、寺院などを示す赤色に着色されている。Ｂ、Ｃ類には「称名寺」とある。

各遺構の概要は第１表、第２表のとおりである。

第１表　第88次調査遺構一覧表（１）

遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SD002	s-002	溝	I・J-3	17世紀初頭	SD003Aと一繋がりの溝	10
SD003A・B	s-003	溝	I・K-3	17世紀初頭	SD002と一繋がりの溝	10
SD004	s-004	溝	I・K-2	17世紀初頭	SD005と一繋がりの溝	10
SD005	s-005	溝	I-2	17世紀初頭	SD004と一繋がりの溝	10
SK008	s-008	土坑	J・K-4	16世紀末～17世紀初頭		20
SK009	s-009	土坑	J-2	16世紀末～17世紀初頭		21
SK011	s-011	土坑	J-4	16世紀末～17世紀初頭		22
SK015	s-015	土坑	K-2	16世紀後葉		215
SD031	s-031	溝	K-3・L-3・L-4	16世紀末～17世紀初頭	SD032とセットになるものか	13
SD032	s-032	溝	K・L-4	16世紀末～17世紀初頭	SD031とセットになるものか	13
SD033A	s-033a	溝	K-4・L-3	16世紀後葉		73
SD033B	s-033b	溝	K-4・L-3	15世紀後半		239
SD034	s-034	道路側溝	J-2・3	16世紀末～17世紀初頭	第2南北街路東側側溝	34
SD035	s-035	道路側溝	I-2・3	16世紀後葉	第2南北街路東側側溝	84
SD043	s-043	道路側溝	I-3	16世紀末～17世紀初頭	第2南北街路東側側溝	17
SD044	s-044	溝	I・K-4	16世紀末～17世紀初頭		18
SD060A	s-060a	溝	L・K-2・3・4	16世紀前半～中頃		241
SD060B	s-060b	溝	L・K-2・3・4	16世紀前半～中頃		241
SK061	s-061	土坑	L-2・3	15世紀後半～16世紀初頭		276
SK069	s-069	土坑	J-3	16世紀末～17世紀初頭		22
SE070	s-070	井戸	L-3・4	16世紀末～17世紀初頭		31
SD071	s-071	溝	K-4・5	16世紀後葉		85
SD073	s-073	道路側溝	J-2・3	16世紀末～17世紀初頭	第2南北街路東側側溝	18
SK074	s-074	土坑	K-5	16世紀末～17世紀初頭		23
SK075	s-075	土坑	K-5	16世紀末～17世紀初頭		23
SK093	s-093	土坑	K-4	16世紀末～17世紀初頭		24
SK094	s-094	土坑	K-4	16世紀末～17世紀初頭		24
SK096	s-096	土坑	K-5	16世紀末～17世紀初頭		25
SK097	s-097	土坑	K-5	16世紀末～17世紀初頭		25
SK098	s-098	土坑	K-5	16世紀末～17世紀初頭		26
SK099	s-099	土坑	L-5	16世紀末～17世紀初頭		26
SK100	s-100	土坑	L-4・5	16世紀末～17世紀初頭		26
SK101	s-101	土坑	L-4	16世紀中頃～後葉		313
SK111	s-111	土坑	K-3	16世紀末～17世紀初頭		27
SK116	s-116	土坑	J-3	16世紀末～17世紀初頭		28
SD120	s-120	堀	J-2～6	16世紀後葉	大規模施設を囲む堀	92
SK131	s-131	土坑	K-3	16世紀末～17世紀初頭		29
SD142	s-142	道路側溝	J-2～6	16世紀後葉	第2南北街路東側側溝	192
SK147	s-147	土坑	J-3	16世紀末～17世紀初頭		31
SK148	s-148	土坑	L-3	15世紀		318
SK149	s-149	土坑	K-3	16世紀後葉		215
SK150	s-150	土坑	K-3	16世紀末～17世紀初頭		31
SD156	s-156	溝	L-4・5	15世紀後半		247
SD159	s-159	排水路	I・J-2	16世紀後葉		201
SD160	s-160	堀	K-2～6	15世紀後半	称名寺を囲む堀	256
SD161	s-161	溝	J-2・3	16世紀後葉		203
SD162	s-162	溝	K-4	15世紀後半		262
SD167	s-167	排水路	J-3	16世紀後葉		201
SD173	s-173	溝	L-4・5	15世紀中頃		266
SD174	s-174	溝	K・L-4	16世紀後葉		204
SK176	s-176	土坑	L-5	15世紀末～16世紀初頭		319
SX178	s-178	瓦溜まり	K-5・6	16世紀末～17世紀初頭		41
SD181	s-181	溝	J-2・3	14世紀後半		269
SD185	s-185	溝	K・L-4	16世紀後葉		204
SK186	s-186	土坑	L-4	15世紀中頃～後半		319
SK192	s-192	土坑	L-3	15世紀		324
SD193	s-193	溝	I-2	16世紀後葉		208
SK194	s-194	土坑	L-4	15世紀？		324
SK197	s-197	土坑	L-4	15世紀？		324
SX206	s-206	排水施設	K-3	16世紀後葉	暗渠排水路	224
SK207	s-207	土坑	K-3	16世紀後葉		217
SX208	s-208	排水施設	K-3	16世紀後葉	暗渠排水路	224
SD211	s-211	溝	K-4	15世紀後半		271
SK220	s-220	土坑	K-4	16世紀後葉		221
SK222	s-222	土坑	L-4	15世紀？		325
SD223	s-223	溝	I-2・3	16世紀後葉	唐人町の堀か	208
SD224	s-224	溝	J-3	16世紀前半～中頃		272
SD225	s-225	溝	K-4～6	16世紀前半～中頃		273
SK230	s-230	土坑	K-4	15世紀		326

第２表　第88次調査遺構一覧表（２）

遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SK235	s-235	土坑	K-4・5	16世紀		326
SK236	s-236	土坑	K-4	15世紀		326
SK239	s-239	土坑	L-4	14世紀		328
SE240	s-240	井戸	L-5	14世紀		339
SK250	s-250	土坑	K-5	15世紀		328
SD253	s-253	溝	I-2	16世紀後葉	唐人町の堀か？	209
SK260	s-260	土坑	L-5	15世紀中頃		330
SK300	s-300	土坑	L-4	14世紀末～15世紀前葉		330
SK304	s-304	土坑	L-4	15世紀末～16世紀前葉		332
SK305	s-305	土坑	L-4	16世紀？		332
SX310	s-310	焼土層	J-5	16世紀後葉		230
SK320	s-320	土坑	J-3	16世紀後葉		221
SK321	s-321	土坑	J-3	16世紀後葉		222
SK322	s-322	土坑	J-3	16世紀後葉		222
SK336	s-336	土坑	K-4	14世紀		333
SK345	s-345	土坑	J-3	16世紀後半		333
SK346	s-346	土坑	J-3	16世紀後半		333
SK347	s-347	土坑	J-3	16世紀後葉		222
SD352	s-352	溝	J-2	16世紀後葉		211
SK355	s-355	土坑	J-2	14世紀		334
SK356	s-356	土坑	L-5	15世紀		334
SK360	s-360	土坑	K-5	16世紀中頃～後半		335
SD382	s-382	溝	J-4	16世紀後葉		212
SD383	s-383	溝	J-4	16世紀後葉		212
SK400	s-400	土坑	K-5	16世紀後葉		223
SK420	s-420	土坑	J-5	16世紀後葉		223
SK435	s-435	土坑	J-5	15世紀後葉		335
SD437	s-437	溝	J-5	16世紀後葉		212
SD439	s-439	溝	J-4	15世紀前半		275
SE440	s-440	井戸	J-3	16世紀後半以前		340
SK441	s-441	土坑	J-5	15世紀後葉		336
SK442	s-442	土坑	J-5	14世紀中頃～後葉		337
SB451	s-451	掘立柱建物	K-2～3	不明		342
SX452	s-452	柱穴列	J-3～5	不明		342
SX453	s-453	柱穴列	K-5	不明		342
第2期北側路	道路跡	道路	I-2～7	16世紀後半～17世紀初頭		62

第３表　瓦当分類表

軒丸瓦			軒平瓦		
分類	代表的な瓦	特徴	分類	代表的な瓦	特徴
A		珠文が 17 個。大きな左巻き巴文で、圏線はない。（外周は推定ライン）	a		中心飾りが四菱で、5 反転する唐草文。
			b		中心飾りが宝珠で、4 反転する唐草文。
B		珠文が 17 個。小さな左巻き巴文で、圏線が廻る。	c		中心飾りが宝珠で、4 反転する唐草文。
			d		中心飾りが蓮華で、4 反転する蕾を持つ唐草文。
C		珠文が 38 個。大きな左巻き巴文で、圏線はない。	e		中心飾りが蓮華で、3 反転する唐草文。

物は良好な出土状況であり、包含層と考えられる土層も確認できた。

３　基本層序

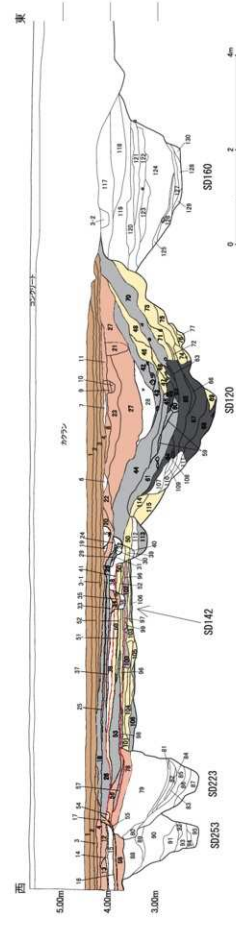
水田層

旧表土

包含層

調査区北側の土層断面図を使って基本層序を説明する。この断面にはSD120とSD160などがかかる。基本は昭和時代の整地土（埋め土）を除去すると水田層となり、その水田層の下が中世段階の遺構群となる。水田層は３面確認できるが、上部２枚（1、2層）は中世遺構群を全面覆うのに対し、下部の水田層（３層）は第２南北街路跡を全面覆わずに、巾１ｍほど残していた。この部分が畦畔状に残っていた可能性が高い。水田層の下には焼土粒が若干混じる黒褐色砂質シルト層（４層）が広がる。この層がある段階の旧表土である可能性が高い。この土層が調査区の大部分を覆っており、前項で述べたⅢ段階までの遺物が含まれる包含層となっている。特に調査区中央から南側にかけては、この包含層が厚く（=腐植化が進行）なっており、遺構識別が困難となっていた。

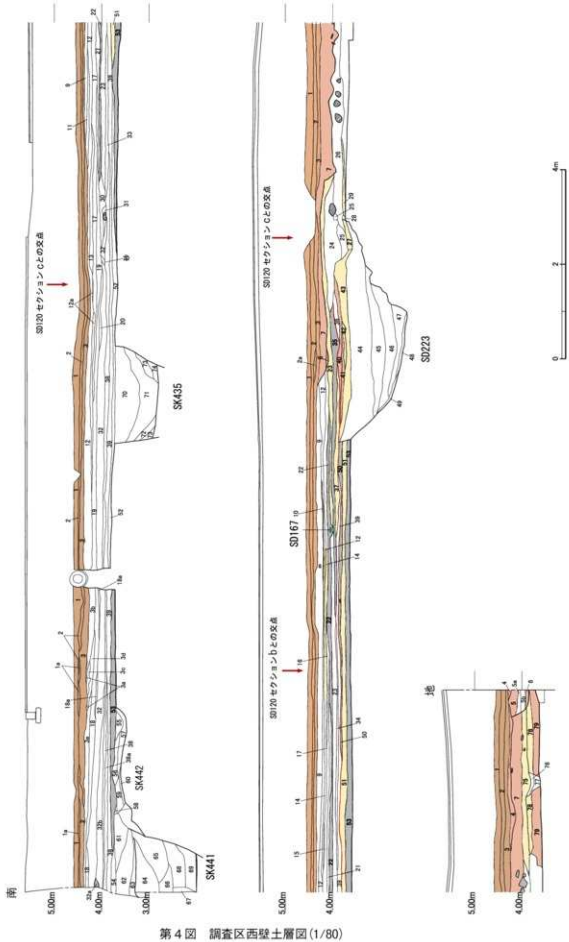
５層以下は個別遺構に係わるが、基本は４層を除去した面で遺構が全て確認できた。しかし、第７章で詳述される、隣接の第95次調査区では細かな層位の違いで遺構が検出されており、調



第３図　調査区北壁土層図(1/80)

北壁面　土層説明

1.黒色シルト　褐色マンガン少量含む
2.黒褐色シルト　褐色マンガン少量含む
3.暗褐色シルト　褐色マンガン・焼土粒微量混じる
4.黒褐色砂質シルト　焼土粒微量混じる
5.黄灰色砂層　焼土粒少量、褐色分含む　SD034埋土
6.暗灰黄色砂質シルト
7.灰黄褐色砂質シルト
8.灰黄褐色砂質シルト　1～3cm大焼土塊・炭化物帯状に多量含む
9.灰黄褐色砂質シルト　焼土塊少量含む
10.にぶい黄褐色砂質シルト　焼土粒少量含む
11.にぶい黄褐色砂質シルト　焼土塊少量含む
12.灰黄褐色砂質シルト　焼土粒微量含む
13.褐灰色砂質シルト　焼土粒微量含む
14.灰色砂層　粗粒砂、小石0.5cm大含む
15.黒褐色砂質シルト
16.黒褐色砂質シルト　焼土粒・炭化物僅かに混じる
17.黒褐色砂質シルト　1cm大焼土塊・炭化物多量含む
18.暗赤褐色砂層　1m以下の小石を少量含み、5層上面は鉄分が硬化した面がある
19.にぶい黄褐色シルト
20.褐灰色シルト　焼土粒少量混じる
21.にぶい黄褐色砂質シルト　焼土塊・炭化物多量含む
22.灰黄褐色砂質シルト　焼土粒含む　41層と似る
23.灰黄褐色砂質シルト　焼土粒・炭化物微量含む
24.暗褐色砂質シルト　粗砂粒含む
25.暗褐色シルト　1cm大焼土塊、炭化物僅かに含む
26.褐灰色砂層　粗粒砂
27.にぶい黄褐色シルト　焼土粒僅かに含む
28.褐色砂質シルト　細粒砂多量含む
29.黒褐色砂質シルト　粗砂粒含む
30.黒褐色砂質シルト　焼土粒微量含む
31.にぶい黄褐色砂層　細粒砂
32.黒褐色砂層
33.暗灰黄色砂層　暗褐色ブロック多く混じる。粗砂粒含む
34.黒褐色砂質シルト　焼土粒多量含む
35.黒褐色砂質シルト　焼土粒多量含む
36.黒色炭化物層
37.暗褐色粘土層　焼土塊・炭化物少量含む
38.灰色砂層　比較的均一な砂層、細粒砂
39.黒褐色粘土層　帯状に褐色マンガン含む
40.褐灰色砂層
41.灰色砂層　比較的均一な砂層、細粒砂
42.灰黄褐色砂質シルト　粗砂粒・礫少量含む
43.にぶい黄褐色砂質シルト　粗砂粒・礫少量含む
44.褐灰色砂質シルト　コブシ大礫～1cm大石やや多く含む、粗粒砂
45.灰黄褐色砂質土　粗砂粒小石多量含む
46.褐灰色シルト
47.褐灰色シルト
48.暗灰黄色シルト　黄褐色土ブロック少量含む
49.黒褐色泥炭層
50.黄灰色粘土層　10層上面に0.5cm程のマンガンを多く含む面あり
51.灰色砂質シルト
52.暗灰黄色シルト　一部、帯状に細粒砂入る
53.黒褐色砂層　粗粒砂
54.褐灰色砂質シルト　細砂含む
55.黒褐色砂質シルト　焼土粒微量混じる
56.にぶい黄褐色シルト　焼土粒微量混じる
57.灰黄褐色砂質シルト　粗粒砂多く混じる
58.にぶい黄褐色シルト　焼土粒微量含む、キメが荒いシルト
59.にぶい黄褐色砂質シルト　粗砂粒・礫少量含む
60.褐灰色砂質土　粗砂粒多量含む
61.褐灰色砂礫層　粗砂粒・小石多量含む
62.黒褐色泥炭層
63.褐灰色シルト
64.黒褐色泥炭層
65.黒褐色泥炭層
66.黒褐色泥炭層　鉄分少量含む
67.暗灰色泥炭層　木片・貝片含む
68.灰色泥炭層
69.オリーブ褐色シルト　微砂粒多量含む
70.黄灰色シルト　径10cm大礫少量含む
71.黄灰色シルト
72.黄褐色粘質土
73.暗灰黄色粘質土　鉄分少量含む
74.暗灰黄色粘質土　微砂粒含む
75.黄灰色粘質土　微砂粒多量含む
76.灰色粘質土
77.にぶい黄色粘質土
78.暗褐色砂質シルト　焼土粒・炭化物多量含む
79.黒褐色砂質シルト
80.暗褐色砂質シルト
81.黒褐色砂質シルト
82.黒褐色シルト
83.黒褐色シルト　黄褐色土ブロック少量含む
84.黒褐色シルト
85.にぶい黄褐色粘質土
86.黒褐色粘質土
87.暗灰黄色粘質土　微砂粒多量含む
88.褐色砂質シルト　黄褐色土ブロック少量含む
89.にぶい黄褐色砂質シルト
90.にぶい黄褐色砂質シルト　灰色土ブロック少量含む
91.黄褐色砂質シルト
92.黒褐色粘質土
93.黒褐色粘質土
94.黒褐色粘質土　細砂粒少量含む
95.暗灰黄色粘質土
96.黒褐色砂質シルト　細粒砂混じる
97.黒褐色砂質シルト
98.オリーブ黒色砂層　粗粒砂
99.暗オリーブ褐色砂礫層　小石・粗砂粒多量含む
100.暗オリーブ褐色砂礫層　小石・粗砂粒多量含む
101.暗灰黄色シルト
102.黄灰色砂質土　粗砂粒多量含む
103.黄灰色シルト
104.灰黄褐色シルト
105.黒褐色シルト
106.褐灰色砂礫層　小石非常に多く含む
107.黄灰色砂質土　小石多量に含む
108.黄灰色砂質土　小石少量に含む
109.暗灰黄色砂質土
110.暗灰黄色砂質土　細砂粒多量含む
111.黒褐色シルト　鉄分少量含む
112.黄灰色砂質土　鉄分少量含む
113.黄灰色砂質土　径10cm大礫少量含む
114.黄褐色シルト
115.暗灰黄色シルト
116.暗灰黄色シルト　地山色に近い
117.灰黄褐色砂質シルト　焼土粒少量含む
118.暗灰黄色シルト
119.灰黄褐色砂質シルト
120.褐色砂質シルト
121.にぶい黄褐色砂質シルト　黄褐色土ブロック少量含む
122.にぶい黄褐色シルト
123.にぶい黄褐色砂質シルト
124.暗褐色砂質シルト　焼土粒少量含む
125.暗灰黄色シルト
126.黄灰色砂質シルト　細砂粒少量含む
127.灰黄褐色粘質土
128.褐灰色粘質土　暗褐色土ブロック少量含む
129.灰黄色粘質土
130.褐色砂質シルト



第４図　調査区西壁土層図(1/80)

西壁面　土層説明

1.黒色シルト　褐色マンガン少量含む
1a.黒色シルト　褐色マンガン多量含む
2.黒褐色シルト　褐色マンガン少量含む
2a.黒褐色シルト
3.暗褐色シルト　褐色マンガン・焼土粒微量混じる
3a.暗褐色シルト　褐色マンガン多量混じる
3b.暗褐色シルト　褐色マンガン・焼土粒非常に多く混じる
3c.暗褐色シルト　褐色マンガン少量含む
3d.暗褐色シルト　褐色マンガン多量含む
3e.暗褐色シルト　小石少量、褐色マンガン多量含む
4.黒褐色砂質シルト　焼土粒微量混じる
5.褐灰色砂質シルト　焼土粒微量含む
5a.灰色砂層　粗粒砂、小石0.5cm大含む
5b.黒褐色砂質シルト
6.黒褐色砂質シルト　焼土粒・炭化物僅かに混じる
7.暗褐色砂質シルト　土器片・礫・焼土粒多量含む　S-035理土
8.暗褐色砂質シルト　土器片・礫・焼土粒少量含む　S-035理土
9.褐灰色砂質土　鉄分多量含む
10.灰黄褐色シルト　土器片・焼土粒少量含む
11.灰黄褐色シルト　粗砂粒多量含む
12.灰黄褐色シルト
12a.灰黄褐色シルト　鉄分少量含む
13.褐灰色シルト
14.黄灰色シルト　微砂粒含む
15.にぶい黄褐色シルト
16.黄灰色シルト　粗砂粒多量含む
17.黒褐色シルト　細砂粒少量含む
18.褐灰色シルト　鉄分少量含む
18a.褐灰色シルト　鉄分少量含む
19.褐灰色シルト
20.褐灰色シルト　細砂粒含む
21.黒褐色砂質土
22.暗灰黄色砂礫層　小石含む
23.灰褐色シルト
24.暗褐色砂質シルト　焼土粒・土器片多量含む
25.暗褐色砂質シルト
26.暗褐色砂質シルト　径20cm大礫多量含む
27.暗褐色シルト
28.黒褐色砂質シルト
29.灰黄褐色シルト
30.黒褐色砂質土　粗砂粒多量含む
31.黒褐色シルト
32.褐灰色シルト　鉄分多量含む
32a.褐灰色砂質土　粗砂粒多量含む
32b.褐灰色砂質土　鉄分少量含む
33.にぶい黄褐色シルト　鉄分少量含む
34.にぶい黄褐色シルト
35.黄灰色砂礫層　小石少量含む
36.褐灰色シルト
37.灰黄褐色シルト
38.黄灰色シルト　一部に鉄分少量、一部に炭化物1cm等入る
38a.灰褐色砂質シルト　粗砂粒多量含む
39.灰黄褐色砂質シルト　粗砂粒少量含む
40.黒褐色砂質シルト　焼土粒・鉄分多量含む
41.黒褐色砂質シルト　焼土粒・小石多量含む
42.黒褐色シルト
43.灰黄褐色シルト
44.暗褐色砂質シルト　黄褐色土ブロック少量含む
45.黒褐色砂質シルト
46.暗褐色シルト　黄褐色土ブロック少量含む
47.褐灰色粘質土
48.黒褐色粘質土
49.オリーブ褐色粘質土
50.黒褐色砂質土　小石少量含む
51.黒褐色シルト
52.黒褐色シルト
53.褐灰色砂礫層　小石非常に多く含む
54.暗褐色シルト
55.黒褐色砂質シルト　S-442理土
56.黒褐色シルト　S-442理土
57.黒褐色砂質シルト　S-442理土
58.にぶい黄褐色シルト　S-442理土
59.灰黄褐色シルト　S-442理土
60.黒色粘質土　S-442理土
61.黒褐色シルト　S-441理土
62.灰黄褐色粘質土　S-441理土
63.黄灰色粘質土　黄褐色土ブロック少量含む　S−441理土
64.黄灰色粘質土　黄褐色土・灰色粘土塊多量含む　S-441理土
65.黒褐色粘質土　S-441理土
66.黒褐色粘質土　S-441理土
67.オリーブ黒色粘質土　灰色粘土塊多量含む　S-441理土
68.黒褐色粘質土　S-441理土
69.暗オリーブ褐色粘質土　S-441理土
70.黄灰色シルト
71.黒褐色シルト
72.黒色シルト
73.黒褐色シルト　褐色土ブロック多量含む
74.黒褐色粘質土
75.にぶい黄褐色シルト　土器片少量含む
76.暗褐色砂質シルト
77.暗褐色砂質シルト
78.褐色シルト
79.にぶい黄褐色シルト　焼土粒微量含む、キメが荒いシルト

査区南東部側は更に細かな層に分層できた可能性があるが、今回の調査では行えなかった。

第２節　遺構と遺物

１　島津氏侵攻以後（1586年～）の遺構・遺物

ここでは、調査概要で述べた第１段階の遺構･遺物を扱う。ただし、第２南北街路跡については、前時期との関係が連続するので、次項で扱うこととする。また、遺構は検出層位や検出標高で峻別されたものでは無く、基本は切り合い関係と出土遺物からの時期比定である。また、基本層序で述べた４層（近世の水田層の直下、天正14年の火災処理に伴うものと考えられる焼土の上に広がる黒褐色砂質シルト層）出土遺物もここで扱う。

火災処理

なお、第88次調査区内では「町屋」的様相は確認されなかったが、第80次調査区では礎石建物などがSD120（第80次調査区のSD100）が埋まったあとに作られており、この時期は「大規模施設」が廃絶し、唐人町が両側町になった段階とすることができる。

唐人町

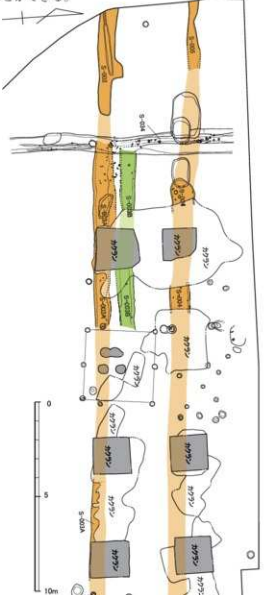
（1）　溝

SD002、SD003A、SD004、SD005（第５･６図）

いずれも調査区の北部で、略東西方向に伸びる溝。第２南北街路跡を切っている。攪乱によって消滅している部分があるが、本来はSD002とSD003、SD004とSD005は１本の溝で、なおかつ延びる方向や規模などから両者は一体のものであった可能性が高い。概ね幅１ｍ前後、深さ0.1ｍで、中途に土坑と切り合いがあるが、先後関係は不明。また、SD002では埋まった後に、幅0.3m、深さ0.14mの細い溝が掘られている。SD003は、すぐ北側にSD003Bとしたほぼ同規模の溝が平行する（調査段階では幅の広い１本の溝として遺物の取り上げを行ったため、多くはAとBの区別が出来ない）。これらの溝は西側の調査区外に延びており、93次調査で確認されている。すなわち、調査区を東西に横断して50m以上延びていたと想定される。出土遺物は少ないが、第７図１はSD002出土で発色の悪い青磁の碗である。畳付けは露胎。第８図２から６はSD003出土。２は中国産褐釉壺、３（SD003B）は擂鉢で17世紀以降のものか。４（SD003A）は瓦質のメンコ。５と６は京都系土師器。第10図７から９はSD004出土。７は織部焼で、鉄絵で描かれた文様がある。８はベトナム産の長胴瓶である。９は瓦質の鍋である。SD005からは遺物の出土は無い。

織部焼
ベトナム産
長胴瓶

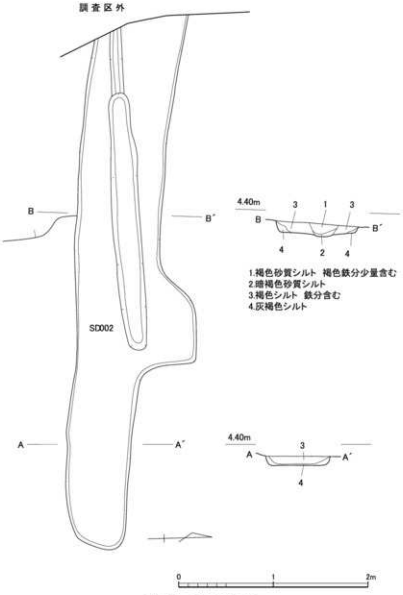
２本で１対となる溝は、これ以外にも調査区北半で東西方向に何度も掘削されている。



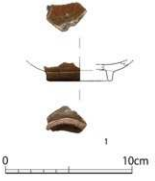
第5図　SD002、SD003A、SD004、SD005(1/200)

これらはSD002なども含めて第２南北街路側溝の可能性もあるが、道路面そのものが未検出なため断定はできない。

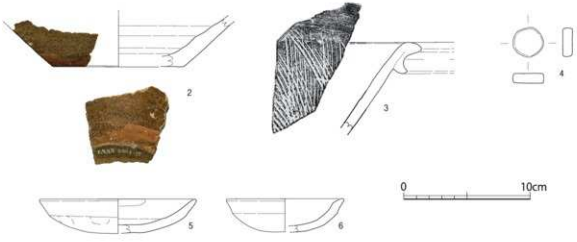
時期は、第２南北街路跡を切っているので、17世紀以降に下る。織部焼が含まれることから1605年以降であることとも矛盾しない。



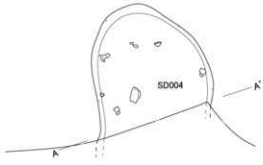
第６図　SD002(1/40)



第７図　SD002出土遺物(1/3)



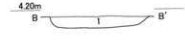
第８図　SD003出土遺物(1/3)



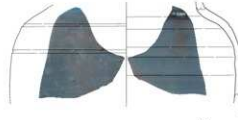
1.褐灰色砂質シルト　褐色鉄分、焼土粒少量含む
2.褐灰色砂質シルト　褐色鉄分少量含む
3.暗褐色砂質シルト　褐色鉄分、焼土粒微量含む

カクラン

カクラン



第９図　SD004(1/40)



第10図　SD004出土遺物(1/3)

SD031（第11図）

調査区のほぼ中央で、東西方向に延びる溝。東側は調査区外に延びるが、西側は調査区の中央付近で終結する。位置関係から見てSD032と一体のものの可能性が高い。巾0.6m、長さは調査区内で9.0mである。また、南北方向の溝が連結しているように見えるが、実際は切り合い関係があったとした方が良いと考えられる。その場合、一体となったSD032を切っていることから、SD031も南北方向の溝に切られていると考えられる。

出土遺物は第12図10から18である。10から12は青磁で、10は香炉の口縁部で突起が付く。11は直口の菊花皿で、外面に連弁文を片切彫りで描き、内面は型押しで連弁文を描く。12は外面に片切彫りで連弁文を描く口折皿である。13は口縁部が緩やかに開く景徳鎮窯青花碗で、外面に「壽」を描く。14と15は瓦質土器火鉢。16は底部糸切りの土師器小皿。17は素焼きの土錘。18は椀形の鉄滓である。

菊花皿

椀形滓

出土遺物からは15世紀代の様相が強いが、切り合い関係からこの時期のものと考えられる。

SD032（第11図）

調査区のほぼ中央で、SD031に平行して東西方向に延びる溝。東側は調査区外に延びるが、西側は調査区の中央付近で終結する。位置関係から見てSD031と一体のものの可能性が高い。巾4.8m、長さは調査区内で9.0mである。

出土遺物は第13図19から31である。19と20は青磁で、19は口折皿で、外面に連弁文、内面には篦による花文（？）を描く。20は無文の碗。21は白磁の碗とするが、青花かもしれない。22はB1群の青花の皿で、外面に牡丹唐草を描く。23は華南三彩の水注の注ぎ口である。24は朝鮮王朝産の陶器椀。25は志戸呂焼（静岡県）の天目椀。26は瀬戸美濃の陶器片。27と28は備前焼。29は瓦質の鉢。30は京都系土師器小皿。31はd類の軒平瓦瓦当で、唐草が上向きに強く反転する。外側が上向きに突出する。

華南三彩

志戸呂焼

15世紀代の遺物も含むが、30の京都系土師器も出土しており、切り合い関係等からもこの時期のものと考えられる。

SD034（第14図）

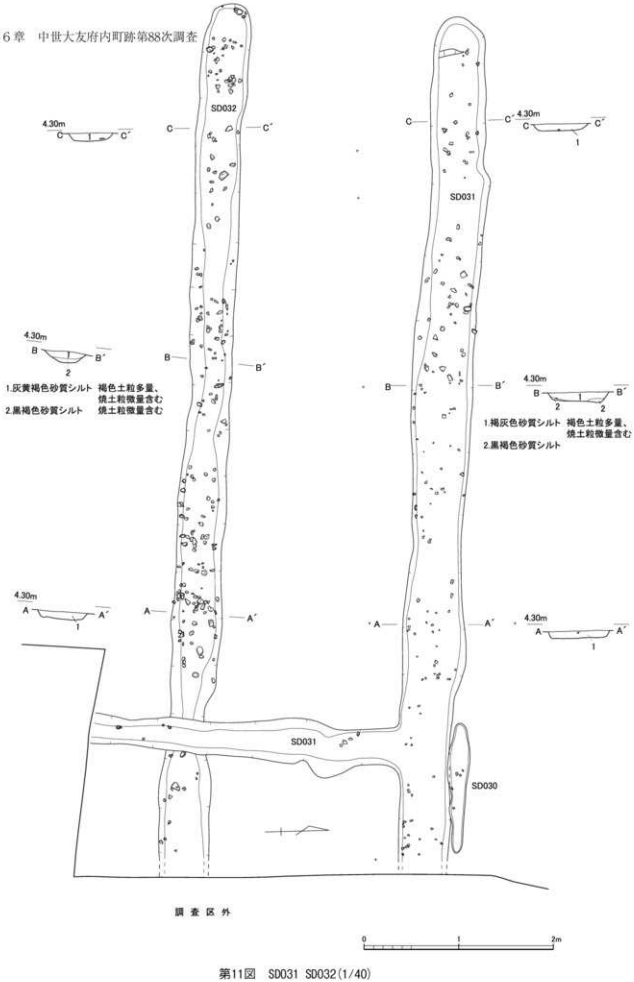
第２南北街路の側溝である。第３図の土層図（第５層）からわかるように、SD120埋没後に掘られた最も新しい第２南北街路東側の側溝である。巾0.3～0.5m、深さは５～７㎝、長さは13.8m確認され、南側は削平されて消えている。

街路側溝

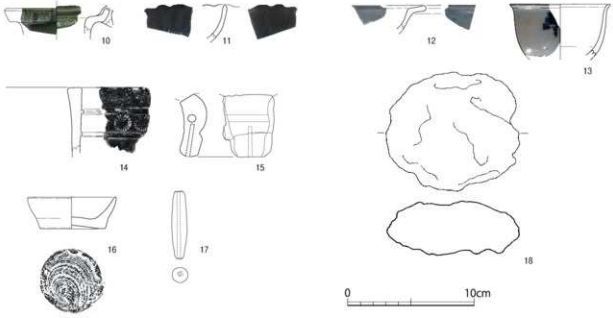
出土遺物は第15図32から34である。32は漳州窯青花皿である。33は瓦質土器の鉢、34は京都系土師器である。

遺構の時期は天正14年（1586年）の島津侵攻後で、後述の包含層に覆われている[2]ことから、その間の時期ということになる。

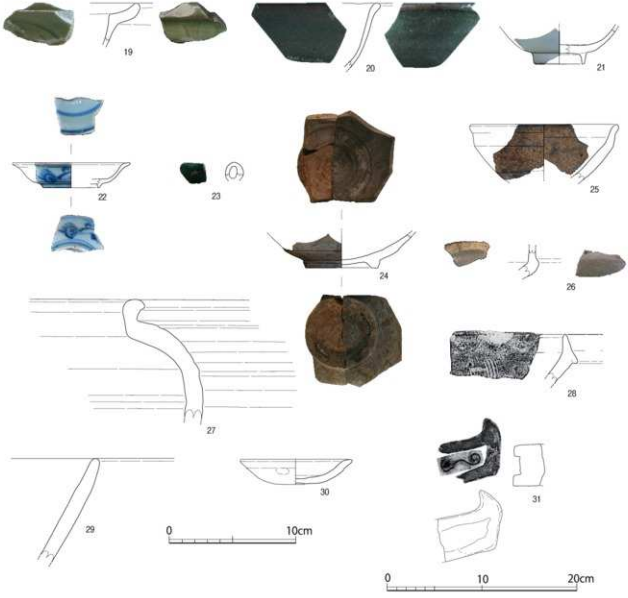
(2)埋土上部が腐植化して、Ⅳ層との区別がつかなくなったとしたら、同時期の可能性もある。



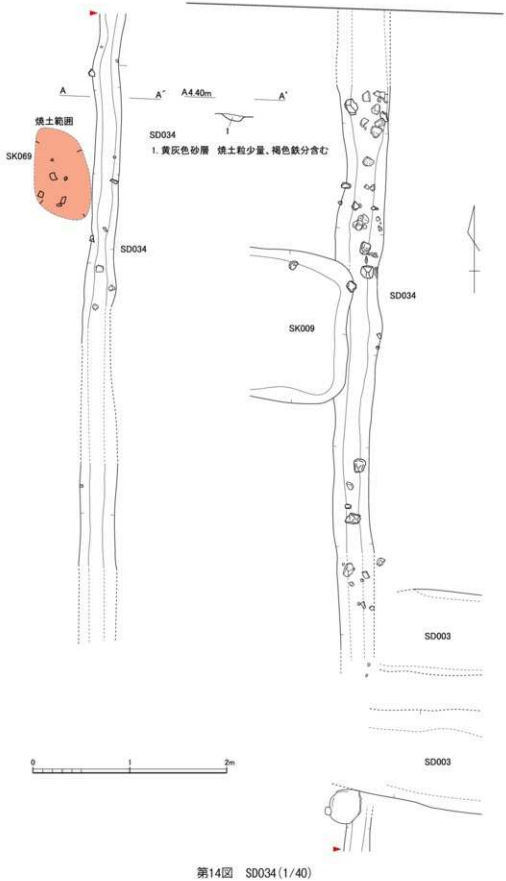
第11図　SD031 SD032(1/40)



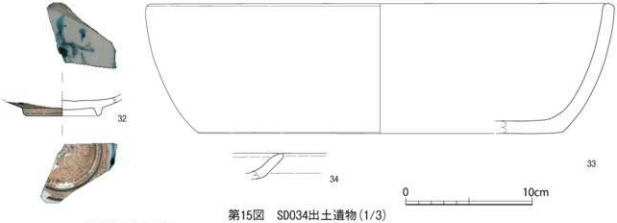
第12図　SD031出土遺物(1/3)



第13図　SD032出土遺物(1/3,1/4)



第14図　SD034(1/40)

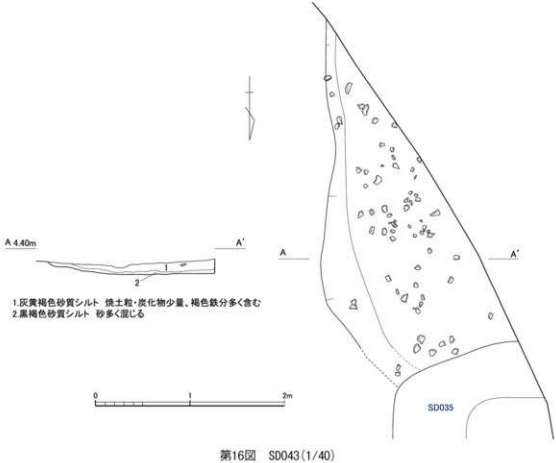


第15図　SD034出土遺物(1/3)

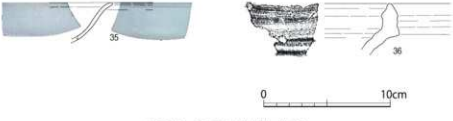
SD043（第16図）

SD035に切られる溝で、第２南北街路の西側側溝の可能性が高い。最も新しい道路面がSD043の埋土の上に形成されているので、もしかすると島津氏侵攻以前の可能性もある。西側は調査区外であり、形状は不明である。深さは15cmである。

出土遺物は第17図35と36である。35は白磁の皿で、36は備前焼擂鉢。



第16図　SD043(1/40)



第17図　SD043出土遺物(1/3)

SD044（第18図）

調査区の中央やや南側で東西に延びる溝である。図示できる遺物は無いが、SD120や第２南北街路の一部も切っていることから、この段階に置いておく。規模は、幅0.9～1.1m、深さ0.15～0.2mで、東西方向に10.9m確認した。西端は、鳥津氏侵攻時の道路東側側溝であったSD142に一部重なるようにして終結している。おそらく道路を意識してのことであると考えられる。東側は調査区中程までしか確認できなかったが、本来はさらに東側に延びていたことが想定できる。

図示できる遺物はなかった。

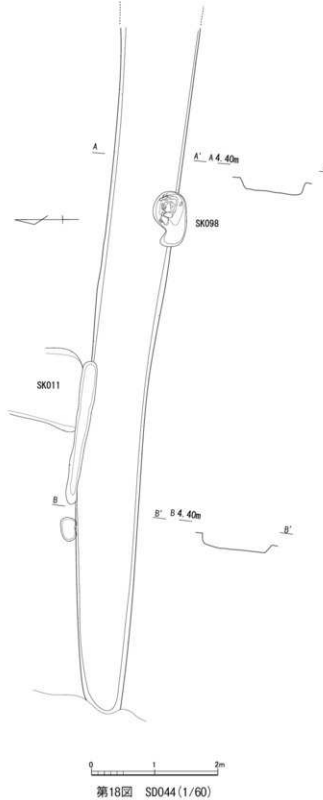
SD073（第19図）

街路側溝

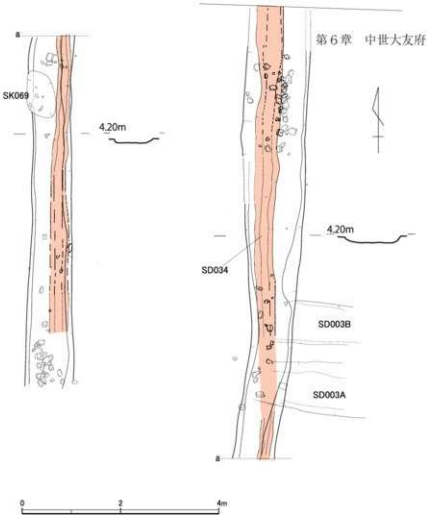
SD073は第２南北街路東側側溝である。鳥津氏侵攻後の第２南北街路東側側溝であるSD034よりは層位的に下位にあるが、鳥津氏侵攻前なのか後なのかは土層からは判断できない。しかし、遺構検出レベルは後述のSD142よりは上位にあったので、側溝の構築順はSD142→SD073→SD034となり鳥津氏侵攻後と解釈できる。幅は1.2～0.8m、延長は16m検出されており、南側は上部が削平され消失している。

出土遺物は第20図37から42である。37は景徳鎮窯青花で、外面に唐草文が描かれる。38は漳州窯青花で、見込みは釉剥ぎされている。39は備前焼甕。40と41は京都系土師器。42は瓦質の鉢である。

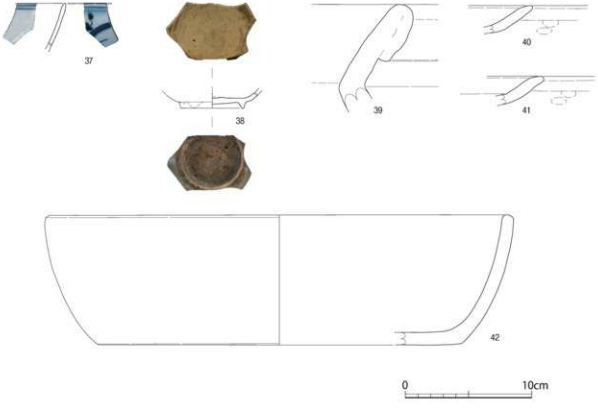
遺構の時期は前記したように、鳥津氏侵攻（1586年）後であると考えられるが、遺物も矛盾しない。



第18図　SD044（1/60）



第19図　SD073(1/80)



第20図　SD073出土遺物(1/3)

(2)　土坑

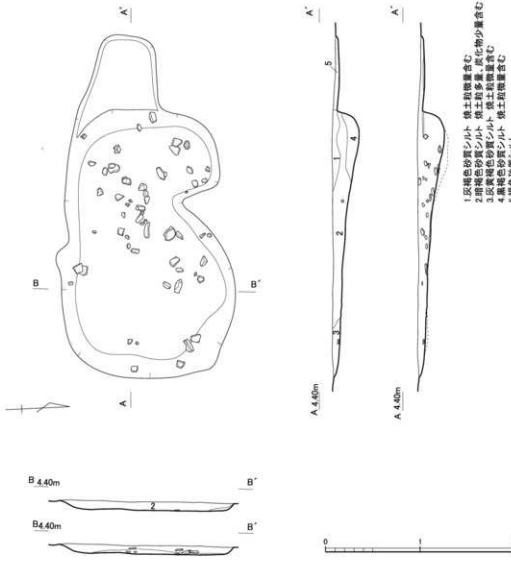
SK008（第21図）

調査区中央からやや南西部にある土坑である。東西1.8m、南北2.8m、深さは0.5mである。

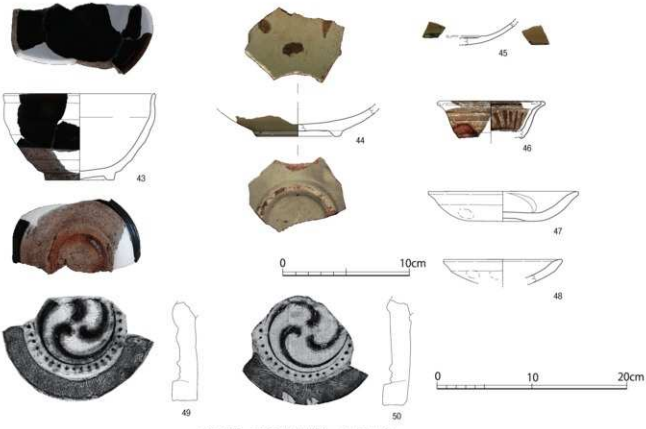
朝鮮王朝産白磁　折縁ソギ皿

出土遺物は第22図43から50である。43は瀬戸美濃系の天目茶碗。44は朝鮮王朝産の白磁皿。内面見込に胎土目が残る。45は漳州窯青花皿。46は瀬戸美濃系の折縁皿で、内面にソギがある。47と48は京都系土師器。49と50は軒丸瓦で、珠点が38個巡るC類である。

時期は、46の折縁ソギ皿は1590年以降である。1586年に半分ほど埋まっていたSD120が完全に埋まりきってから掘られた遺構であるので、1590年以降と考えて矛盾しない。



第21図　SK008(1/40)



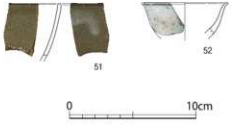
第22図　SK008出土遺物（1/3,1/4）

SK009（第23図）

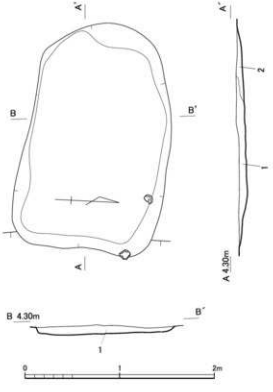
調査区北西角部近くで検出された土坑で、南北2.8m、東西1.5m、深さ約10cmの略長方形の土坑である。最も新しい第２南北街路側溝のSD034を切っている。あるいは、SD004やSD005と一体のものかもしれない。

出土遺物は第24図51と52である。51は陶器の碗、52は白磁の杯であるが、近世のものである。

時期は、第２南北街路が廃絶した後の近世である。



第24図　SK009出土遺物(1/3)



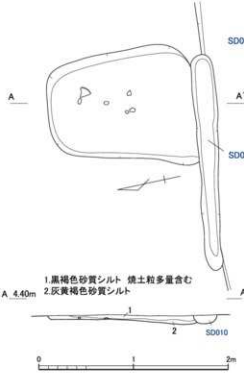
第23図　SK009(1/40)

SK011（第25図）

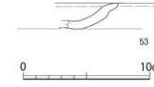
SD120が完全に埋まってから掘られた土坑で、SK010に切られている。南北1.6m、東西1.2m、深さ約10cmの略長方形となる。

朝鮮王朝産徳利

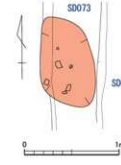
出土遺物は図示した第26図53の京都系土師器以外では、朝鮮王朝産徳利の小破片がある。



第25図　SK011（1/40）



第26図　SK011出土遺物（1/3）



第27図　SK069（1/40）

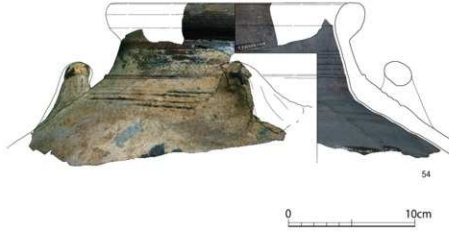
SK069（第27図）

窯

第２南北街路の東側側溝であるSD073が埋まった後、掘り込まれて焼土が堆積した土坑。0.9m×0.6mで、深さ５cm程の皿状で、楕円形を呈する。

タイメナムノイ四耳壺

出土遺物は第28図54で、タイのメナムノイ窯系の四耳壺である。



第28図　SK069出土遺物（1/3）

SK074（第29図）

調査区南側中央で確認されたSK075とSD071が埋まってから掘られた土坑である。出土遺物は図示できるものはないが、切り合い関係からこの時期のものと判断できる。規模は東西0.85m、南北1.2m、深さは15cmである。

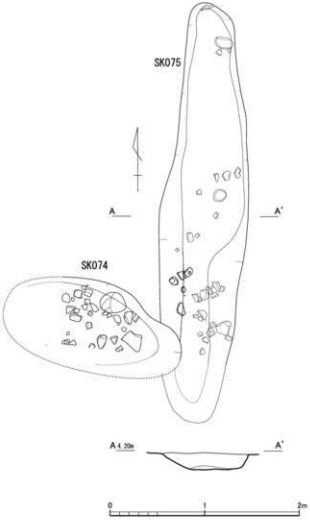
SK075（第29図）

調査区の中央南寄りで確認された溝状の土坑。幅0.80m、深さ0.15m、長さは4.4mであるが、南側は更に南に延びていたと考えられるが、削平を受けて消失している。

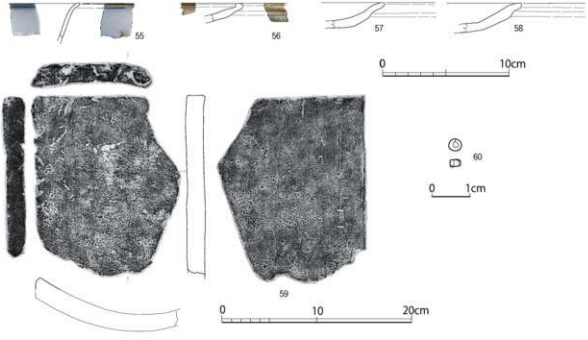
出土遺物は第30図**55**から**60**である。**55**は景徳鎮窯の青花椀で、口縁端部が小さく外反する。**56**は瀬戸美濃系の卸皿、**57**と**58**は京都系土師器、**59**は平瓦、**60**はガラス製の小玉である。

瀬戸美濃系
卸皿
ガラス小玉

遺物からは島津氏侵攻前か後かは判断できないが、遺構検出レベルからこの段階と判断した。



第29図　SK074 SK075(1/40)



第30図　SK075出土遺物(1/1,1/3,1/4)

SK093（第31図）

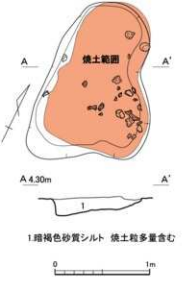
調査区中央から南西よりのところで確認された土坑で、内部には焼土が溜まっていた。南北1.60m、東西0.8～1.2m、深さは0.16mである。焼土とともに遺物が出土した。

出土遺物は第32図61と62である。61は景徳鎮窯青磁の菊花皿。62はタイのメナムノイ窯の四耳壺で、SD120出土のものと接合した。

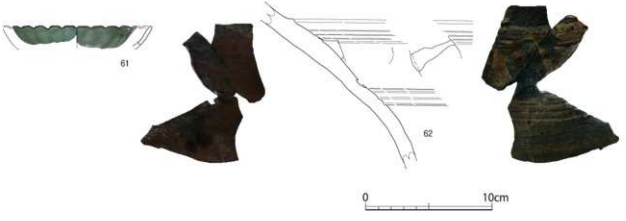
タイメナムノイ窯
四耳壺

火災処理

焼土が、島津氏侵攻時の火災処理に伴うものと判断し、この時期とした。



第31図　SK093(1/40)



第32図　SK093出土遺物(1/3)

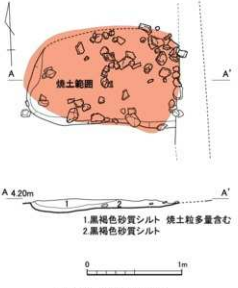
SK094（第33図）

調査区中央から南西よりのところで確認された土坑で、内部には焼土が溜まっていた。南北1.0m、東西1.58m、深さは0.12mである。焼土とともに遺物が出土した。

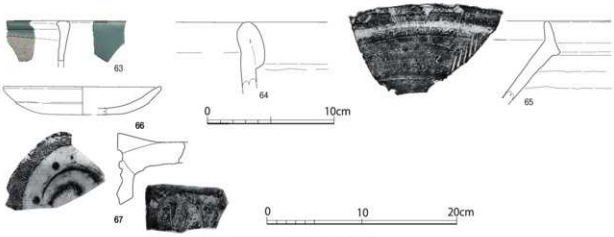
出土遺物は第34図63から67である。63は景徳鎮窯青磁の香炉。64は備前焼甕、65は備前焼擂鉢である。66は京都系土師器。67は軒丸瓦である。珠文帯の内側に圏線が廻らないA類か。

火災処理

焼土が、島津氏侵攻時の火災処理に伴うものと判断し、この時期とした。



第33図　SK094(1/40)



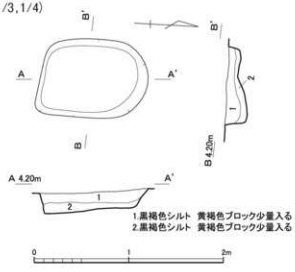
第34図　SK094(1/3,1/4)

SK096（第35図）

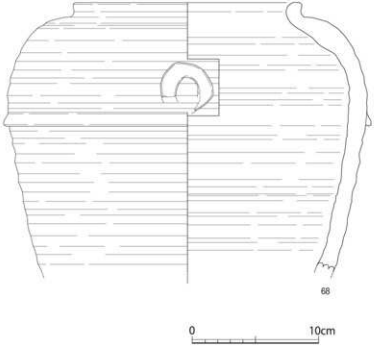
調査区中央南寄りで検出された土坑である。南北1.16m、東西0.78m、深さは0.19mである。焼土は入っていなかった。

出土遺物は第36図68の備前焼水屋甕である。SD120、SD116出土破片と接合した。

遺物の接合関係からこの時期とした。



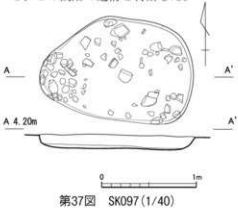
第35図　SK096(1/40)



第36図　SK096出土遺物(1/3)

SK097（第37図）

調査区中央南寄りで検出された土坑である。南北1.05m、東西1.61m、深さは0.15mである。SD071が埋まってから掘られた土坑で、図示できる遺物は無かった。遺構の切り合い関係や検出レベルから、この段階の遺構と判断した。



第37図　SK097(1/40)

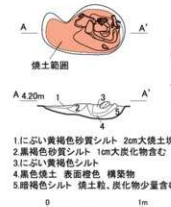
SK098（第38図）

炉壁

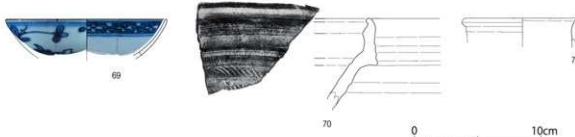
調査区中央から南西よりのところで確認された土坑で、内部には焼土が溜まっており、一部炉壁と思われる硬化した部分があった。SD044を切っている。南北0.48m、東西0.86m、深さは0.12mである。焼土とともに遺物が出土した。

出土遺物は第39図69から71である。69は景徳鎮窯青花の皿。70は備前焼擂鉢、71は同じく備前焼の壺である。

鉱滓等は出土しなかったが、製鉄などに伴う炉と考えられる。



第38図　SK098(1/40)



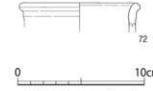
第39図　SK098(1/3)

SK099（第348図）

調査区南東寄りで検出された土坑である。南北1.68m、東西1.12m、深さは２～３cmとごく浅い。焼土は入っていなかった。SK143を切っている。

出土遺物は第40図72の備前焼の壺である。SD098出土破片と接合した。

遺物の接合関係からこの時期とした。



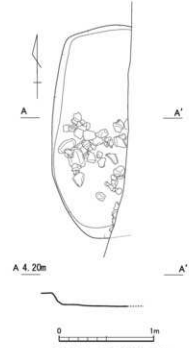
第40図　SK099(1/3)

SK100（第41図）

調査区南東部で検出された土坑である。東側半分は調査区外となるが、後に調査された第95次調査区内で検出されたSK060と繋がる。それを合わせると、東西巾約2.0m、南北6.04mで、深さは第88次では検出面を下げたことから0.12mであったが、第95次では0.80mであった。

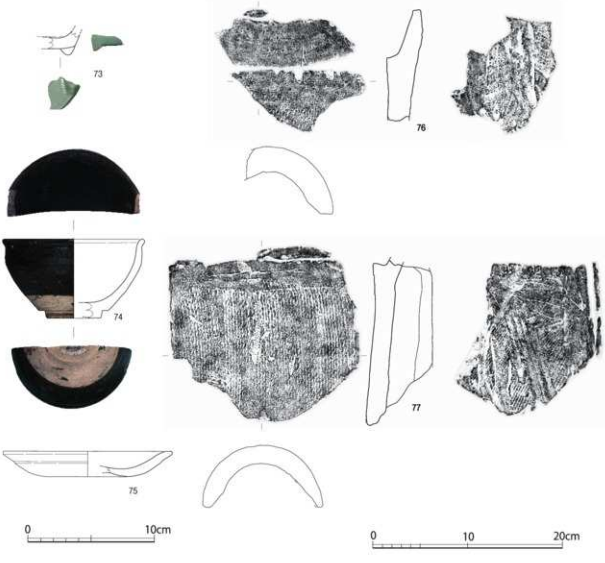
出土遺物は第42図73から77である。73は青磁の香炉。74は瀬戸美濃系の天目茶碗。75は京都系土師器。76と77は丸瓦である。

遺構の時期は、出土遺物からみると75の古手の京都系土師器から16世紀の中頃でも良いと思われる



第41図　SK100(1/40)

が、同じ遺構の続きが確認された第95次調査区（SK060）では遺構検出面が最上層であり、島津氏侵攻以後ということになる。

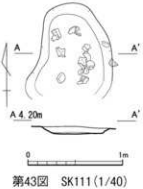


第42図　SK100出土遺物(1/3,1/4)

SK111（第43図）

SK207埋没後、すなわち大規模施設廃絶後に掘られた土坑である。東西巾0.80m、深さ0.08mであるが、南側は不明瞭となって立ち上がりは確認できなかった。

出土遺物は第44図78の瓦質土器火鉢の脚である。断面は円柱状となる。



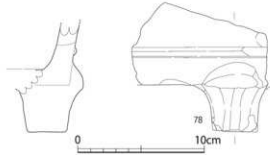
第43図　SK111(1/40)

SK116（第45図）

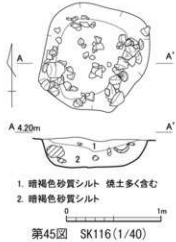
SD120埋没後に掘られた土坑である。1.00×1.08mの隅丸方形を呈する。深さは0.32mである。

出土遺物は第46図79から第47図87である。79は瀬戸美濃系の小型の天目茶碗である。80は備前焼の甕、81はタイのメナムノイ窯の四耳壺。82は備前焼の水屋甕。83は瓦質土器火鉢。84は京都系土師器。85は軒丸瓦でB類のもの。86は丸瓦。87は五輪塔の空風輪である。

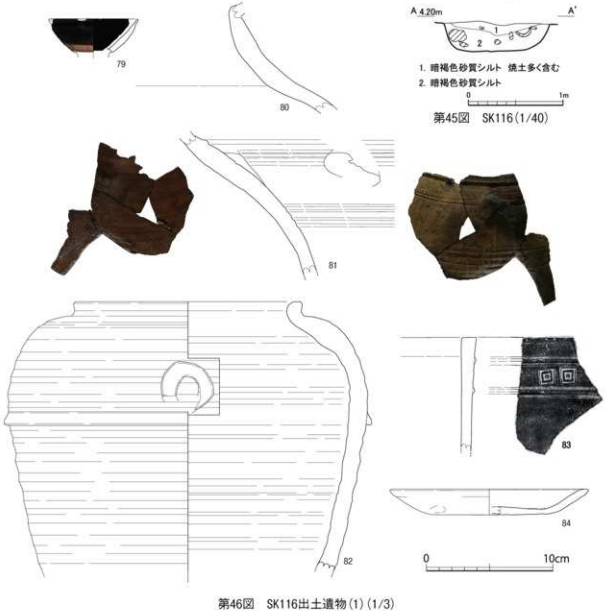
タイメナムノイ窯四耳壺



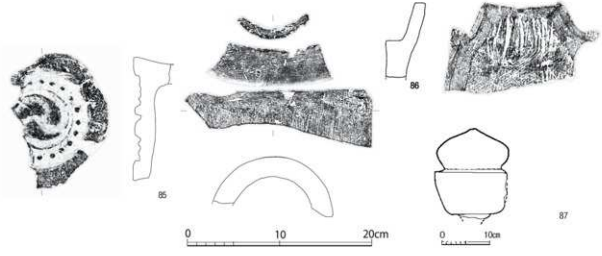
第44図　SK111出土遺物(1/3)



第45図　SK116(1/40)



第46図　SK116出土遺物(1)(1/3)



第47図　SK116出土遺物(2)(1/4,1/8)

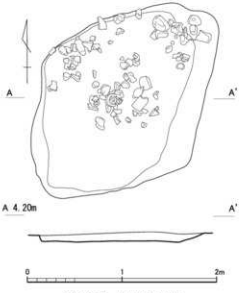
SK131（第48図）

SK207埋没後に掘られた土坑で、南北1.76m、東西1.80m、深さ0.08mの略方形を呈する。SK207は「大規模施設の時代」のものなので、それ以後の遺構ということになる。

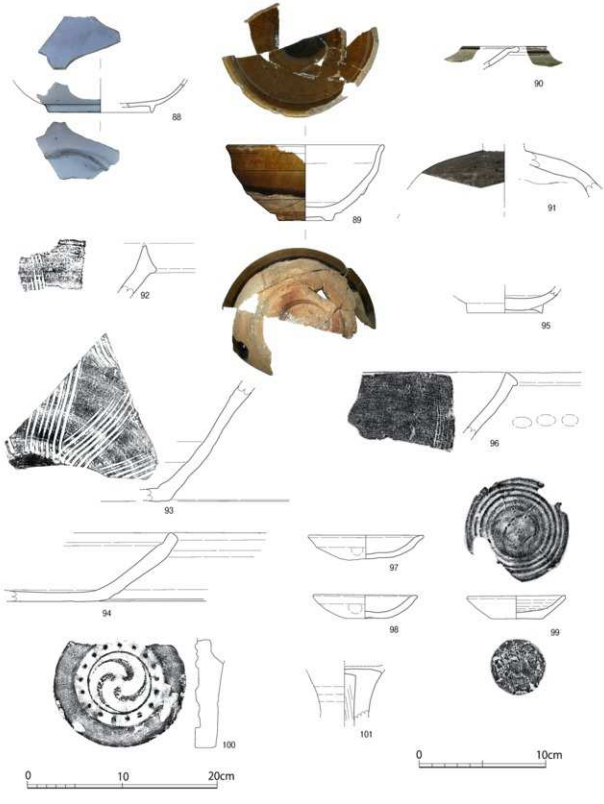
瀬戸美濃系
梅瓶

出土遺物は第49図88から101である。88は白磁の皿である。89から91は瀬戸美濃系の陶器で、89は天目椀、90は折縁皿、91は梅瓶である。91はSE070やSK101出土のもの（126、2628）と接合はしないが同一個体と思われる。92から94は備前焼。92と93は擂鉢、94は浅鉢である。95と96は瓦質土器で、95は埦、96は擂鉢である。97から99は土師器で、97と98は京都系、99は内面に轆轤目を残す。100は軒丸瓦で、珠点が17個巡り、中心の巴部分が小さいB類。101は弥生土器高坏。

以上の遺物からは島津氏侵攻後の遺構とは言えないが、切り合い関係からこの時期のものとする。



第48図　SK131(1/40)

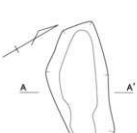


第49図　SK131出土遺物(1/3,1/4)

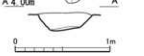
SK147（第50図）

SD120埋没後に掘られた土坑で、SD003Aに切られている。南北0.64m、東西1.28m、深さ0.16mの略長方形を呈する。

出土遺物は第51図102である。景徳鎮窯青花のB群の椀で、外面には唐草文が描かれる。



第50図　SK147（1/40）



第51図　SK147出土遺物（1/3）

SK150（第52図）

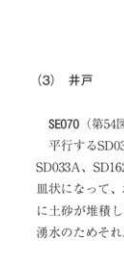
調査区中央やや北寄りで、単独で検出された土坑。南北0.98m、東西0.56m、深さ0.08mの楕円形を呈する。

出土遺物は第53図103と104である。103は見込に胎土目跡を残す朝鮮王朝産の椀。104は糸切りの土師器皿。

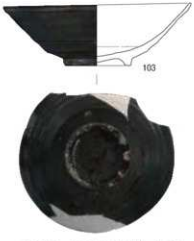
朝鮮王朝産椀

遺構の時期は遺物が少なく決まらないが、朝鮮王朝産の椀が「大規模施設」内部では遺構から出土しておらず、「大規模施設」の西側に道を挟んで展開する唐人町から廃棄された状態でSD120やSD142から出土していることを考えると、この遺構は「大規模施設」廃絶後のものである可能性が高い。

唐人町



第52図　SK150（1/40）



第53図　SK150出土遺物（1/3）

(3)　井戸

SE070（第54図）

平行するSD031とSD032に挟まれる形で検出された井戸。ただし、このSD031とSD032には切られ、SD033A、SD162、SD174、SK222を切っている。本来の堀形は直径約3.8mであるが、上部は浅い皿状になって、北側と南西側に広がりを見せる。おそらく井戸廃絶後に窪み状になっていたところに土砂が堆積したものと考えられる。井戸内部は、検出面から約1.8mで井筒の頂部を確認したが、湧水のためそれ以上の掘削はできなかった。井筒は、直径が0.3mほどになる桶である。

井筒

出土遺物は、第55図105から第61図190である。これらの多くが上部の窪み状になった部分からの出土である。確実に井戸内部からの出土のものは、127、130、177である。特に127は井筒の上部から出土している。105から113は青磁。105と106は鎬蓮弁文の碗。107は見込に刻花文がある。108と109は鍔縁の盤で、いずれも口縁部を花弁状に波打たせている。110には外面に連弁文、内面には屈曲部に波状文、底部に向かって花文を刻む。111は淡い発色の稜花皿で、内面に唐草文を刻む。112は香炉で、窓絵風の露胎部分を有する。口縁端部はT字状になり、口縁直下には唐草文が印花により横長に施されている。龍泉青瓷博物館にある「青磁印花仙人騎獅文香炉」と同形で文様もほぼ等しいようである[3]。これと同一と考えられる破片は、SD033A（559）、SD162（2324）と包含層（268,269）から合計５点出土している（文様については351頁参照）。113は水注の注ぎ口。114は白磁の坏。115から117は景徳鎮窯青花。115はB群の碗、116は皿または盤、117はB1群の皿。118は漳州窯青花の瓶。119は華南三彩の動物形置物。前脚後ろ脚とも折り曲げて屈んでおり、背中には敷物が掛けられている。象であろうか。120と121は中国産の壺である。122は高台に抉りが入る陶器。124には「招□」の印が押される。いずれも中国産。126は瀬戸美濃系の梅瓶でSK101出土の破片と接合し、

井筒

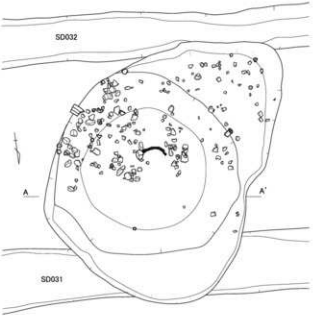
窓絵香炉

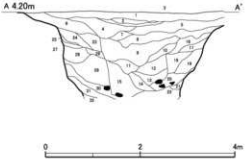
仙人騎獅文香炉

動物形置物

瀬戸美濃系

梅瓶





第54図　SE070（1/80）

(3)『日本人の愛した中国陶磁　龍泉窯青磁展』（龍泉窯青磁展開催実行委員会2012）の139ページ参照。龍泉大窯楓洞岩窯址の発掘品で、高さは120cmである。時期は15世紀とされる。

SE070ものとも同一個体か。127は瀬戸美濃系の丸皿。128は同じく天目茶碗である。129から131は唐津焼で、129は碗、130と131は皿である。132は軟質施釉陶器で、内面は黒色釉で外面は底部方向から口縁に向かって緑色の釉が垂れる。133から141は備前焼。133の壺肩部には窯印がある。134と135は甕、136から138は擂鉢である。139は水指で、口縁端部は蓋を受けられるように内傾する面をなしている。140は小壺、141は徳利の口である。142は常滑焼の甕。143から145は瓦質土器。143は埦、144と145は上面から見た時六角形になる良質の花瓶（？）。外面には亀甲繋ぎがスタンプされる。SD142と包含層からも同一個体と思われるもの（1869、329）が出土しており、それによると144などの破片のすぐ下からハ字状に開く脚部となる。同じ個体と思われるものは第72、80次などでも出土している。146から157は火鉢。火鉢には三タイプあり、緩やかに内湾するもの（146）、口縁部が強く屈曲し上面が面をなすもの（147、148）、直口口縁で、２条の突帯を巡らせるもの（149から154）、である。脚は猫足になるもの（155、156）と雲板状になるもの（157）がある。158は鉢、159も鉢か。160は鍋。161は京都系土師器。162と163は土師器小皿。164から168はメンコ。169から181は瓦。169と170は軒瓦で169はＢ類の軒丸瓦、170はａ類の軒平瓦。171から175は丸瓦。176と177は瓦の反りが無いので塼か。178と179は平瓦。180は伏間瓦、181は円文を刺突する鬼瓦。182と183は石臼の下臼。184から186は硯である。187は銅製鍋の取っ手。188は銅製であるが用途は不明である。189は八角形の柱状を呈し、上部を刳りぬいている。無縫塔の竿部である。190は1023年初鋳の「天聖元寶」である。

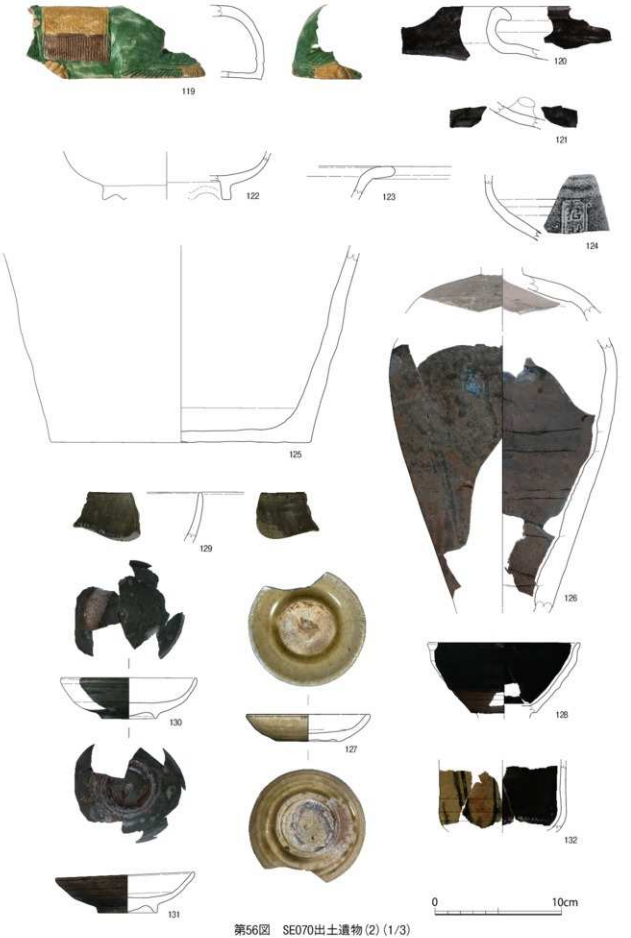
備前焼
常滑焼
瓦質土器
土師質土器
伏間瓦
銅製鍋
無縫塔

以上の遺物から見て、完全に埋まってしまったのは1590年代以降となるが、機能していた時期がそれ以前のいつまで遡れるかは不明である。

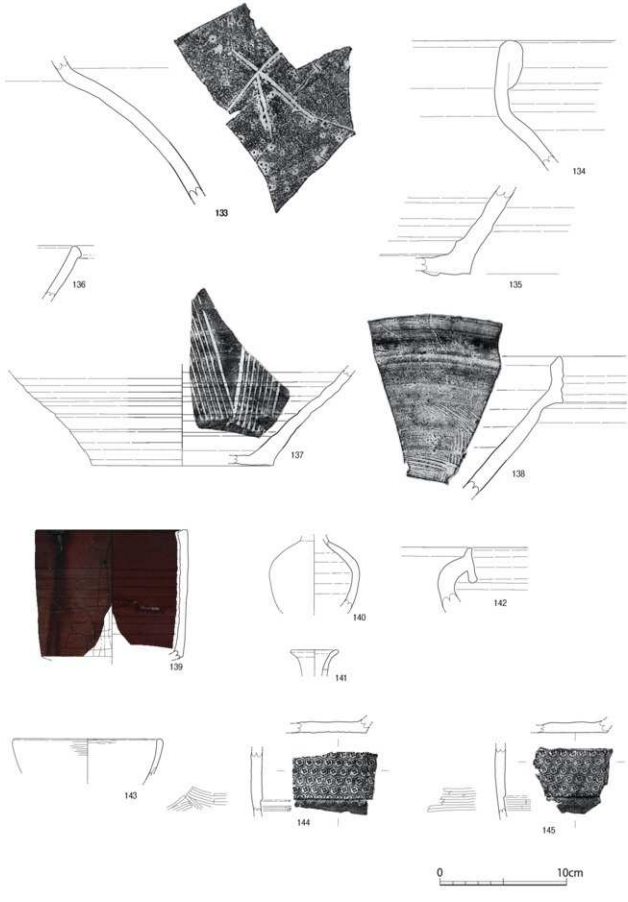
第54図の土層説明

1.灰黄褐色砂質シルト 焼土粒少量含む
2.灰黄褐色砂質シルト 焼土粒多量、粗砂粒含む
3.灰黄褐色砂質シルト
4.黄灰色砂質シルト 灰色土ブロック多く含む
5.黄灰色砂質シルト
6.にぶい黄褐色砂質シルト 焼土粒微量含む
7.灰黄褐色砂質シルト 焼土粒微量含む
8.灰黄褐色砂質シルト 焼土粒少量、黄灰色ブロック、炭化物少量含む
9.褐灰色砂質シルト 焼土粒・炭化物少量含む
10.灰黄褐色砂質シルト 黄褐色ブロック多く含む
11.灰褐色粘質シルト 焼土粒少量含む
12.にぶい黄褐色粘質シルト 黄褐色ブロック少量含む
13.暗褐色粘質シルト 黄褐色ブロック少量含む
14.暗褐色粘質シルト
15.黒褐色粘質シルト
16.暗灰黄色砂質シルト 焼土粒微量含む
17.暗灰黄色粘質シルト 灰白色ブロック多く含む
18.黒褐色砂質シルト 灰白色ブロック少量含む
19.黒褐色砂質シルト 粗砂粒少量混じる
20.黒褐色砂質シルト 粗砂粒多量混じる
21.暗オリーブ褐粘質シルト 黄褐色ブロック多く含む
22.黒褐色粘質土
23.黒褐色砂質シルト 黄褐色ブロック少量含む
24.灰黄褐色砂質シルト 黄褐色ブロック少量含む
25.黒褐色砂層
26.黒褐色砂質シルト
27.黒褐色砂層 黄褐色ブロック多く含む
28.にぶい黄褐色砂質シルト 焼土粒、炭化物少量含む
29.にぶい黄褐色粘質シルト 褐色ブロック少量含む
30.黒色砂層 暗褐色粘質土ブロック少量含む
31.黒色砂層
32.黒褐色粘質土

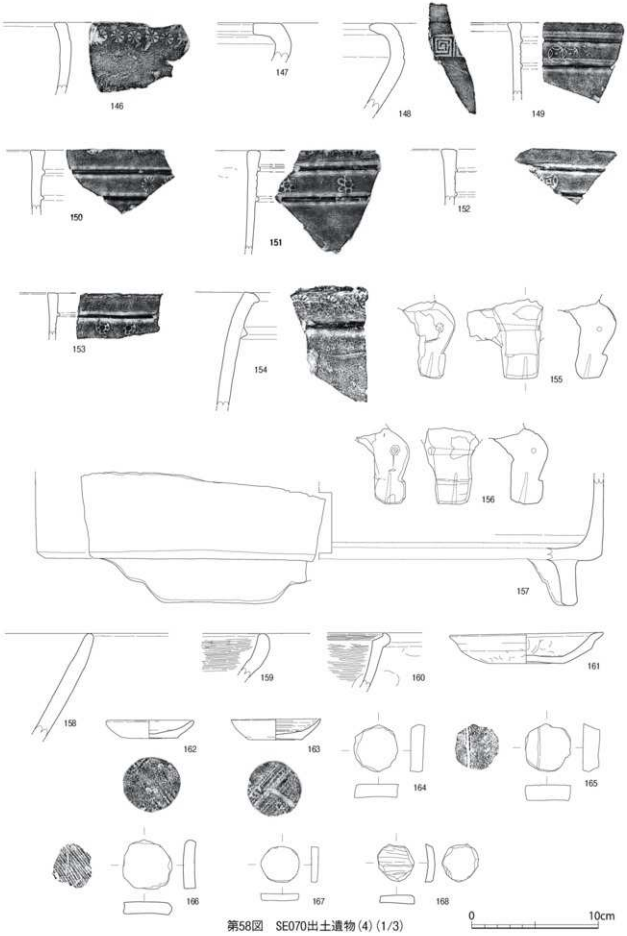
第55図　SE070出土遺物(1)(1/3)



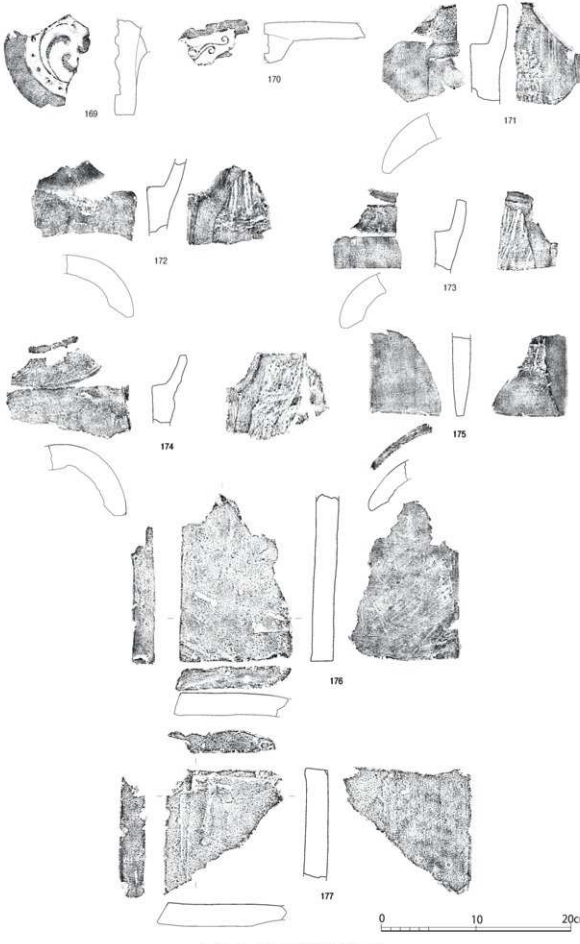
第56図　SE070出土遺物(2)(1/3)



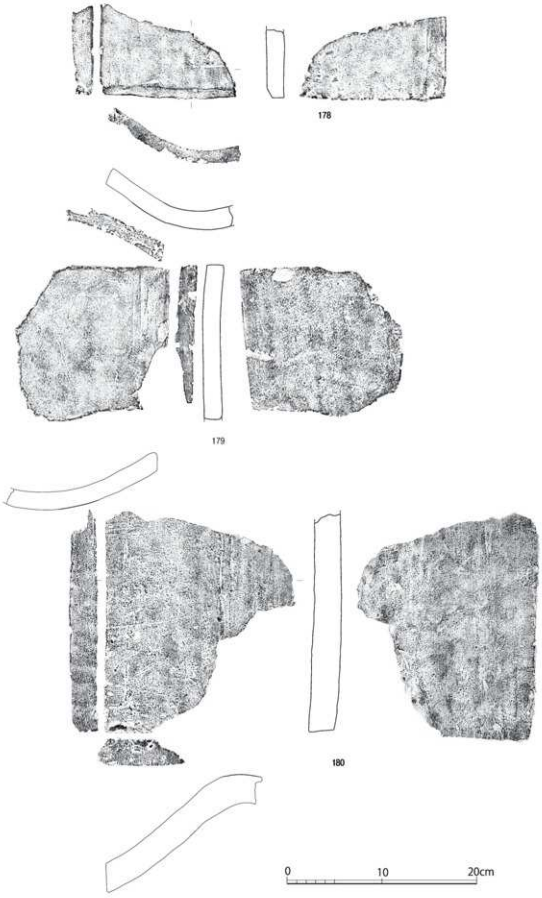
第57図　SE070出土遺物(3)(1/3)



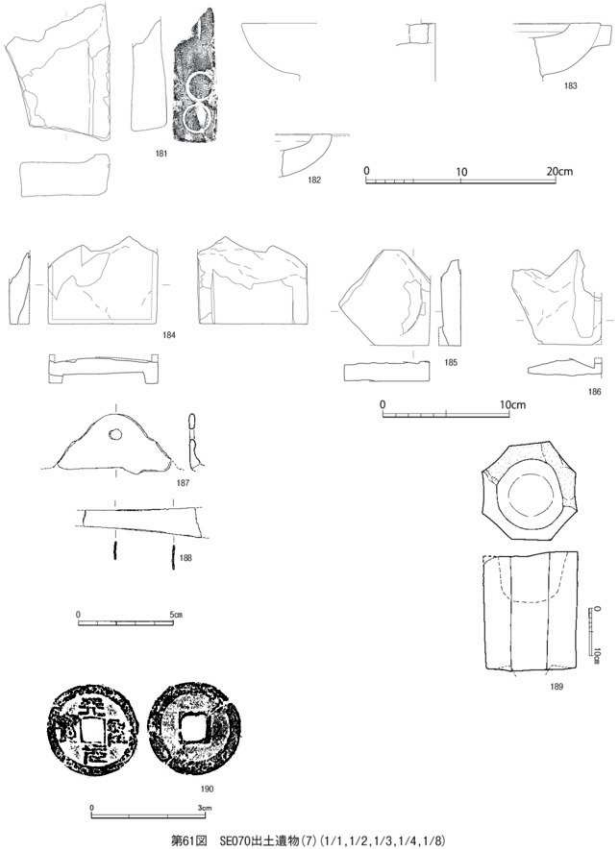
第58図　SE070出土遺物(4)(1/3)



第59図　SE070出土遺物(5)(1/4)



第60図　SE070出土遺物(6)(1/4)



第61図　SE070出土遺物(7)(1/1,1/2,1/3,1/4,1/8)

(4)　その他

SX178（第62図）

大規模な堀（SD120）で囲まれた内部にあたる地点で、南北4.25m、東西2.80mにわたって瓦を中心とした遺物が集中していた。いわゆる瓦溜まりである。

瓦溜

出土遺物は、第63図191から第73図258である。191は白磁碗で、口縁端部が小さく外反する12世紀のものである。192は青花皿で菊花が描かれる。193は小野分類E群の青花皿である。194から196は備前焼で、194は徳利の底部、195は徳利、196は甕の口縁部である。197と198は瓦質土器で、197は火鉢、198は甕である。199から258が瓦である。199から205は軒丸瓦で、199は巴文が大きく、珠文が17個あるA類、200は巴文が小さな圏線に納まり、珠文が17個のB類、201から205は大きな巴文に、珠文が38個のC類である。206から213は軒平瓦である。206から209は比較的端正な蓮華文を中心飾りに持ち、蔦の途中に蕾を持つ、最後が上向きの反転の瓦当（d類）である。210はa類と思われる破片。211は簡略化された宝珠を中心に持つもので、左右に４反転する小型の瓦当（c類）である。212と213は瓦当文様が不明である。

吊紐痕
面取り

214から240は丸瓦である。内面は、大きくU字形に垂れる吊紐痕を持つもの（214や221など）と、狭い間隔で幾条もの直線的な吊紐痕を持つもの（232）がある。玉縁凸側端部の面取りは、比較的しっかりされたものが多い。さらに形態的には、227から231に見られるような、孔のあいた（貫通はしない）仕切り板状のものを玉縁側に持つものがある。このような丸瓦はSD120などでも出土している一方、15世紀代のSK061では出土していないので、少なくとも16世紀以降に使用されたものと言える。さらに時期を詰めれば、SD120が機能していた1570年代に使われていた可能性が高いだろう。

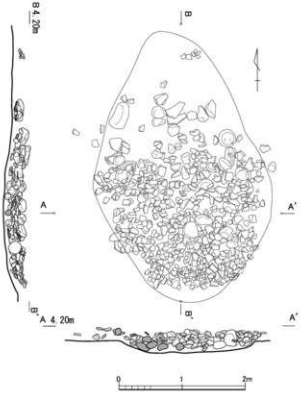
小型化
面取り

241から251は平瓦である。瓦中央部の幅は22cmから23cmであり、15世紀代のSK061の26cm前後と比べると小型化している。これに伴う瓦当の一つは、横幅が22cmで宝珠を中心飾りに持つc類のタイプとなろう。凹面広端側の面取りが直線的ではなく、小さく扇形になされるものがある（243や253など）。この時期の特徴であろう。

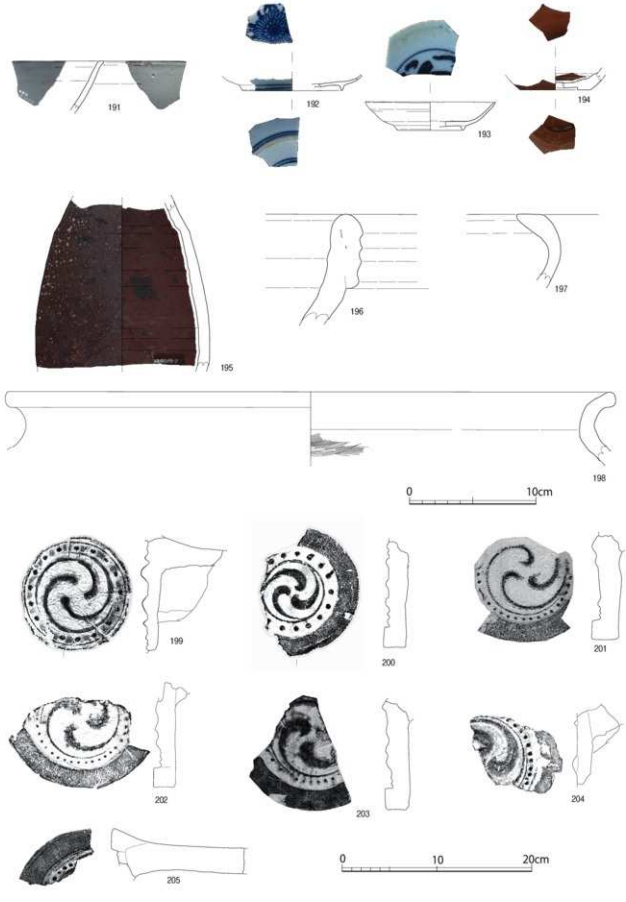
鬼瓦
面戸瓦

252は塼、253は端部が突出する平瓦、255は鬼瓦、254は面戸瓦である。鬼瓦は、額の部分と思われる。面戸瓦は専用品である。

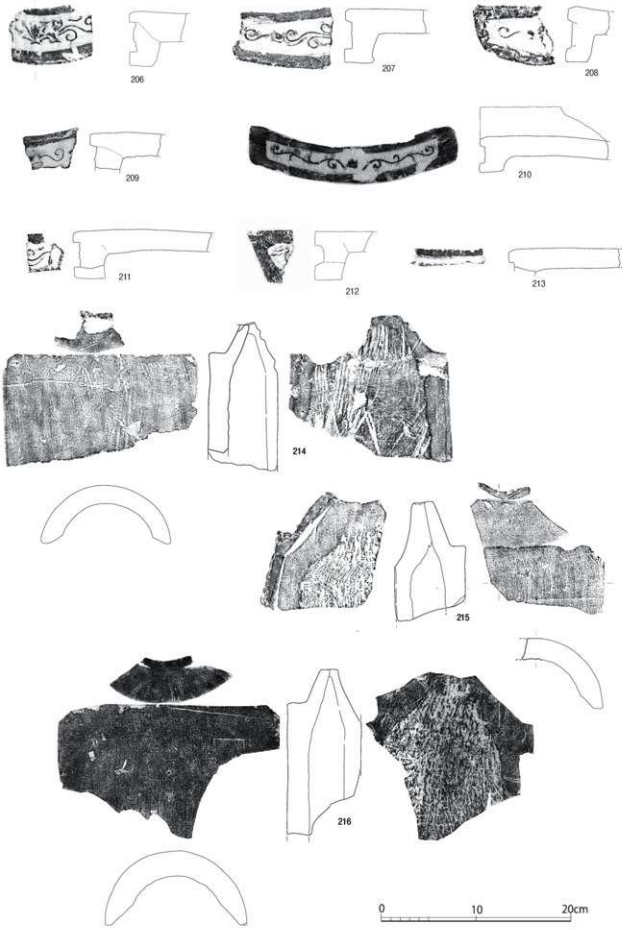
このSX178の時期は、遺構のある地点や出土遺物から、大規模施設に伴う瓦が施設廃絶後に遺棄されたものと考えられる。



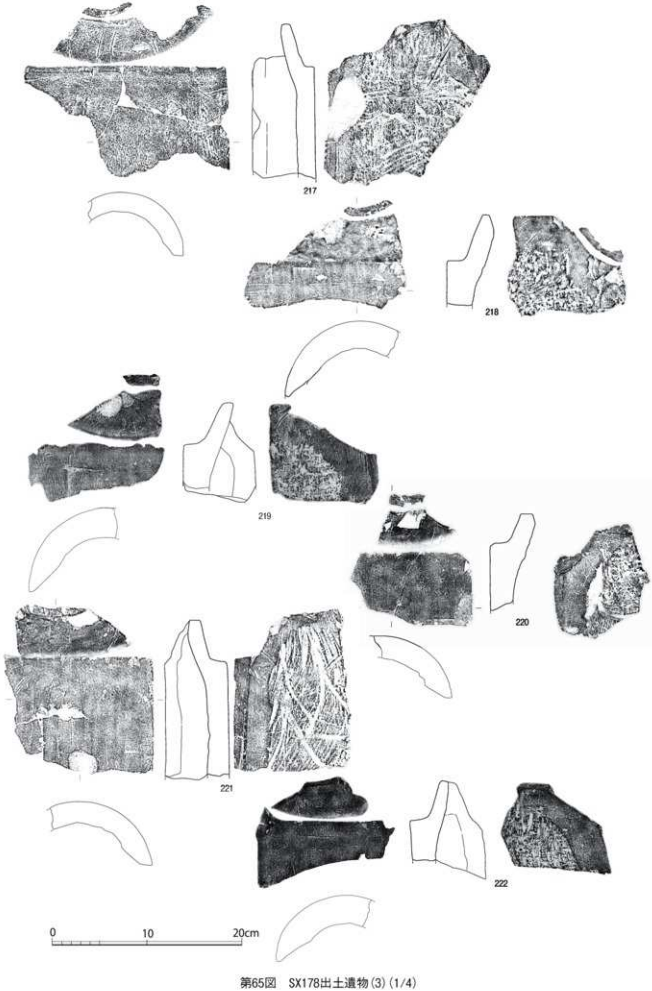
第62図　SX178(1/60)



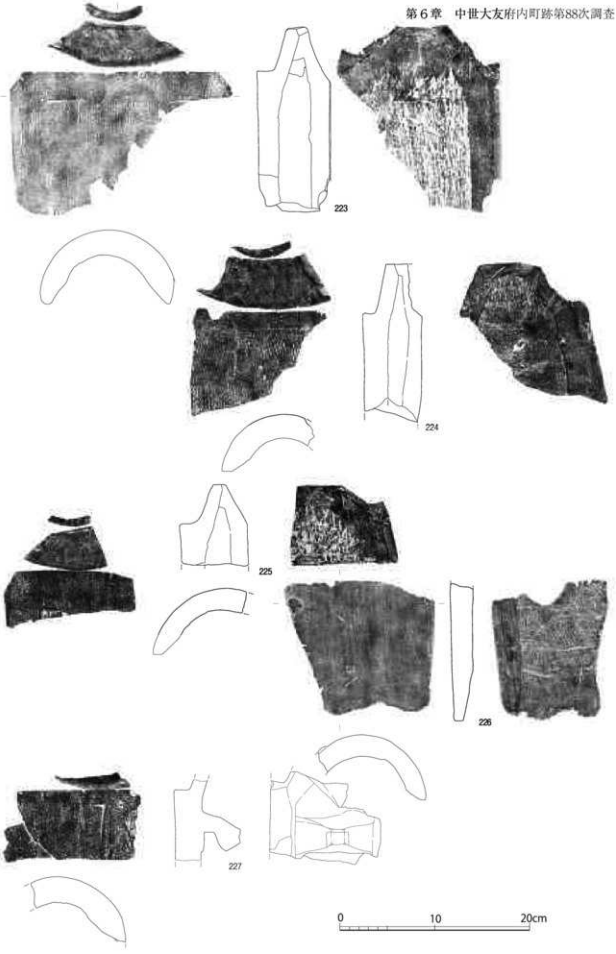
第63図　SX178出土遺物(1)(1/3,1/4)



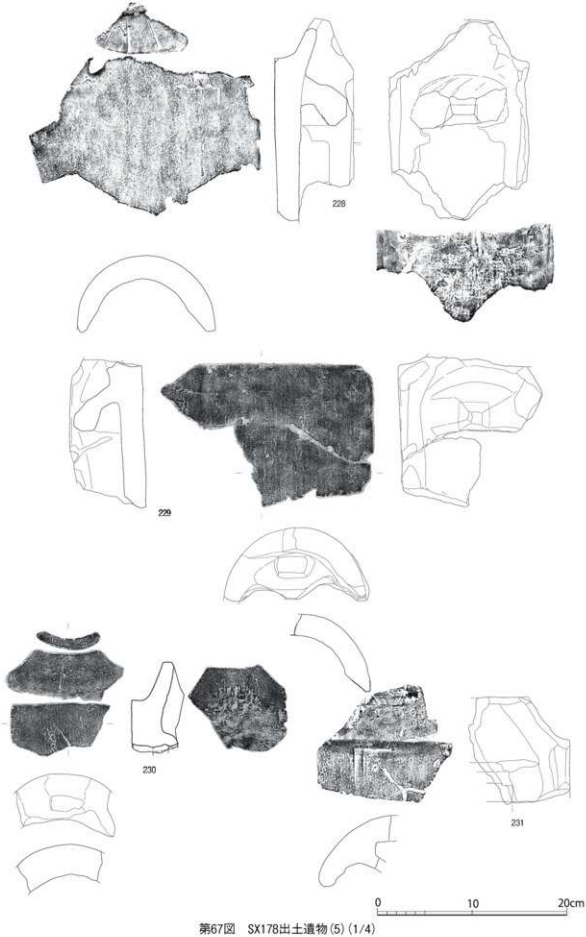
第64図　SX178出土遺物(2)(1/4)



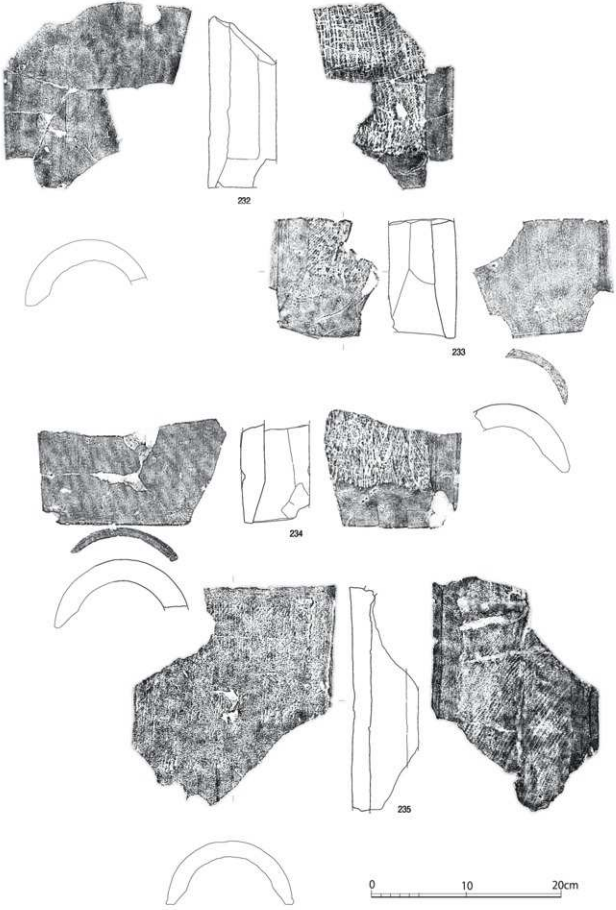
第65図　SX178出土遺物(3)(1/4)



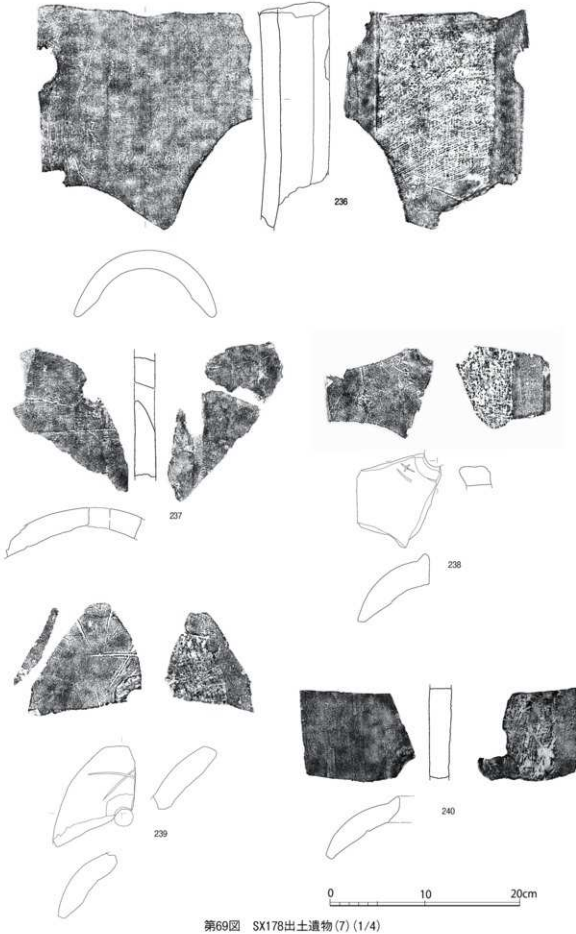
第66図　SX178出土遺物(4)(1/4)



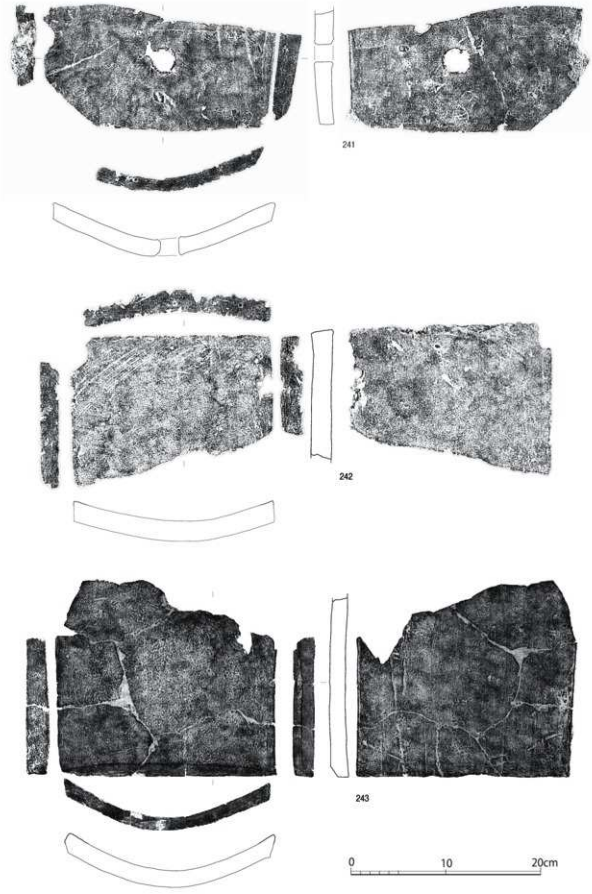
第67図　SX178出土遺物(5)(1/4)



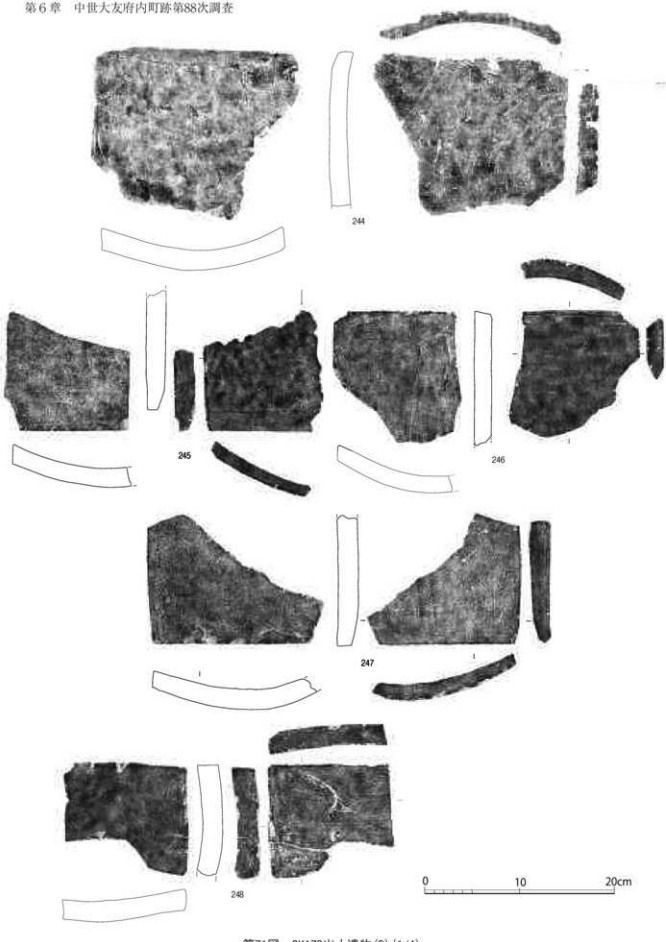
第68図　SX178出土遺物(6)(1/4)



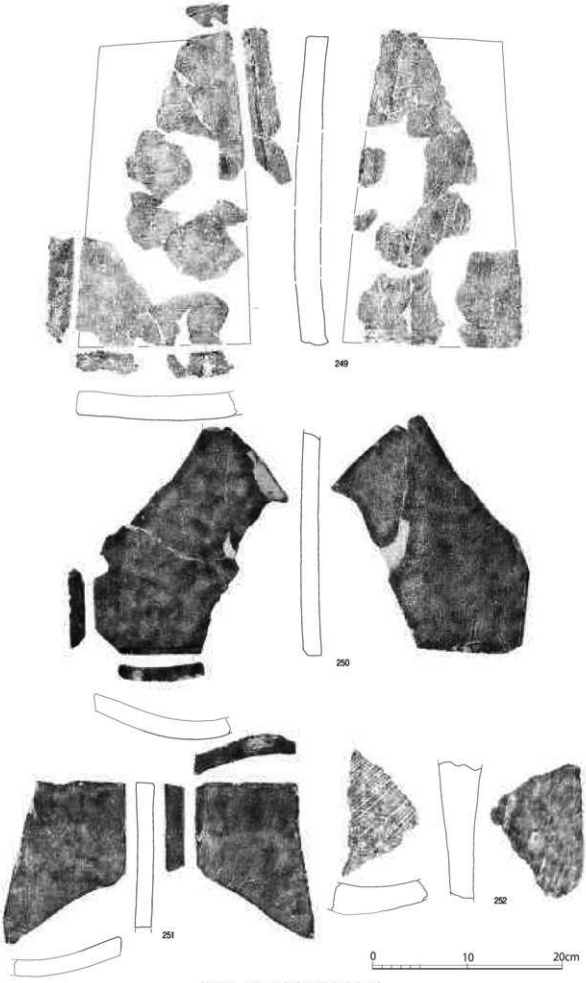
第69図　SX178出土遺物(7)(1/4)



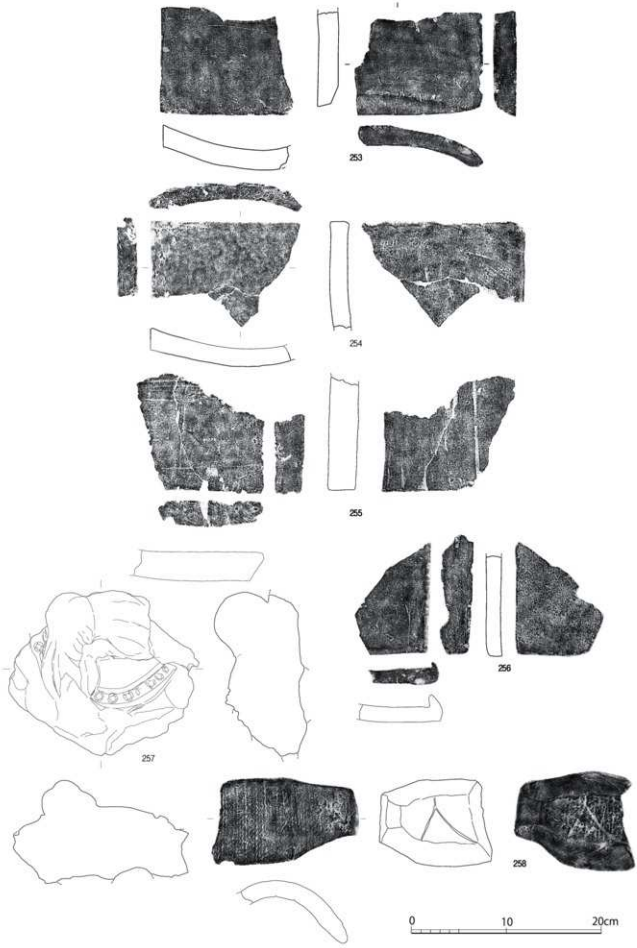
第70図　SX178出土遺物(8)(1/4)



第71図　SX178出土遺物(9)(1/4)



第72図　SX178出土遺物(10)(1/4)



第73図　SX178出土遺物(11)(1/4)

包含層

調査概要の項で述べたように、調査区のほぼ全面が４層とした、若干焼土粒を含む土で覆われており、天正14年12月の島津氏侵攻後の復興に伴う整地層が表土化した土層と考えられる。この土の中からは多量の遺物が出土している。それらについてここで報告する。

整地層

第74図259から第81図413までが包含層出土遺物である。259から271は青磁である。259から266は龍泉窯青磁碗で、260には見込みに花文が描かれる。262は外面に雷文帯がある碗、263は渦文状の櫛描き文が描かれる破片で、器種は不明である。264は瓶の口縁部、265は水注の注ぎ口か。266は内面に蓮弁文を描く鐙縁盤。267から269は香炉で、267は口縁部が小さく折り曲げられるもの。268と269は、SE070の112と同一個体で、前記したように、釉を掛けずに窓絵風に印花で絵を描いている。絵の中には牡丹の除にくじゃくのような鳥が描かれている。270は青磁の香炉の脚部である。271は置物の動物の耳か。272から280は白磁である。272は12世紀から13世紀代の玉縁の碗、273は直口する口縁の碗、274は内面に暗文で花文を描く。275は合子の蓋で、外面には帖花で文様を描く。276と277は皿で、いずれも外底面は露胎、277は見込みも露胎である。278は上面観が六角形を呈し、中央に孔がある。外面は蕉葉文がある。器種不明。279は内湾する口縁部で、外面に褐色の釉薬がかかる。280は外面に白色の釉がかかる。

281から287は青花。その内281から285は景徳鎮窯、286と287は漳州窯。281は見込みに折花文、外面に唐草文を描く微頭心の碗。282は見込みに山水？を描き、高台内に「洪武年造」の銘款がある。

王壺春瓶

283は蕉葉文とその下に七宝繋ぎ文を描く玉壺春瓶の口縁部。284は菊花皿。285はやや深めの鉢状のもので、稜花をなす口縁部内外面に唐草文を描く。286は見込みに草文？を描く皿。287は見込みを蛇の目釉剥ぎし、中心に丸を重ねたような文様を描く稜花の皿。稜花は山が１つと２つの単位で廻る。SD120の955とほぼ同じもの。

華南三彩

288から292は華南三彩。288は磁竈窯盤の口縁部、289は水注の注ぎ口、290から292は場所が不明ある。293は瑠璃釉、294は紅釉の小皿である。

菊花天目茶碗

295は中国産天目茶碗。296から306は瀬戸美濃系。296は菊花天目茶碗。褐色に発色する釉薬の上に、黄色の釉薬を菊花状に内外面に掛けたもので、著名なものでは藤田美術館所有中興名物の重文がある。大友中世府内町跡では初めての出土である。297から299は通常の黒釉をかけた天目茶碗。

志戸呂焼

300から305は小皿。302には内面にソギがある。306は片口の柄。307は志戸呂焼の天目茶碗。

ベトナム長胴瓶

308と310は中国産の壺、309は鉢である。311と312は備前焼。311は壺、312は水屋甕である。

313はベトナムの長胴瓶。314は唐津焼碗。315から331は瓦質土器。315は壺、316と317は天目茶碗を写した碗。318から321は淺鉢型の火鉢。322と323は風炉、324と325は深鉢、326は口縁部が大きく開く多条突帯の火鉢。327は柱状の脚。328は香炉で板状の脚が３箇所に付く。329は花瓶の脚で、上面観が六角形になるもの。SE070出土の144、145やSX310出土の1965の脚部分になる。330は口縁部に七宝繋ぎと梅花文がスタンプされる香炉か。331は擂鉢。

犬形土製品

332は京都系土師器。333はミニチュアの杯。334は素焼きの土鈴。335は犬形土製品で顔の半分が削られる。336は目貫金具の鋳型でリング状の線が文様として刻まれている。337と338は素焼きの土鍾、339は瓦質のメンコ、340は亀の文様を描く蟬緑凝灰岩製の硯、341はガラス製小玉である。342は茶臼の下臼、343は挽き臼の上臼。344から346は鬼瓦の角。

目貫金具鋳型

亀の文様

鬼瓦

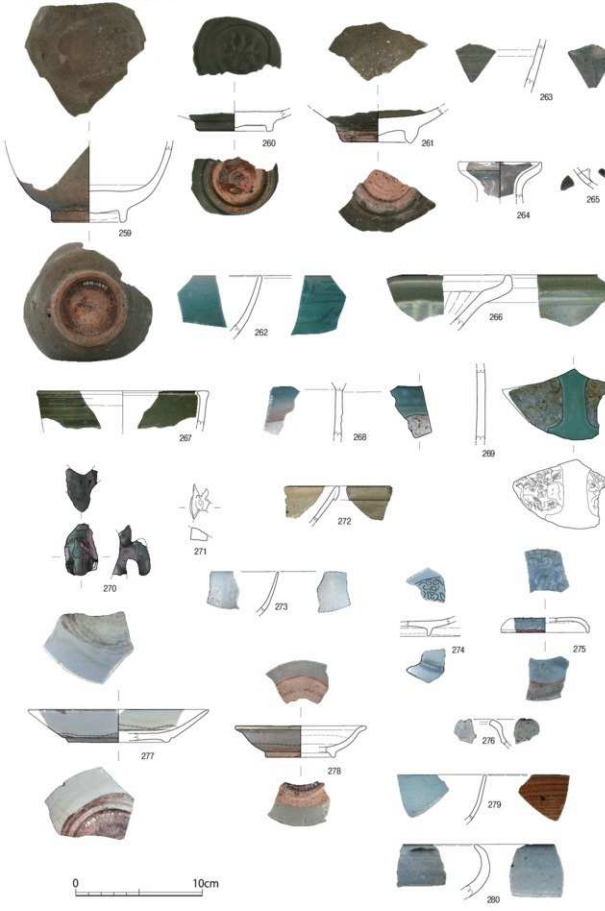
347から393は銅銭である。389から393は、包含層上面からの出土である。(銭種は遺物一覧表40･41参照)

394から413は金属製品である。394は皿状の銅製品、395から401は銅製の棒状のもので、断面が方形になるものと円形になるものがある。402は真鍮製の煙管吸い口。403は片側が折り曲げられている銅製の板状製品。404は銅製。405は算木文が鋳造された分銅。406は板状の銅製品、407はやや湾曲する２カ所に穴のあいた板状のもの。408は鉄砲玉。409から412は銅製品。413は梔型の鉄滓。

煙管

分銅

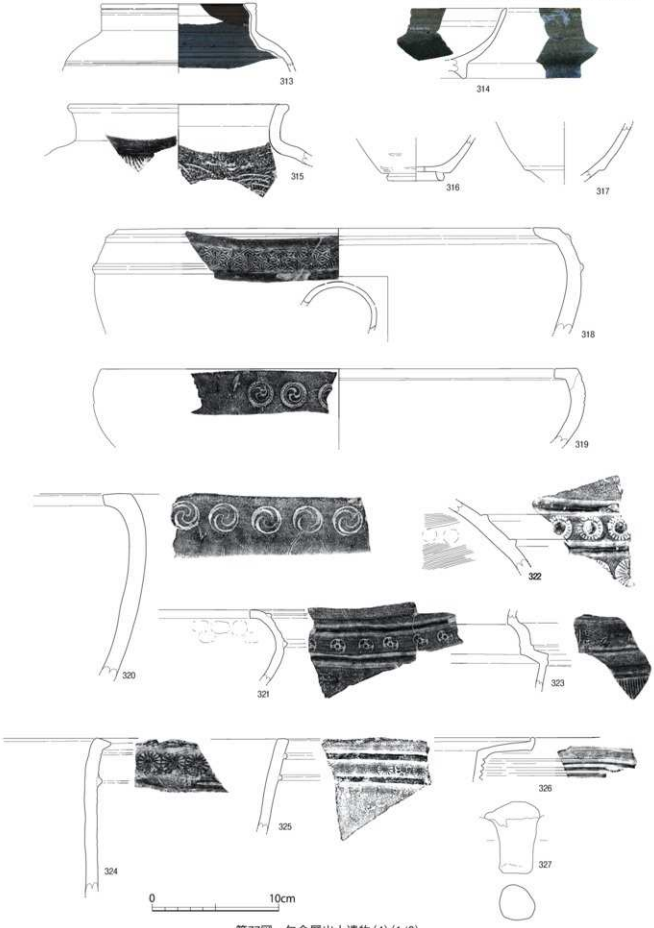
梔型滓



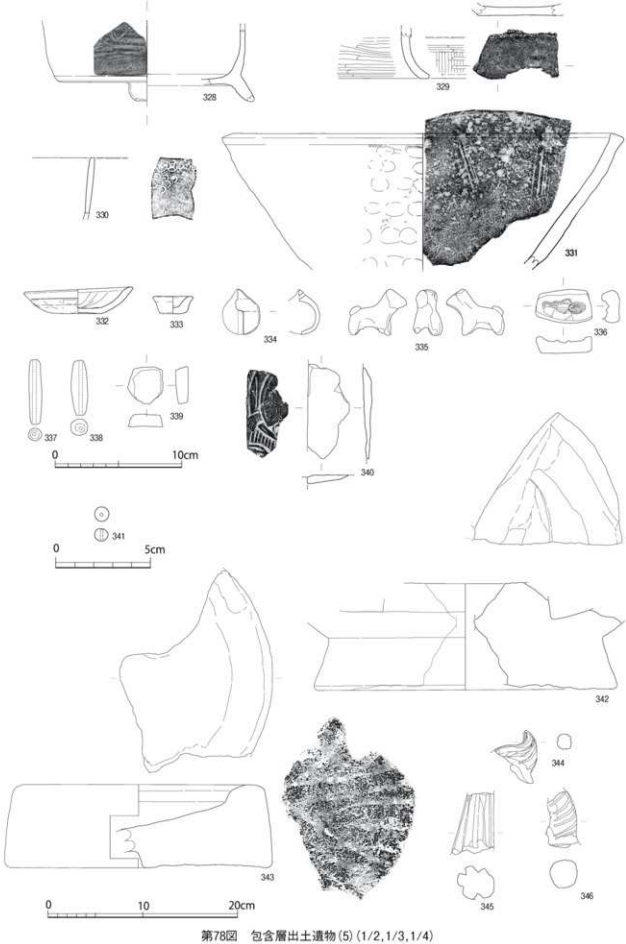
第74図　包含層出土遺物(1)(1/3)

第75図　包含層出土遺物(2)(1/3)

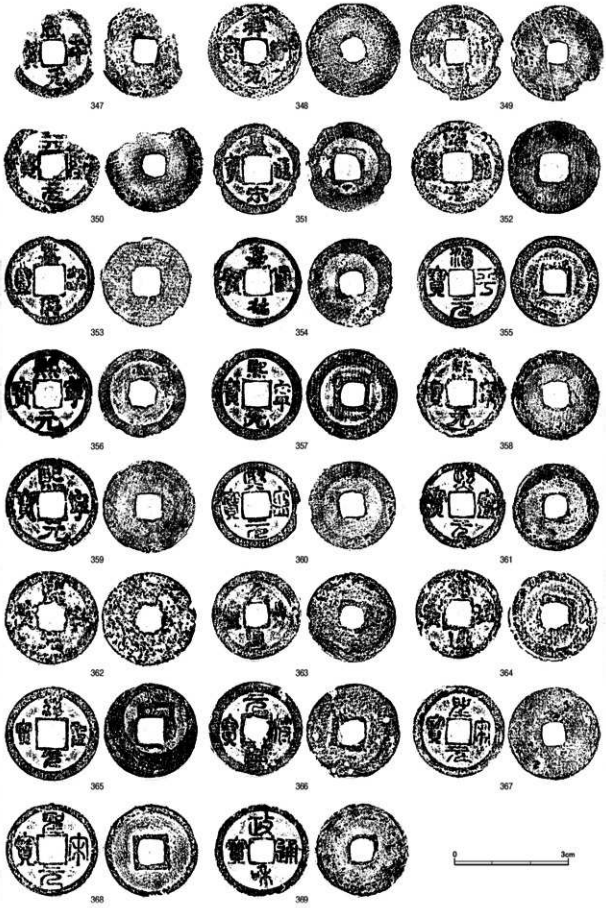
第76図　包含層出土遺物(3)(1/3)



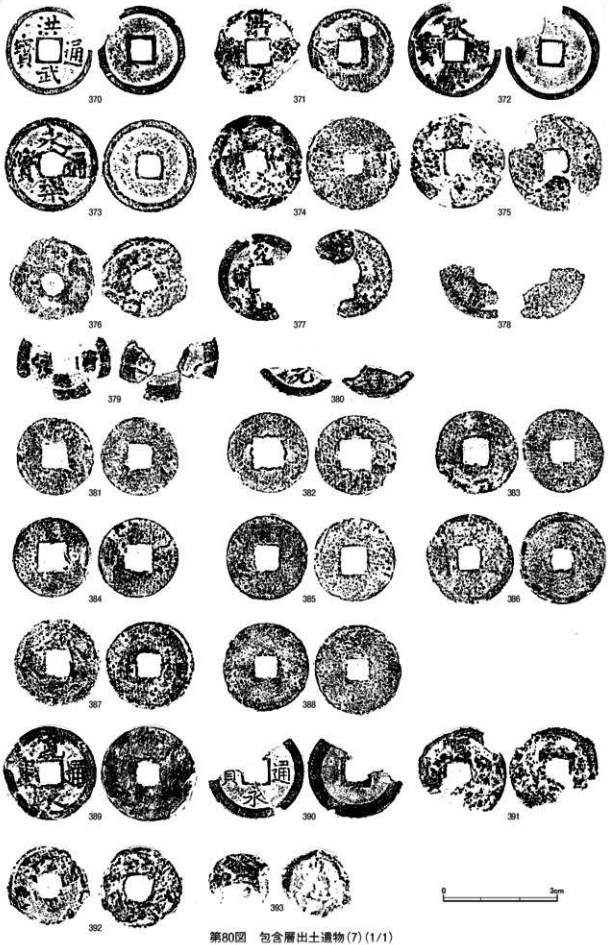
第77図　包含層出土遺物(4)(1/3)



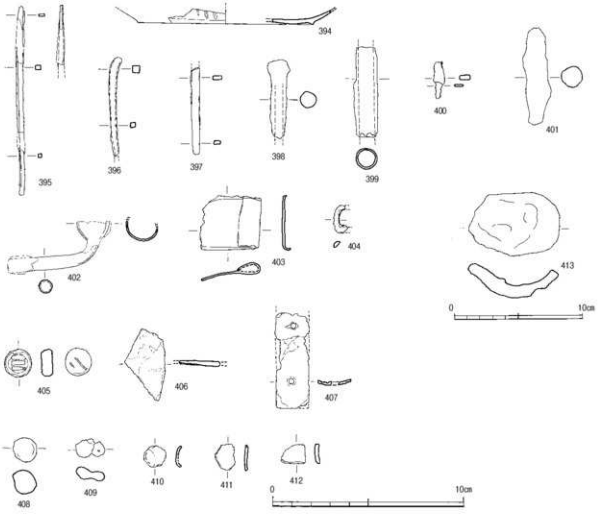
第78図　包含層出土遺物(5)(1/2,1/3,1/4)



第79図　包含層出土遺物(6)(1/1)



第80図　包含層出土遺物(7)(1/1)



第81図　包含層出土遺物(8)(1/2,1/3)

２　「大規模施設」段階（1570年頃～1586年頃）の遺構・遺物

この段階は、SD120さらには南に隣接する各調査区で確認されたSD120に繋がる堀で囲まれた何らかの施設（以下では「大規模施設」と呼ぶ）が作られていた時期である。しかし、厳密に言うと二時期に分けられる。すなわち、SD120が機能していた時期（＝大規模施設が機能していた時期）と、SD120が半ば埋められ、SD142が第２南北街路側溝として機能していた時期である。前者と後者の境をどこに置くかは考古資料からでは決めることは不可能であるが、歴史的状況から1584年に置ける可能性が指摘できる。このことについては、第９章総括にやや詳しく記したので参照願いたい。ここでは、切り合い関係などから両者が峻別できるものについてはその旨を記すに留め、その他の遺構については同一時期として扱う。

大規模施設

（1）　道路

第２南北街路

第２南北街路（第82図）

調査区の西側に沿って南北方向に確認された道路跡である。「府内古図」に基づいて復元された府内の町の南北街路の内、東から２番目の街路である。従前の調査でも、ほぼ絵図からの復元案通りに街路が確認されており、今回も事前に想定されていたものである[4]。

まず、調査区北壁の断面図（第３図）を見ながら説明する。後の道路で削平されていないとすれば、最も古い道路跡は標高3.5mの面になる。この標高では、15世紀のSD160の検出面より約50cm低いことになる。つまり、道路構築の際に最低でも50cm程度の掘下げを行っていたことになる。道路面は小石を多量に含んで硬く締まった面と、シルト質の土が互層になっており、その互層が２回ほど繰り返した後、道路西側でSD223が道路面を削りながら掘られている。東側のSD120との関係は第３図では判らないが、SD120の土層断面図（第111図）では、SD223とほぼ同じ面から掘削されていることがわかる。すなわち、最も古い段階の道路側溝は後の遺構に削られ判らないが、次の段階では、東側にSD120が、西側にはSD223が掘削されたことがわかる。この段階の道路幅はほぼ5.0mとなる。しかし、道路跡との関係は不明ながら、SD223とほぼ平行して南北に延びるSD253の存在がある。SD223が掘削される以前の道路西側側溝であった可能性もあるが今回の調査では判断できなかった。

SD120との関係

その後、SD223は比較的短時間で埋められ、その上に更に道路面が構築される。すなわち若干の道路拡幅がなされることになる。この段階の西側側溝はSD035である。この段階では道路幅が6.2m程度となる。この道路面の上部には再び道路面が作られることはなく、焼土が混入した黒褐色シルト層が道路中央部分の約２m幅を残して覆うのである。この黒褐色シルト層に含まれる焼土は、天正14年12月の島津氏侵攻時の火災に伴うものと判断しており、この火災を契機として再び大規模な道路改修は行われることが無くなったことを示している。

道路拡幅

島津侵攻

さらに江戸期になると、道路幅が約１mほどに縮小し、両側が水田になっている。つまり、府内の町が移転した後は、第２南北街路は水田の畦畔として利用されたことが推測されるのである。

水田化

---

(4)道路遺構は今回の３時期区分では、少なくともこの時期と島津侵攻後も機能していたことがわかっているが、遺構として明確に分離できないので、この段階で扱うこととする。

次に道路面から出土した遺物について説明する。

白磁

遺物は第83図414から第90図551である。414から418は中国産白磁である。414は口縁部が強く外側に折れ曲がるもの、415は直口のもの、416は菊花になる皿である。417は外面に縦方向にソギが入る碗？、418は蓋の摘みであるが、青花のものかもしれない。419は青白磁の梅瓶胴部。420と421は青磁である。420は内面見込みと体部との間に沈線が廻る龍泉窯の碗で、外面は無文である。421は見込みが丸く釉剥ぎされ、高台内も露胎の皿である。淡い発色から中国南方系の青磁皿である。

青磁

中国南方系

青花

422から434は青花の碗。その内429までが景徳鎮窯のもので、430から434は漳州窯青花である。422は見込みに団龍を描き、高台内に「富貴佳器」の銘款が書かれている。423は大振りの碗で、見込みに菊唐草文が、424と425は折枝文が描かれている。426は外面に菊花文が、427は唐草文が、428は暗花で花文？が描かれている碗である。429は菊花か。430から432は漳州窯青花の碗である。430と431は圏線のみで無文である。432には車輪状の文様が描かれる。433と434は浅い花碗で、唐草文が描かれる。

435から446は青花皿。その内441までが景徳鎮窯のもので、442から446は漳州窯青花である。435は森田分類E群に形態がある皿。

第82図　道路遺構の変遷

436から438は小野分類F群の皿と考えるが、形態はそれぞれ微妙に違う。436は口縁部が輪花となる。437は口縁部内外面に雲文のような文様がある。438には口縁部内面に文様がある。439は小野分類E群の皿で、龍が描かれる。440と441は底部の破片で、ともに団龍が描かれる。442から445は碁笥底の皿で、442は見込みに絵が描かれるが、443から445は釉剥ぎしている。446は見込みに荒い絵が描かれる。447と448は五彩の破片。449は褐釉の磁器で、外面には凹凸がある。

瑠璃釉
華南三彩

450は瑠璃釉の菊花皿。451と452は華南三彩で、451は鵜形水注の嘴（注ぎ口）、452は何らかの注ぎ口である。

453から456は中国製の陶器で、453と454は壺、455は鉢である。456は壺または甕の底部である。

舟徳利
茶入れ

457から460は朝鮮王朝産の陶器で、457は鉢、458と459は舟徳利の口縁部、460は碗である。461と462は瀬戸美濃系の天目塊と茶入れ。463は唐津焼、464は緑釉の破片。

465から478は備前焼。465は小壺、466は短頸壺、467と468は壺、469と470は鉢である。471から474は擂鉢。475から478は甕、478は甕の底部。479は常滑焼甕の口縁部である。

480から490は瓦質土器である。480から485は深鉢、486は浅鉢型の火鉢である。487は香炉か。488と489は鉢、490は擂鉢である。

焼き塩壺

491から499は土師質土器である。500は焼き塩壺の蓋の転用品、501は焼き塩壺の破片である。502は大型の土錘、503から509も素焼きの土錘である。510は丸瓦、511は平瓦である。丸瓦には幅の狭い吊紐痕がある。

窯道具

512は窯道具の「ハマ」である。おそらく景徳鎮窯のものであろう。513と514は硯。515は古代の須恵器、516は弥生土器である。

517から527は銅銭である。銅銭の銭種については遺物一覧表41を参照。

また、金属製品として528から549がある。

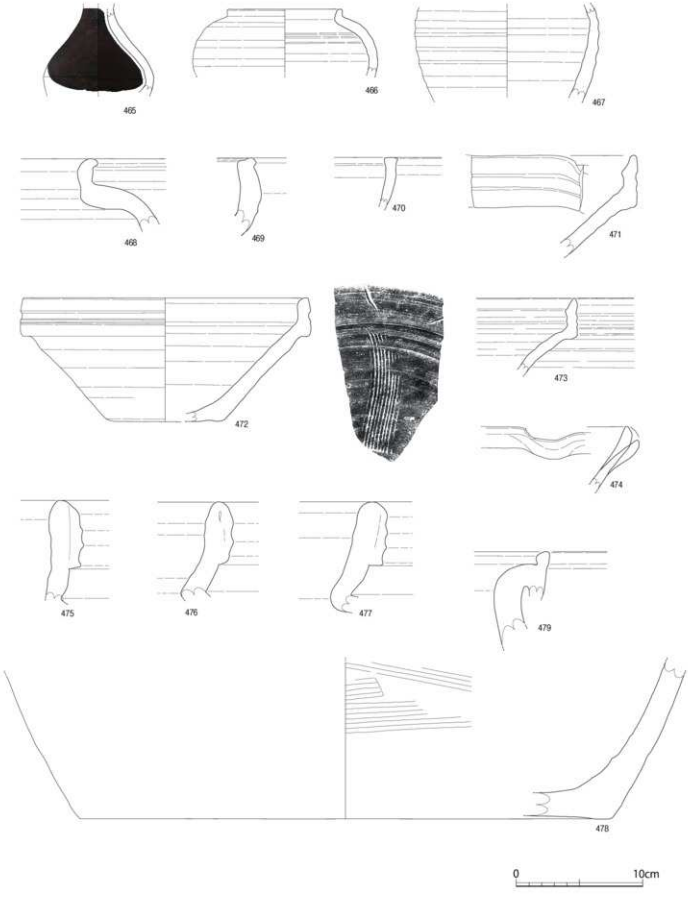
猿手金具
分銅
笄
ガラス小玉

528は屈曲し、表面に綾杉状の文様がある。種別は不明。529は煙管、530は猿手金具、534は鉄砲玉、539は繭形分銅、547は太鼓形分銅である。543は螺旋状に捻られている。544は接続部が螺旋状に溝が切られ、そこから髪状に１回転する銅製品である。548と549は笄である。その他は種別が不明である。550と551はガラス製の玉である。

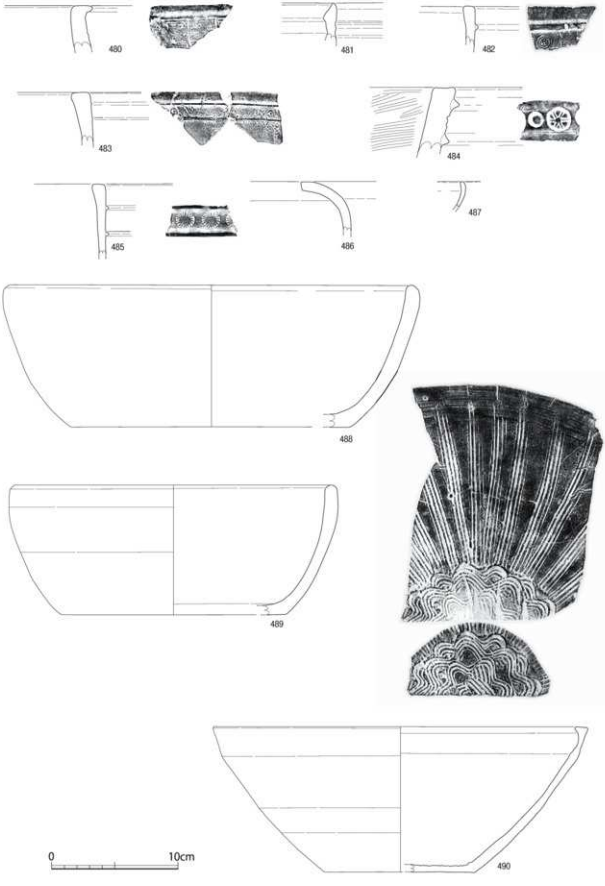
第83図　第２南北街路出土遺物(1)(1/3)

第84図　第２南北街路出土遺物(2)(1/3)

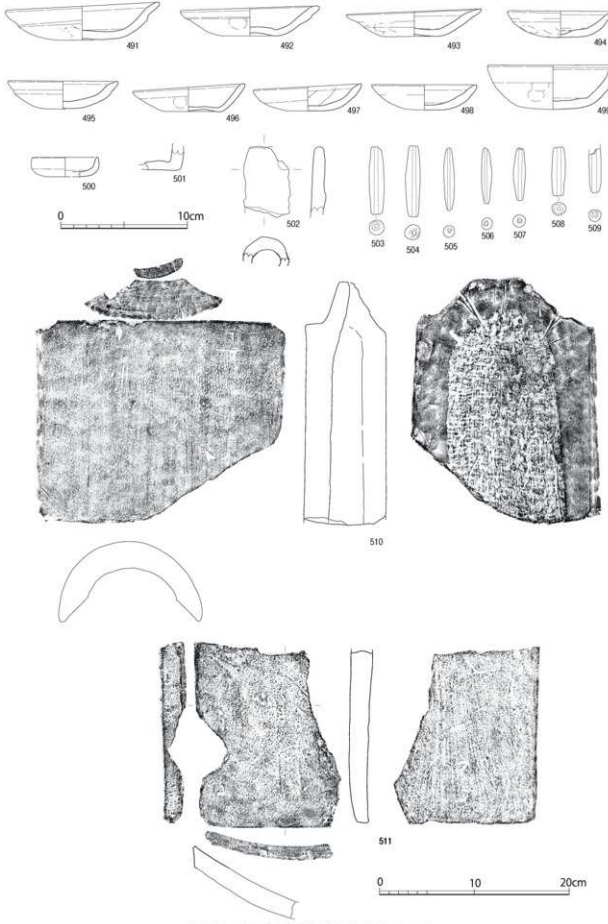
第85図　第２南北街路出土遺物(3)(1/3)



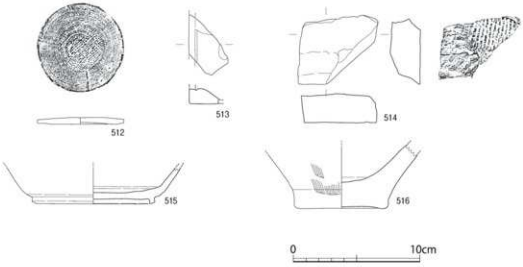
第86図　第２南北街路出土遺物(4)(1/3)



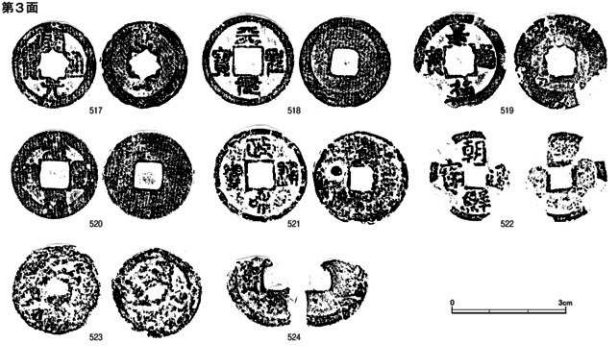
第87図　第２南北街路出土遺物(5)(1/3)



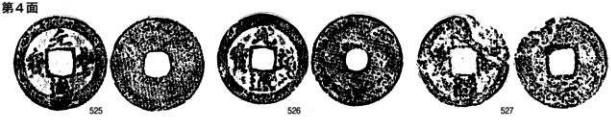
第88図　第２南北街路出土遺物(6)(1/3,1/4)



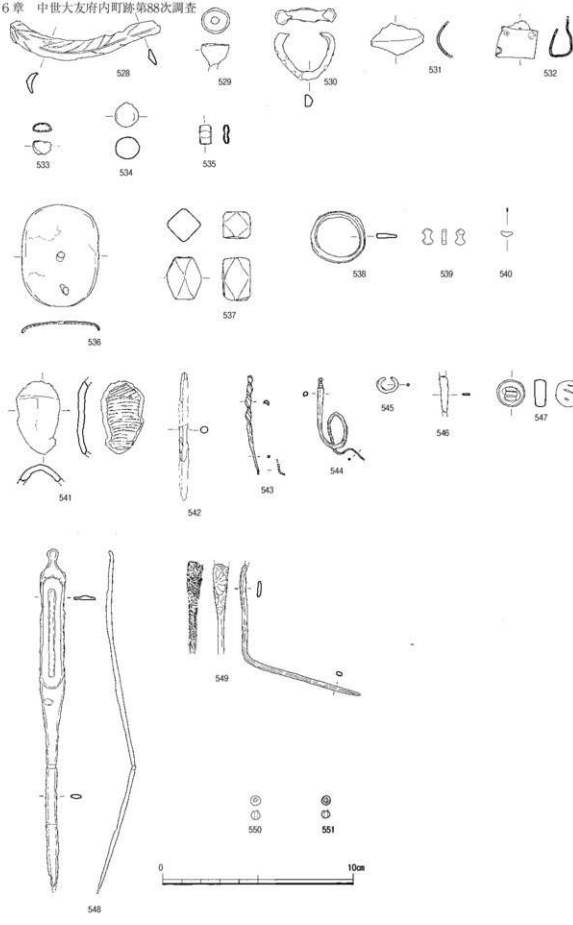
第３面



第４面



第89図　第２南北街路出土遺物(7)(1/1,1/3)



第90図　第２南北街路出土遺物(8) (1/2)

(2) 溝

SD033A（第91図）

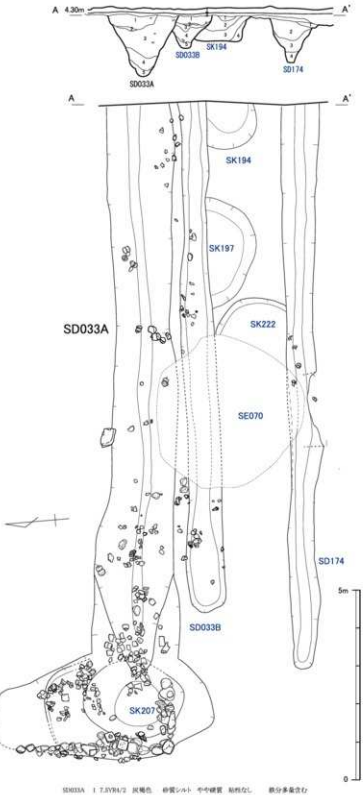
SD033A、Bは調査区の中央付近で東西に延びる溝である。当初は1本の溝と思われたが、掘り下げると2本であることがわかったため、新しい方をSD033A、古い方をSD033Bとした。SD033Bについては第Ⅰ段階の項で扱う。また、後述のSD207やSX206とSX208に関連することも明らかになった。

SD033Aは、幅1.4～2.0mで深さ1.5mの断面V字形を呈する。東側は調査区外で何処まで延びるか不明であるが、西側はSD207に繋がって終わる。そのSD207は、西側と南側に2～3段の石積みをしており、長方形を呈する池状の施設を作っていた可能性がある。SK207については後述する。

池状の施設

出土遺物は、第92図552から555は、SD033AとBを峻別できなかった段階の遺物である。552は碁笥底を呈するC群の青花皿で、内面には擬人化した「善」の文字が描かれる。553は瀬戸美濃系の天目椀。554は瓦質の火鉢。555は砥石。

第93図556から第101図640はSD033A出土。556から562までは青磁。556は胴部最大径を下部に持ち、下ぶくれとなる。上半部が不明であるが、この胴部形状からは罐（壺）ではなく、頸が長く伸びる瓶と思われる。胴部には下部には鎬のない退化？した連弁文、上部には唐草文を配す。557は盤か。外面は連弁文、内面見込みには丁寧な花文が描かれる。558は瓶と思われ、556と似た唐草文が



SD033A	1	7.5YR4/2	灰褐色	砂質シルト	やや硬質 粘性なし。 鉄分多量含む
	2	7.5YR4/4	褐色	砂質シルト	やや硬質 粘性なし。 炭壁セクション
	3	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	やや硬質 粘性ややあり 焼土粒・炭化物少量含む
	4	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	やや硬質 粘性ややあり 黄褐色ブロック少量含む
	5	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	やや硬質 粘性ややあり
SD033B	1	7.5YR4/2	灰褐色	砂質シルト	やや硬質 粘性なし。
	2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	やや硬質 粘性なし。
	3	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	やや硬質 粘性なし。 焼土少量含む
	4	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	やや硬質 粘性なし。 焼土・炭化物少量含む
	5	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	やや硬質 粘性ややあり 黄褐色ブロック少量含む
SK194	1	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	やや硬質 粘性なし。
	2	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	やや硬質 粘性なし。 炭化物・焼土粒少量含む
	3	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	やや硬質 粘性なし。 炭化物・焼土粒少量含む
	4	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	やや硬質 粘性ややあり 炭化物・焼土粒微量含む
SD174	1	10YR6/1	褐灰色	砂質シルト	やや硬質 粘性なし。 焼土粒・炭化物少量含む
	2	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	やや硬質 粘性なし。 焼土粒・小石少量含む
	3	10YR6/1	褐灰色	砂質シルト	やや硬質 粘性なし。 炭化物少量含む
	4	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	やや硬質 粘性ややあり 焼土粒・炭化物少量含む

第91図　SD033A SD033B SD174 SD194(1/100)

描かれる。559はこの部分だけでは青磁とはわからないが、他の類似する破片から青磁とした。内外とも釉薬が掛かっていない。外面には鹿の印花文様が描かれており、この露胎の部分が窓絵風になる器香炉台である（第３節第412図参照）。560は内面に釉薬が掛かっていないので、瓶などの胴部破片であろう。文様は印花による八卦文。561と562は椀の高台部。563は白磁の瓶？。564は白磁の小型杯。565五彩の碗。566は青花の碗。567から570は中国製の褐釉の壺。571は中国製の可能性がある焼き締め陶器の壺。572は瀬戸美濃系の折縁皿。付け高台で、内面見込に印花文が施される。573から580は備前焼。573と574は壺、575から580は擂鉢。581から592は瓦質土器。581は鉢、582は椀、583と584は鍋である。585は連続する菱形文のスタンプ文が巡る花瓶か。586から592は火鉢である。593から597は土師器で、596と597は京都系土師器である。600から603は軒平瓦。600と601は中心飾りが菱形のａ類、602と603は中心飾りが宝珠のｃ類である。604から615は丸瓦。内面の吊紐痕は大振りのものと九州タイプとされる巾の狭い多条のものが混在する。616から619は平瓦。巾は618で24cmで、22cm前後のSD120（16世紀後葉）のものよりやや大きくて、26cm前後のSK061（15世紀後半代）のものよりは小型である。620は鬼瓦の角か。621は雁振瓦である。622と623はメンコで、623は素焼き、622は陶器である。624は瓦質の土鈴、625は石臼、626は砥石である。627から629は銅銭。630から640は五輪塔空風輪で、630と635には梵字が刻まれている。630は四方に「キャ」「キャー」「ケン」「キャク」となる。

鹿の印花文

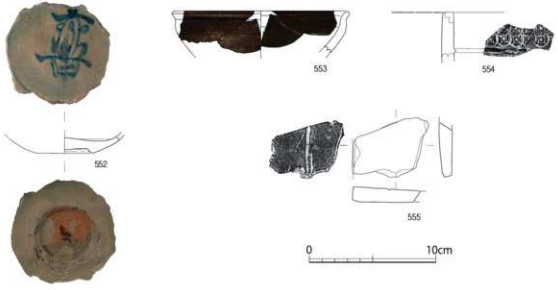
八卦文

九州タイプの吊紐痕

雁振瓦

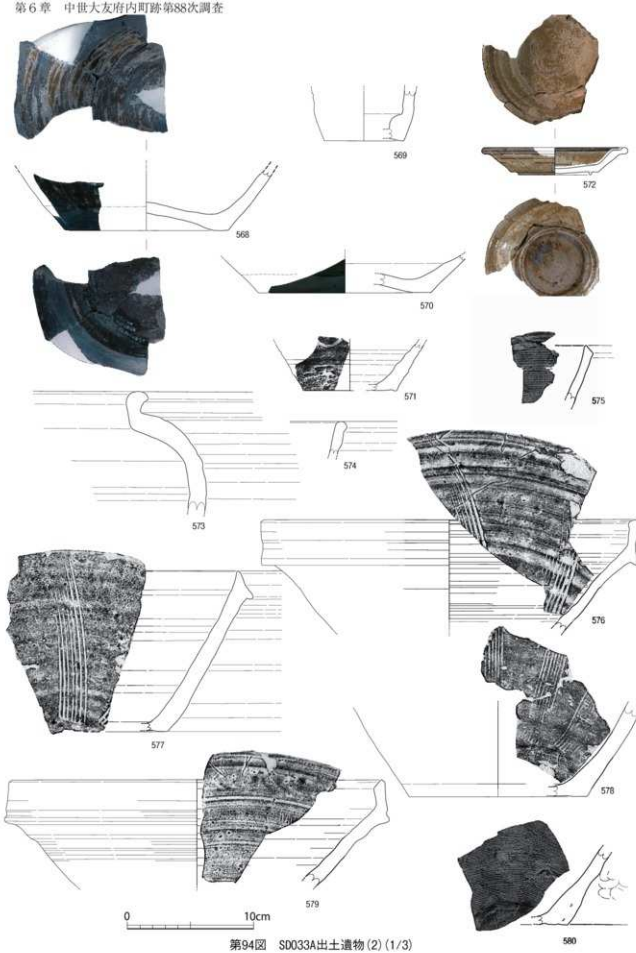
梵字

これらの遺物から遺構の時期を考えると、青磁や備前焼などに古い要素を持つものが含まれるが、これらはSD033Aが切っているSD162からの混入品であろう。572の瀬戸美濃系の折縁皿は器高が低くなり、1590年を挟んだ３期後半から４期前半のものであり、また京都系土師器を見ると、SD120でも出土している器高の高いもの（596）があるなど、遺構の埋没時期は1580年～1590年前後を示している。

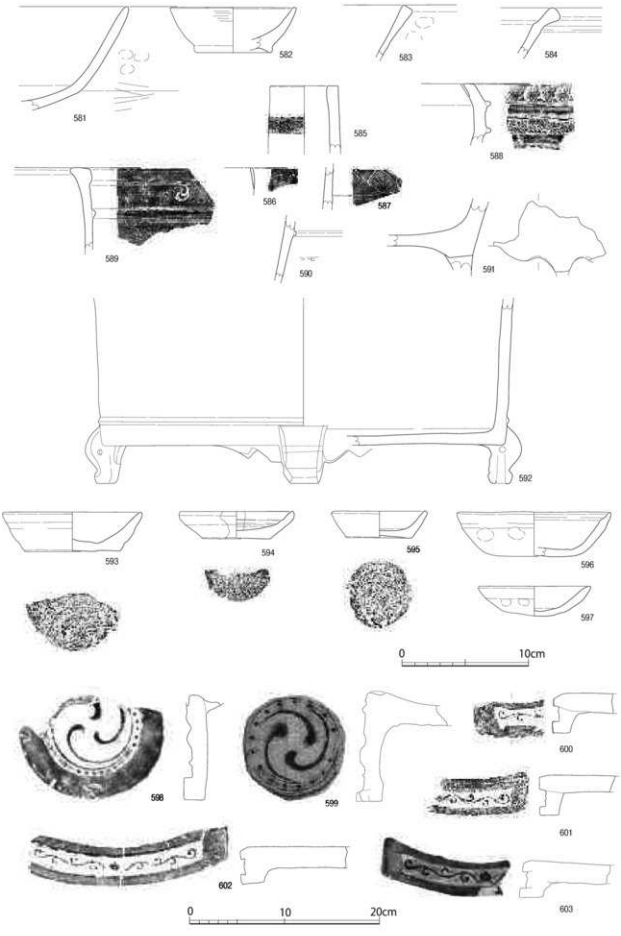


第92図　SD033出土遺物(1/3)

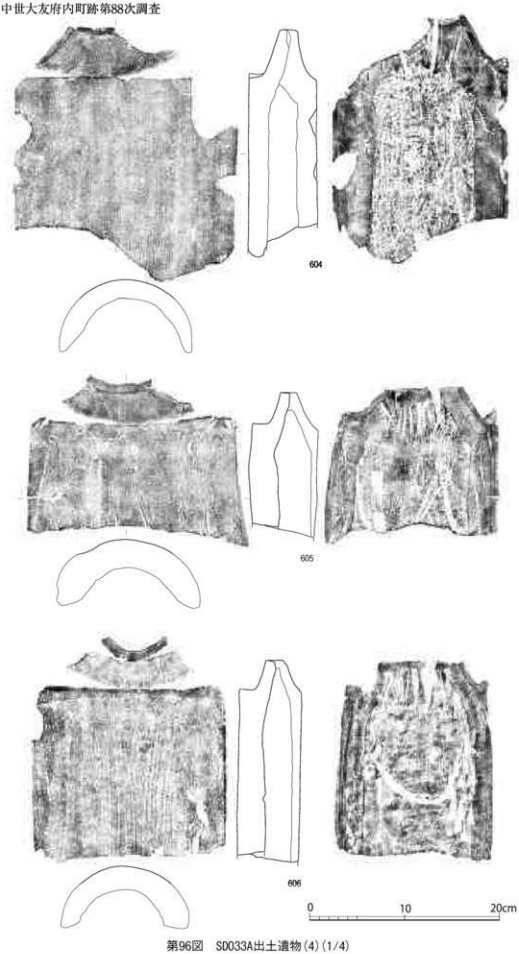
第93図　SD033A出土遺物(1)(1/3)



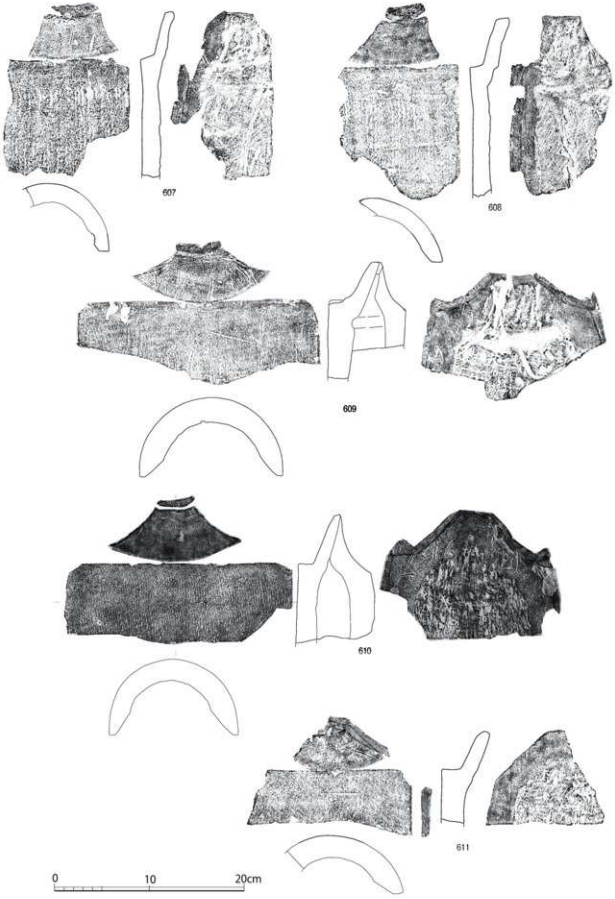
第94図　SD033A出土遺物(2)(1/3)



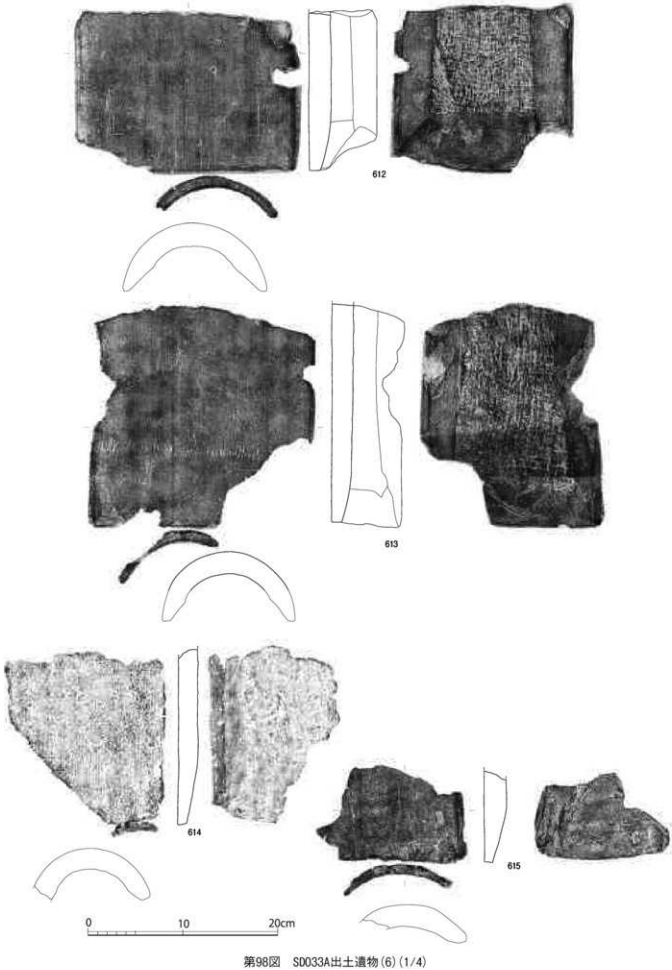
第95図　SD033A出土遺物(3)(1/3,1/4)



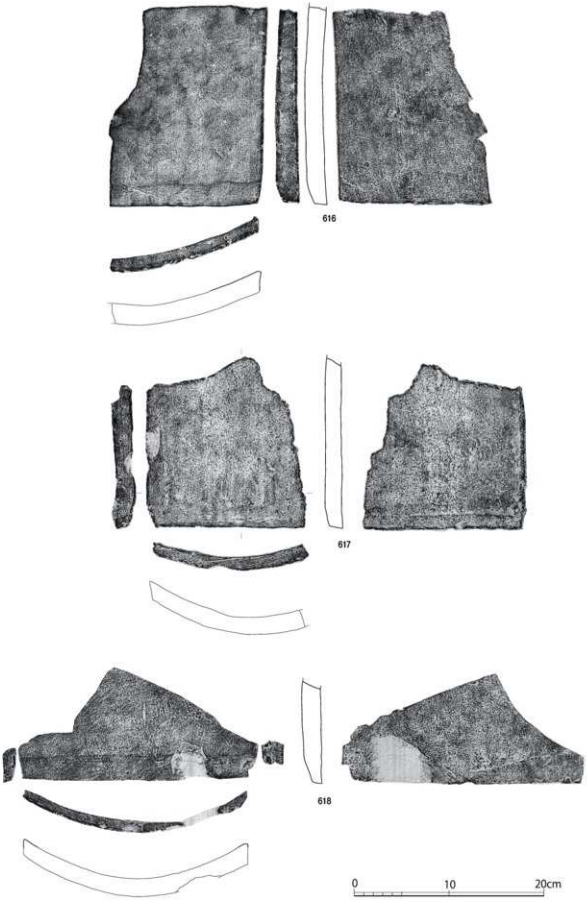
第96図　SD033A出土遺物(4)(1/4)



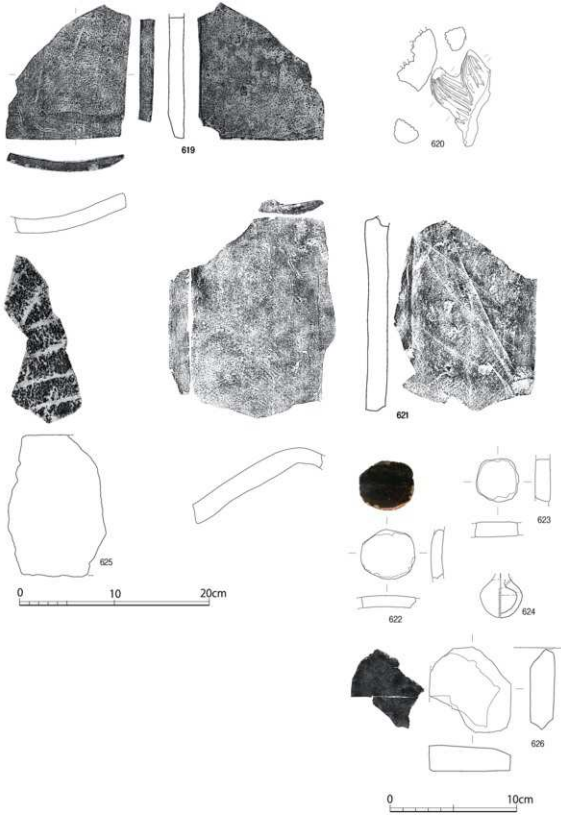
第97図　SD033A出土遺物(5)(1/4)



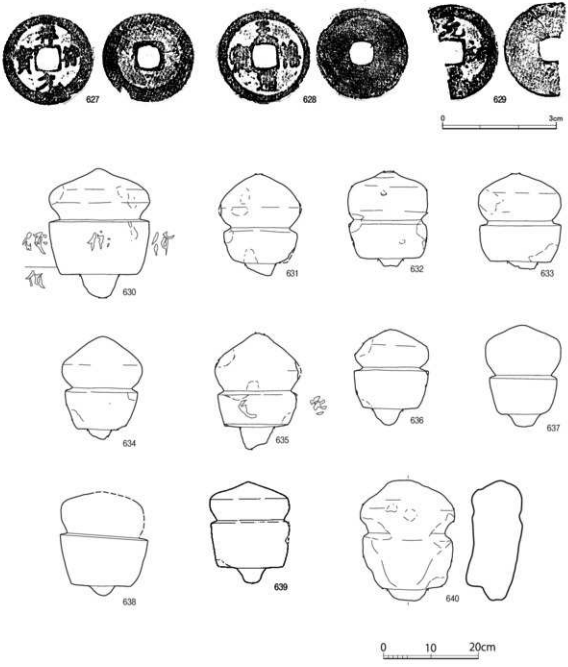
第98図　SD033A出土遺物(6)(1/4)



第99図　SD033A出土遺物(7)(1/4)



第100図　SD033A出土遺物(8)(1/3,1/4)



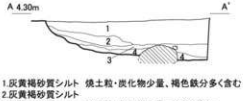
第101図　SD033A出土遺物(9)(1/1,1/8)

SD035（第102図）

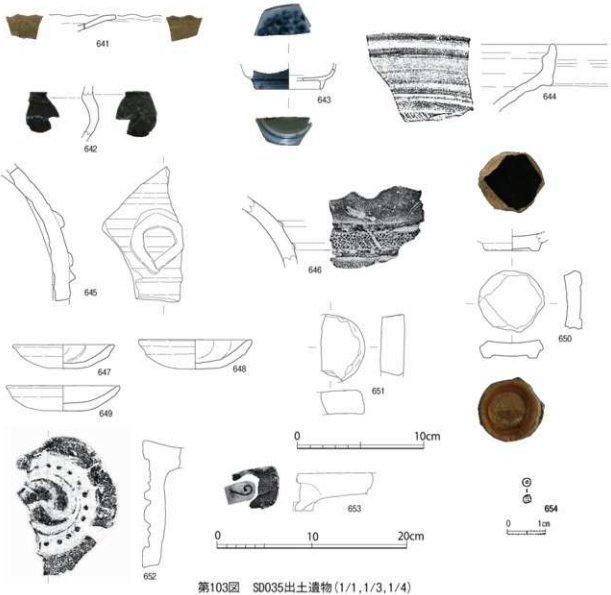
第２南北街路の西側側溝の内、最も新しいものである。ただし、南北に延びる溝と考えられる遺構の内、西側の立ち上がりは調査区外であり、確認できなかった。また、南側は、SD043を切って終結すると判断し、西側に折れ曲がることを想定したが、断定はできない。調査区内では南北の長さは7.88m確認している。深さは0.44mである。

出土遺物は第103図641から654である。641と642は青磁で、641は無文の稜花皿、642は帖花による花弁唐草文で、壺か。643は内傾する高台を持つ景徳鎮窯青花。644と645は備前焼。645は水屋甕である。646は瓦質土器で、２条の突帯間に菱形文のスタンプを押す。647から649は京都系土師器。650は瀬戸美濃系天目椀のメンコ、651は瓦質土器のメンコである。652は軒丸瓦、653は軒平瓦である。

ガラス小玉　654はガラス製の小玉である。



第102図　SD035(1/40)



第103図　SD035出土遺物(1/1,1/3,1/4)

SD071（第104図）

調査区中央を南北に延びる溝で、幅は1.8～2.3m、深さは10～15cm程度と浅く、北側については検出出来なかった。南側も、特に東側の立ち上がりは不明瞭であった。北側で検出出来なくなった所にはSK207の池状遺構がある。SD071が本来はもっと北側まで延びていたとすれば、SK207と一部重なることになるが、状況からして同時期に機能していた可能性が高い。そう考えられるとすると、SD071の溝の性格は、SD120の堀、堀に水を通す暗渠排水施設であるSX206とSX208の存在からして、暗渠の上に築かれた土塁、あるいは築地（検出は出来ていない）の内側に沿って掘られた溝と考えることが出来よう。遺物は拳大の礫とともに西側（土塁などがあるとすれば土塁側）から流れ込んだような状況で出土している。

築地内側の溝

出土遺物は第105図655から第109図718である。655から659は青磁。655は鎬縁盤で、口縁端部が上方に摘み上げられている。無文。656は瓶の口か。657は芭蕉文が印花されている瓶。658は腰が緩やかに折れる無文の皿。659は稜花皿で、内面に圏線と唐草文を描く。660から662は白磁。660は畳付けの部分が釉剥ぎされる皿で、見込みに花文？が線描きされる。661は口縁端部が玉縁状に

なる小皿。662は無文の直口の碗。663と664は景徳鎮窯青花。663は大皿で、鹿の絵が描かれる。664は外面に花卉唐草、内面に石と植物を描く皿。665は華南三彩で、部位は不明である。666は朝鮮王朝産の徳利底部。667と668はベトナム産長胴瓶。669は中国産の褐釉の壺。670と671も中国産か。672はタイ産の壺底部か。673から677は瀬戸美濃系。673と674は天目茶碗。675は鉢皿。676は取っ手か注ぎ口の剥がれた跡があるので水注か。677は壺。

ベトナム産長胴瓶

タイ産の壺

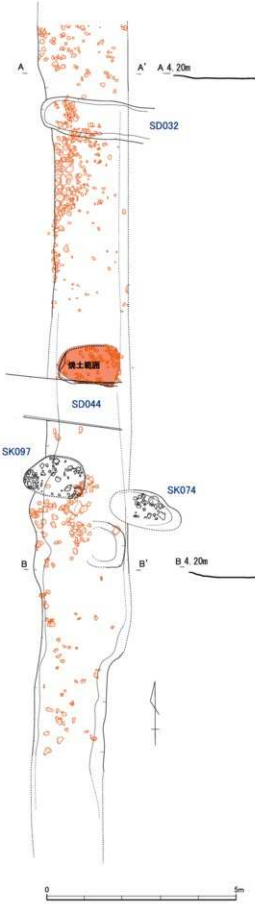
678から690は備前焼。678は小型の壺。679は茶入れ。口縁端部が内側に出っ張る。680は徳利の底部。681から683は擂鉢。682は交差摺り目となる。684から687は壺、588から690は甕。691から699は瓦質土器。691から695は鉢、鍋。696と697は火鉢、698と699は風炉か。700から702は土師器で、いずれも糸切り底である。ただし、小破片では京都系土師器も出土している。

備前焼茶入れ

交差摺目

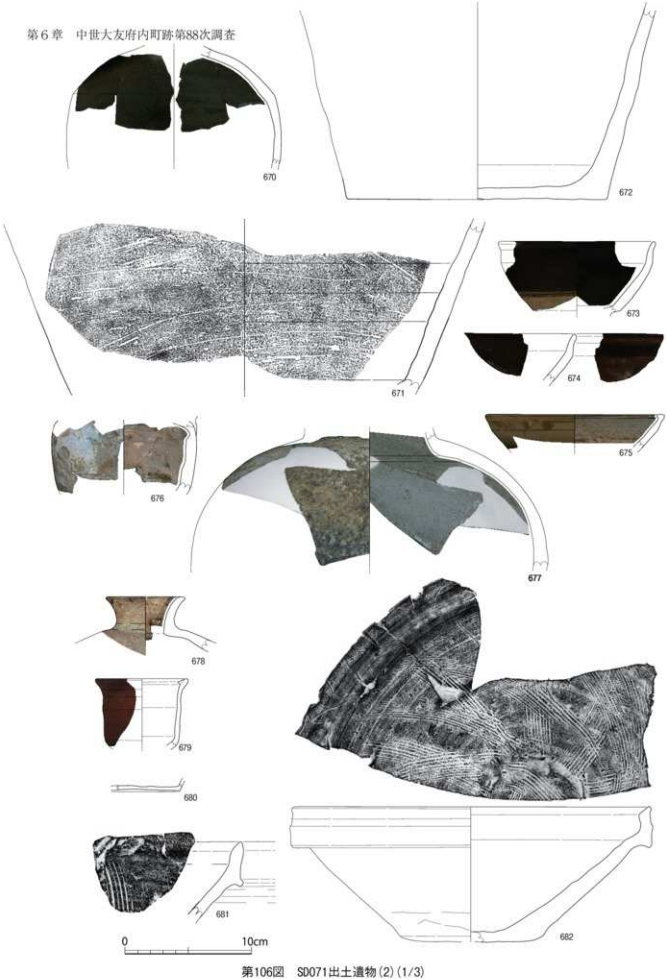
703から713は瓦。703は軒丸瓦で、珠点が17個のB類である。704の内面には大きな吊紐痕がある。714は素焼きの土錘、715と716は硯。717は石臼の下臼である。718は型宋元宝である。

遺構の時期は、交差摺り目の備前焼擂鉢やベトナム産長胴瓶などがある点はSD120と共通するので、この項の冒頭で記したように、SD120などと一体となった遺構群と評価し、天正年間の前半代を中心とした時期とする。

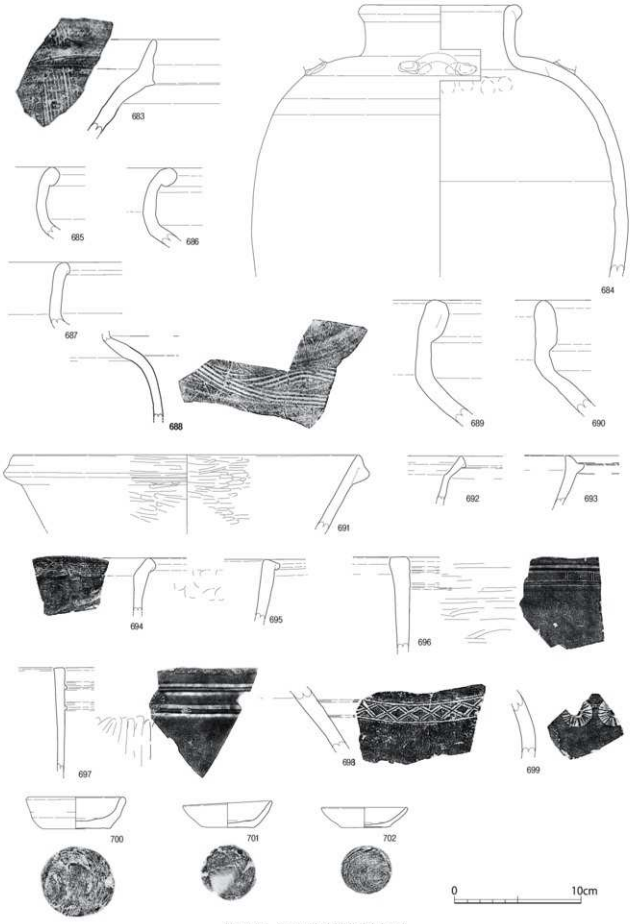


第104図　SD071(1/100)

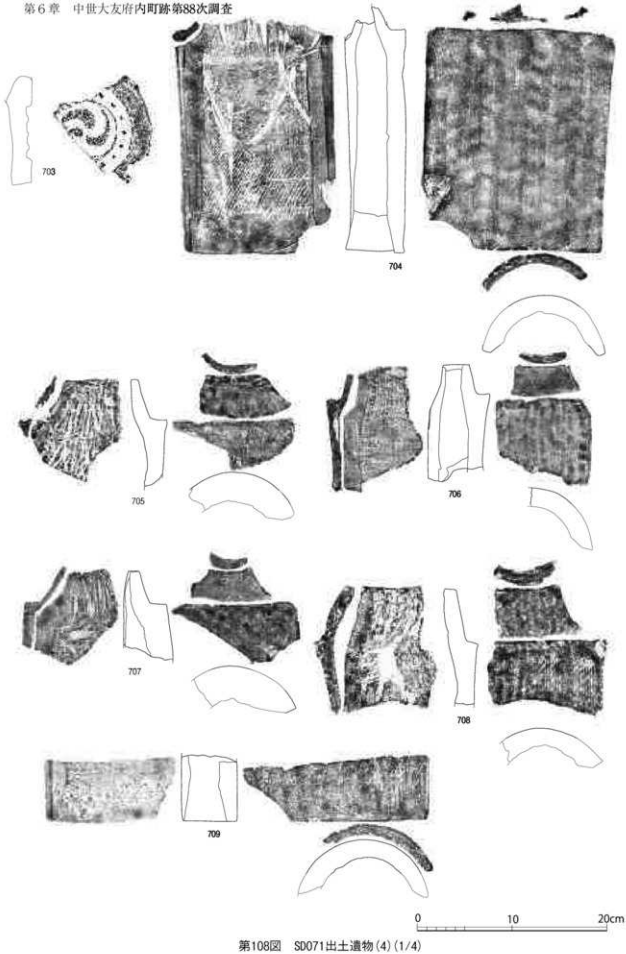
第105図　SD071出土遺物(1)(1/3)



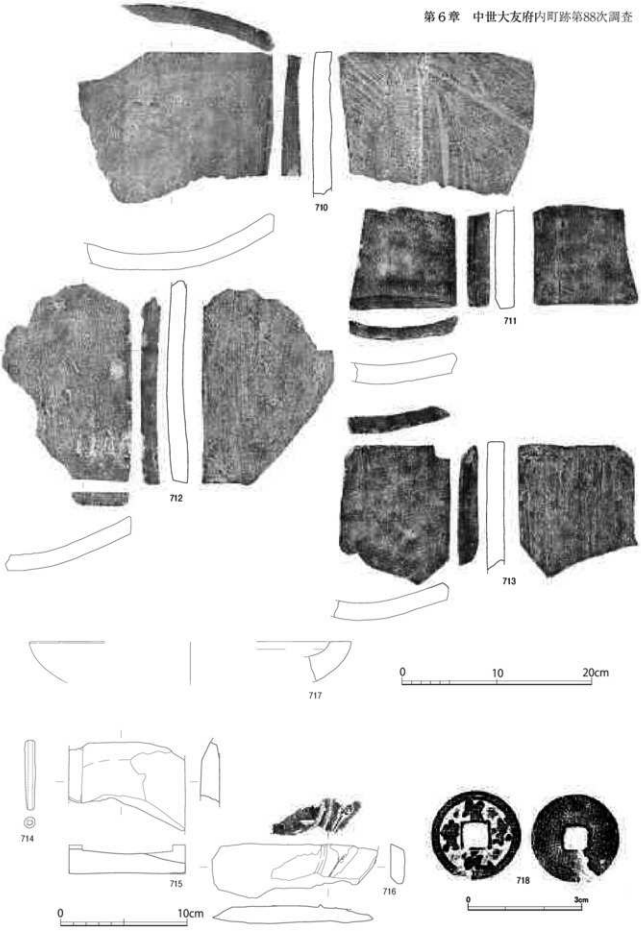
第106図　SD071出土遺物(2)(1/3)



第107図　SD071出土遺物(3)(1/3)



第108図　SD071出土遺物(4)(1/4)



第109図　SD071出土遺物(5)(1/1,1/3,1/4)